

### Ⅲ 調査結果の分析



### Ⅲ 調査結果の分析

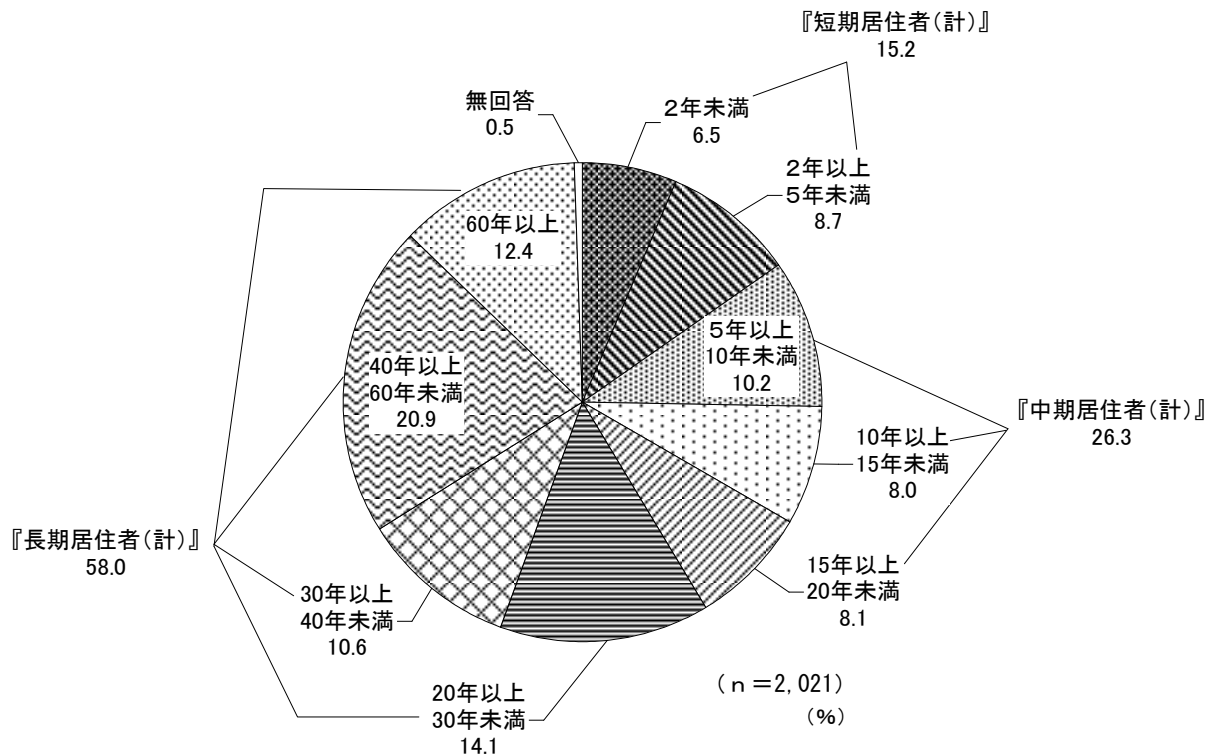
#### 1. 定住性

##### (1) 居住年数

◇20年以上住んでいる方を表す『長期居住者（計）』は6割近く

問1 あなたは、大田区にお住まいになって何年ですか。(○は1つだけ)

図1-1-1

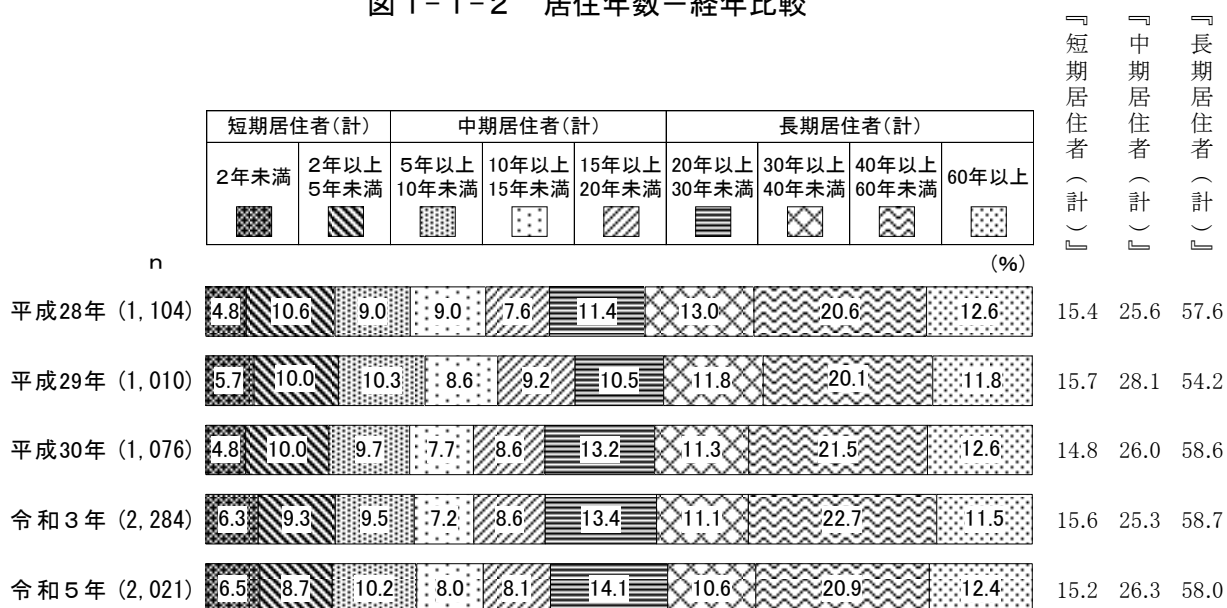


※『長期居住者（計）』：居住年数20年以上  
『中期居住者（計）』：居住年数5年以上20年未満  
『短期居住者（計）』：居住年数5年未満

居住年数を聞いたところ、「40年以上60年未満」(20.9%)が約2割で最も高く、これに「20年以上30年未満」(14.1%)、「30年以上40年未満」(10.6%)、「60年以上」(12.4%)を合わせた『長期居住者(計)(居住年数20年以上)』(58.0%)は6割近くとなっている。「5年以上10年未満」(10.2%)、「10年以上15年未満」(8.0%)、「15年以上20年未満」(8.1%)を合わせた『中期居住者(計)(居住年数5年以上20年未満)』(26.3%)は2割半ばで、「2年未満」(6.5%)と「2年以上5年未満」(8.7%)を合わせた『短期居住者(計)(居住年数5年未満)』(15.2%)は1割半ばとなっている。

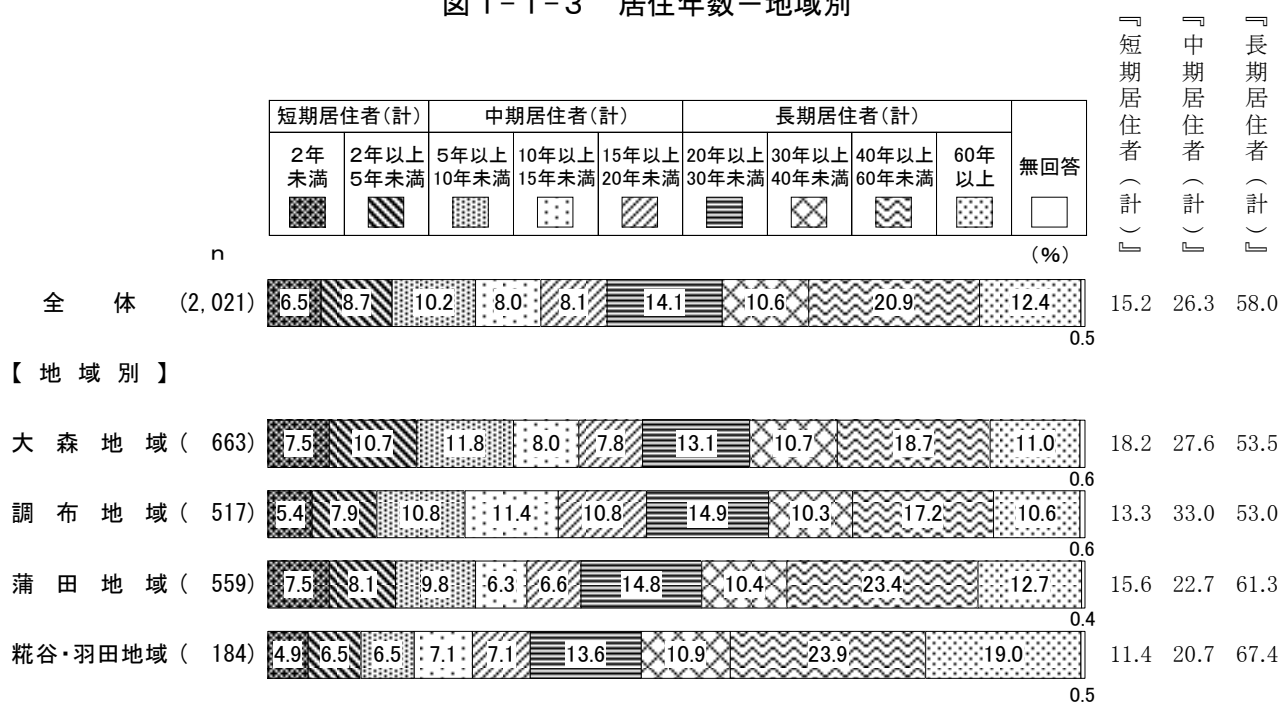
(図1-1-1)

図 1-1-2 居住年数一経年比較



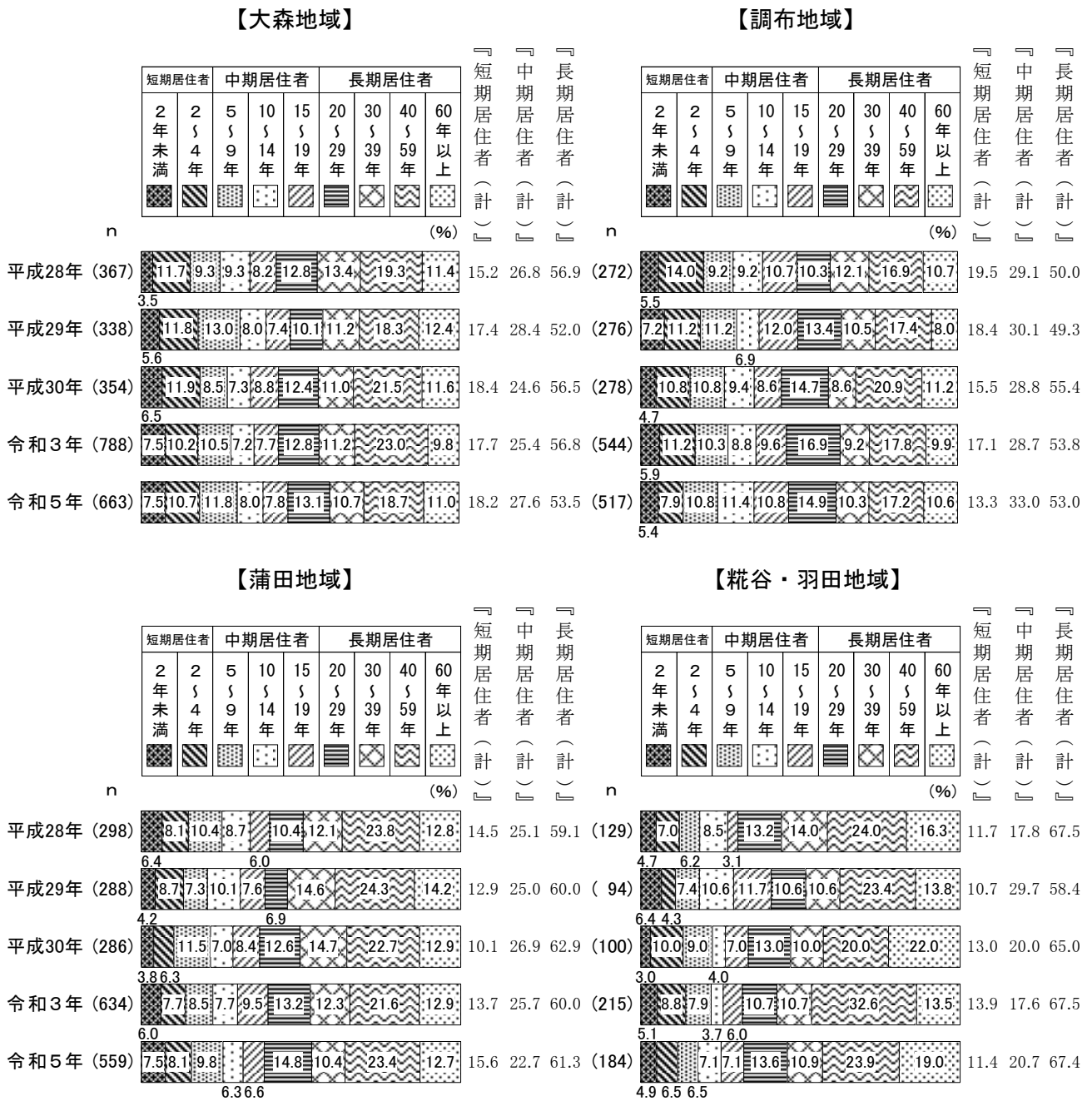
経年比較をみると、『長期居住者(計)』は平成29年以降増加傾向にあったが、今回調査では減少に転じている。(図1-1-2)

図 1-1-3 居住年数一地域別



地域別でみると、『長期居住者(計)』は糞谷・羽田地域(67.4%)で7割近くと高くなっている。『中期居住者(計)』は調布地域(33.0%)で3割を超えて高くなっている。『短期居住者(計)』は大森地域(18.2%)で2割近くとなっている。(図1-1-3)

図 1-1-4 居住年数—地域別（経年比較）



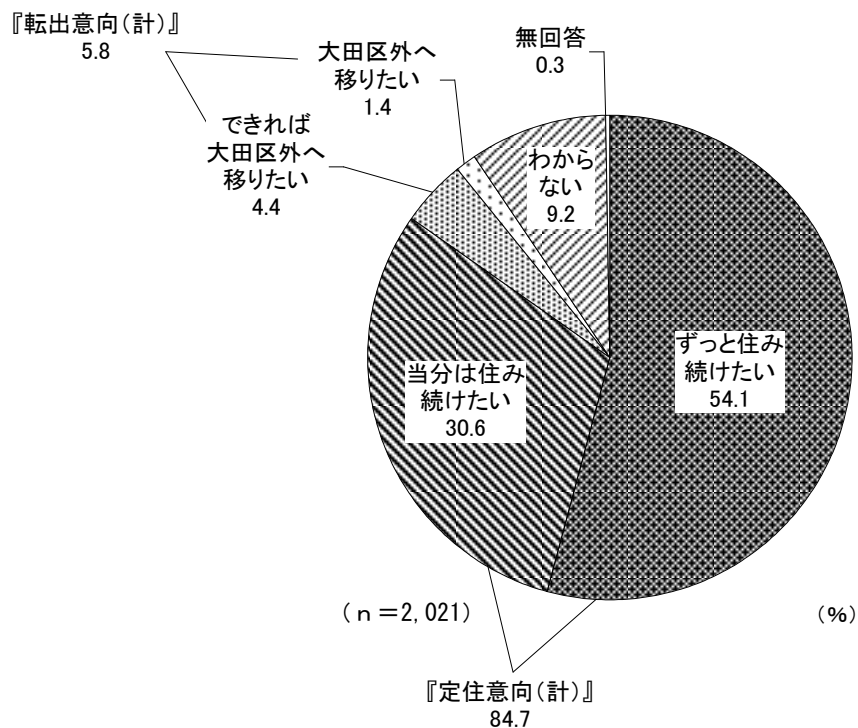
地域別で経年比較をみると、『短期居住者（計）』は調布地域で前回より3.8ポイント減少している。『中期居住者（計）』は調布地域で前回より4.3ポイント、糀谷・羽田地域で前回より3.1ポイント、それぞれ増加し、蒲田地域で前回より3.0ポイント減少している。『長期居住者（計）』は大森地域で前回より3.3ポイント減少している。（図 1-1-4）

## (2) 定住意向

◇「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合わせた『定住意向(計)』は8割半ば

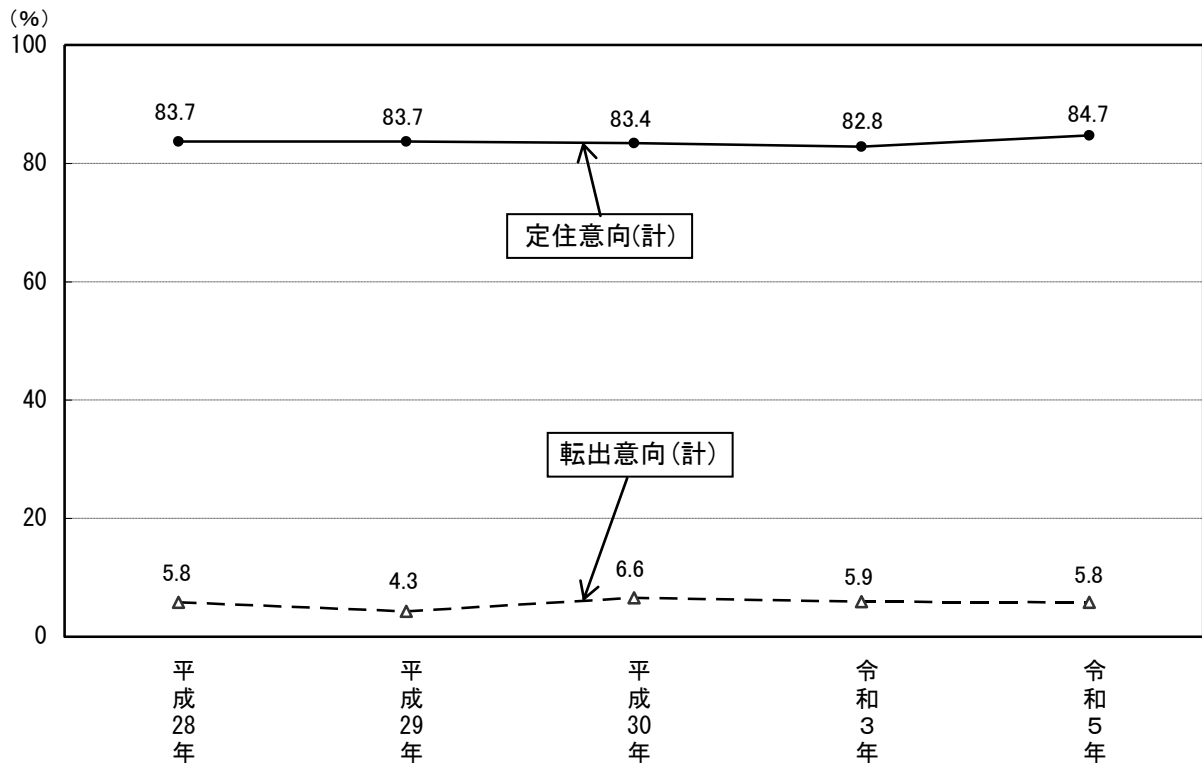
問2 あなたは、これからも大田区に住みたいと思いますか。(○は1つだけ)

図1-2-1



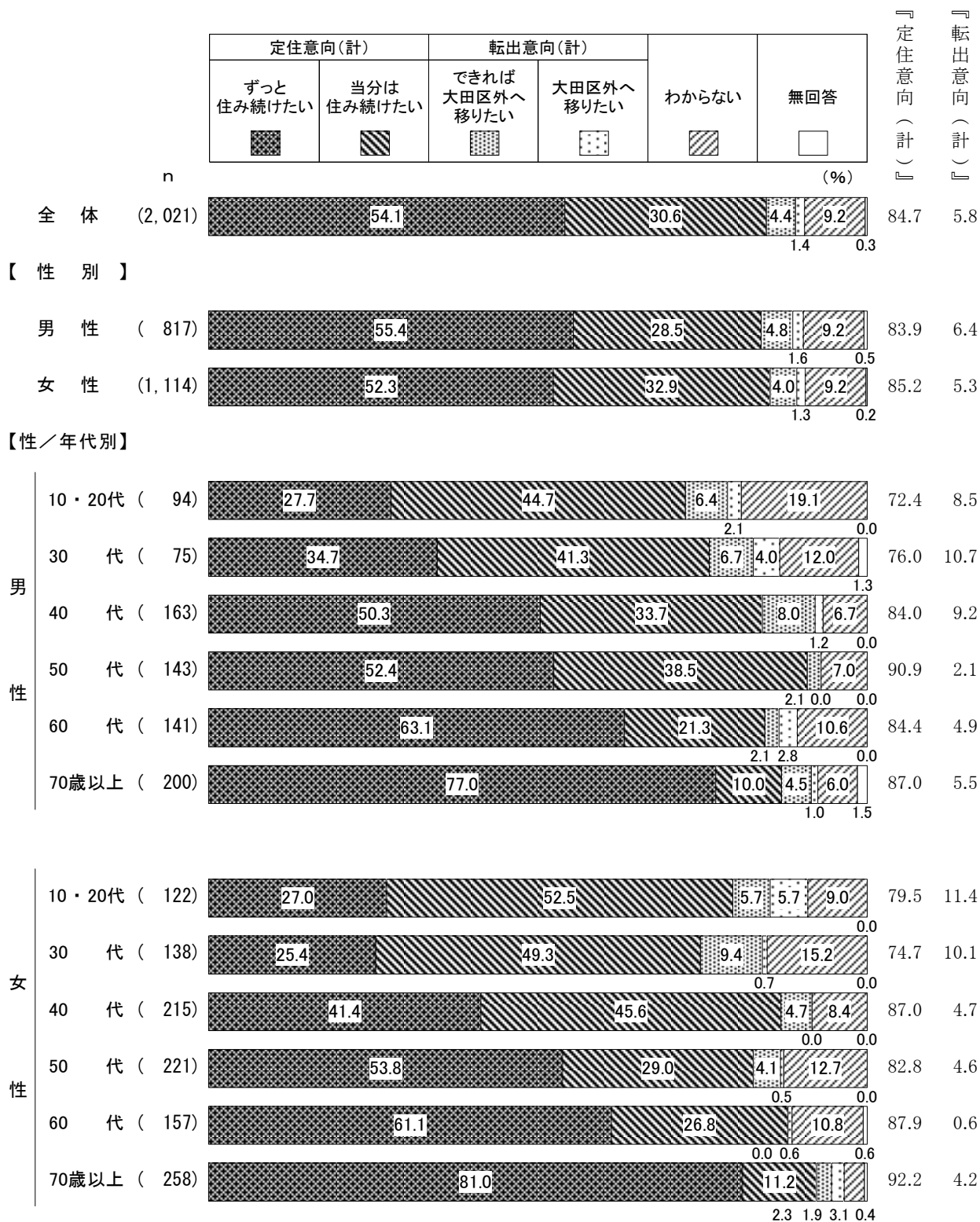
定住意向を聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(54.1%)が5割半ばで最も高く、これに「当分は住み続けたい」(30.6%)を合わせた『定住意向(計)』(84.7%)は8割半ばとなっている。一方、「できれば大田区外へ移りたい」(4.4%)と「大田区外へ移りたい」(1.4%)を合わせた『転出意向(計)』(5.8%)は1割未満となっている。(図1-2-1)

図 1-2-2 定住意向一経年比較



経年比較をみると、『定住意向（計）』は平成28年以降8割台で推移している。（図1-2-2）

図 1-2-3 定住意向一性／年代別

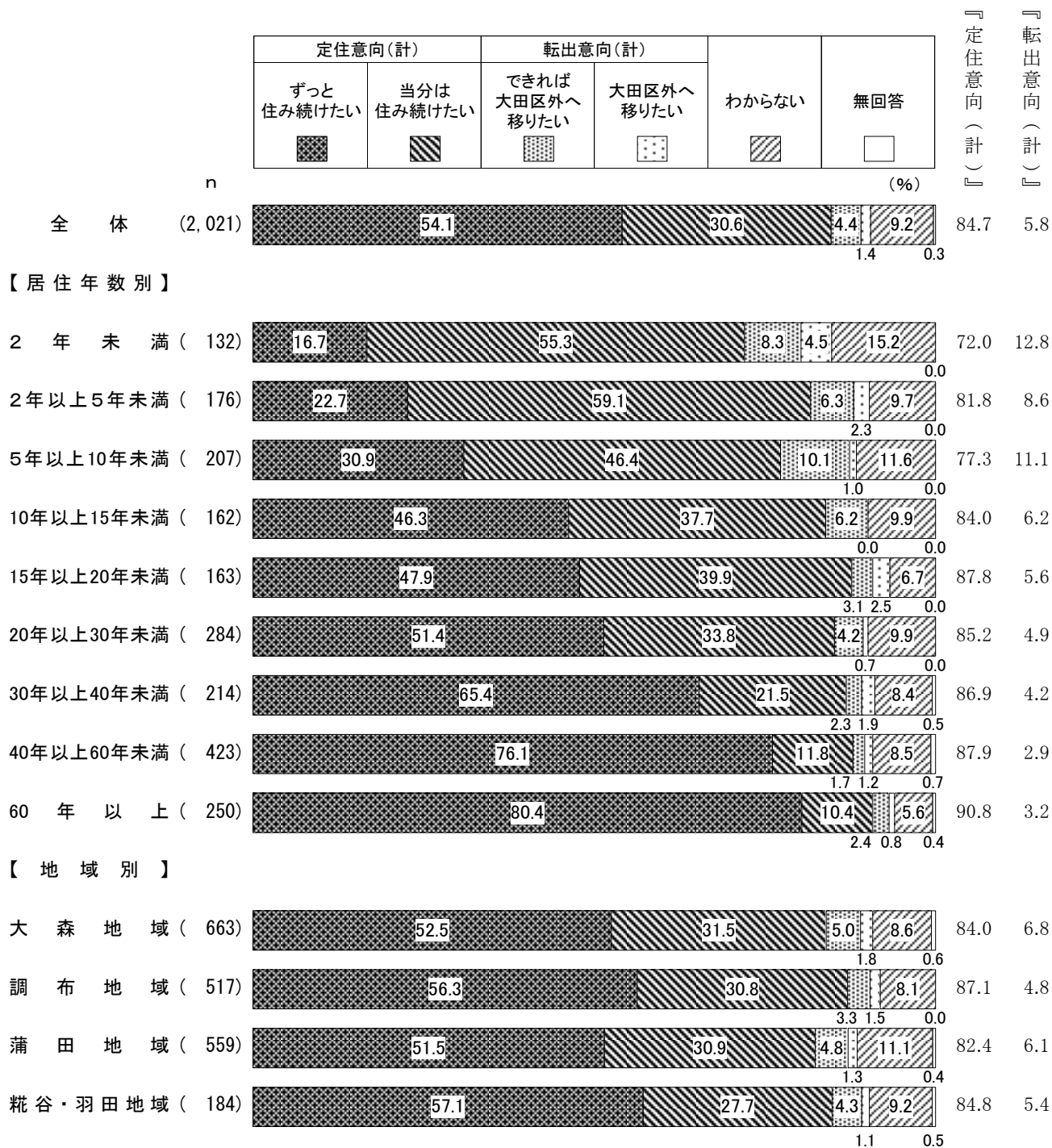


性別でみると、「ずっと住み続けたい」は男性（55.4%）が女性（52.3%）より3.1ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「ずっと住み続けたい」は男女ともにおおむね年代が高くなるほど割合が高く、女性70歳以上（81.0%）で8割を超え、男性70歳以上（77.0%）で8割近くとなっている。『定住意向（計）』は女性70歳以上（92.2%）で9割を超えて高くなっている。（図1-2-3）



図 1-2-4 定住意向—居住年数別、地域別

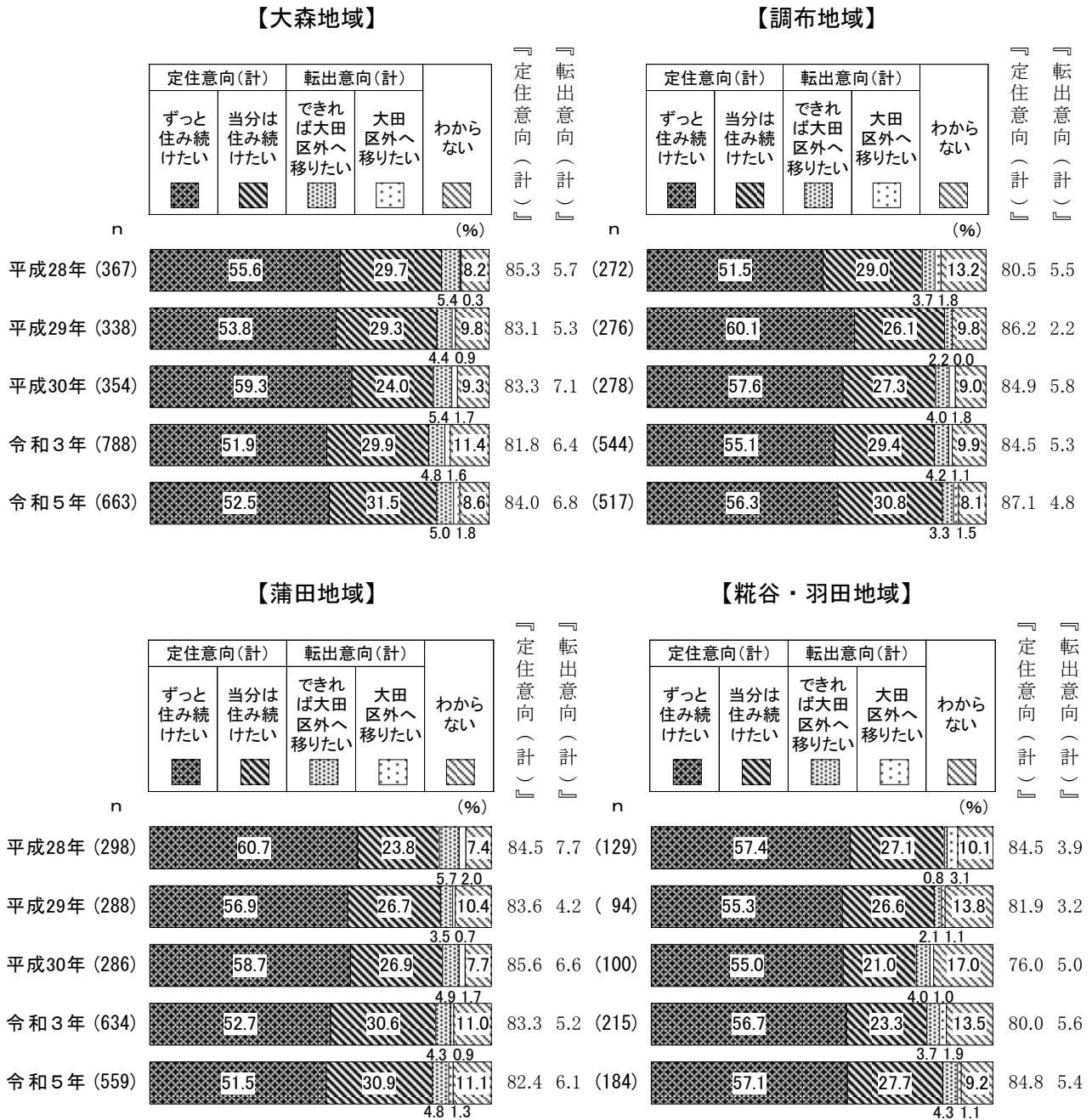


居住年数別で見ると、「ずっと住み続けたい」は居住年数が長くなるほど割合が高く、「居住年数60年以上」(80.4%)で8割となっている。『定住意向(計)』は「居住年数60年以上」(90.8%)で約9割と高くなっている。

地域別で見ると、『定住意向(計)』は調布地域(87.1%)で9割近くと高くなっている。

(図 1-2-4)

図 1-2-5 定住意向—地域別（経年比較）



地域別で経年比較をみると、『定住意向（計）』は糎谷・羽田地域で前回より4.8ポイント増加している。（図 1-2-5）

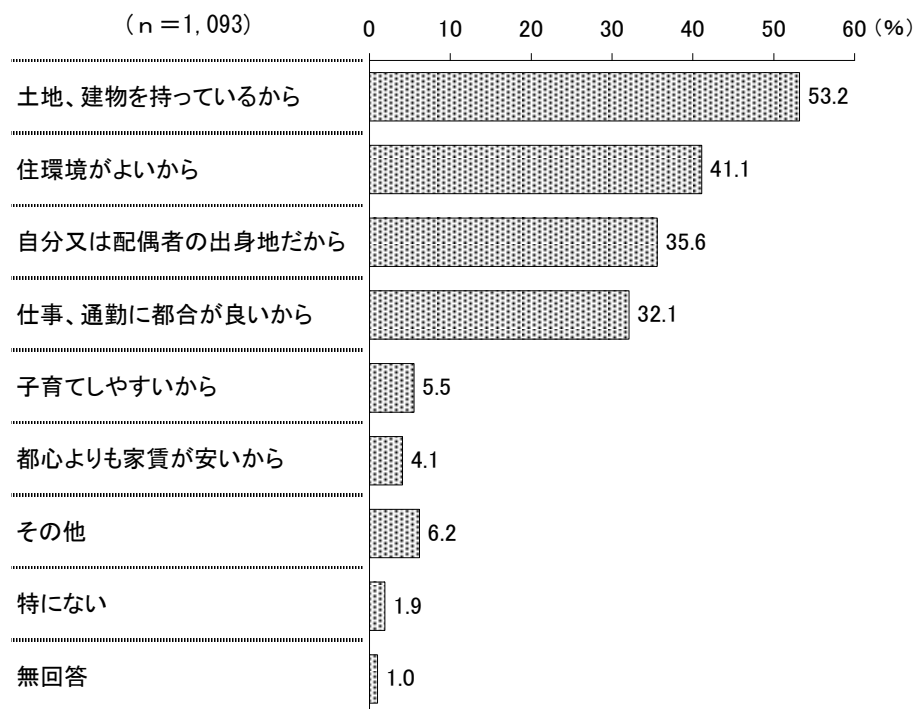
### (3) ずっと住みたい理由

◇「土地、建物を持っているから」が5割を超える

(問2で、「ずっと住みたい」と回答した方に)

問2-1 「ずっと住みたい」理由は何ですか。(〇はいくつでも)

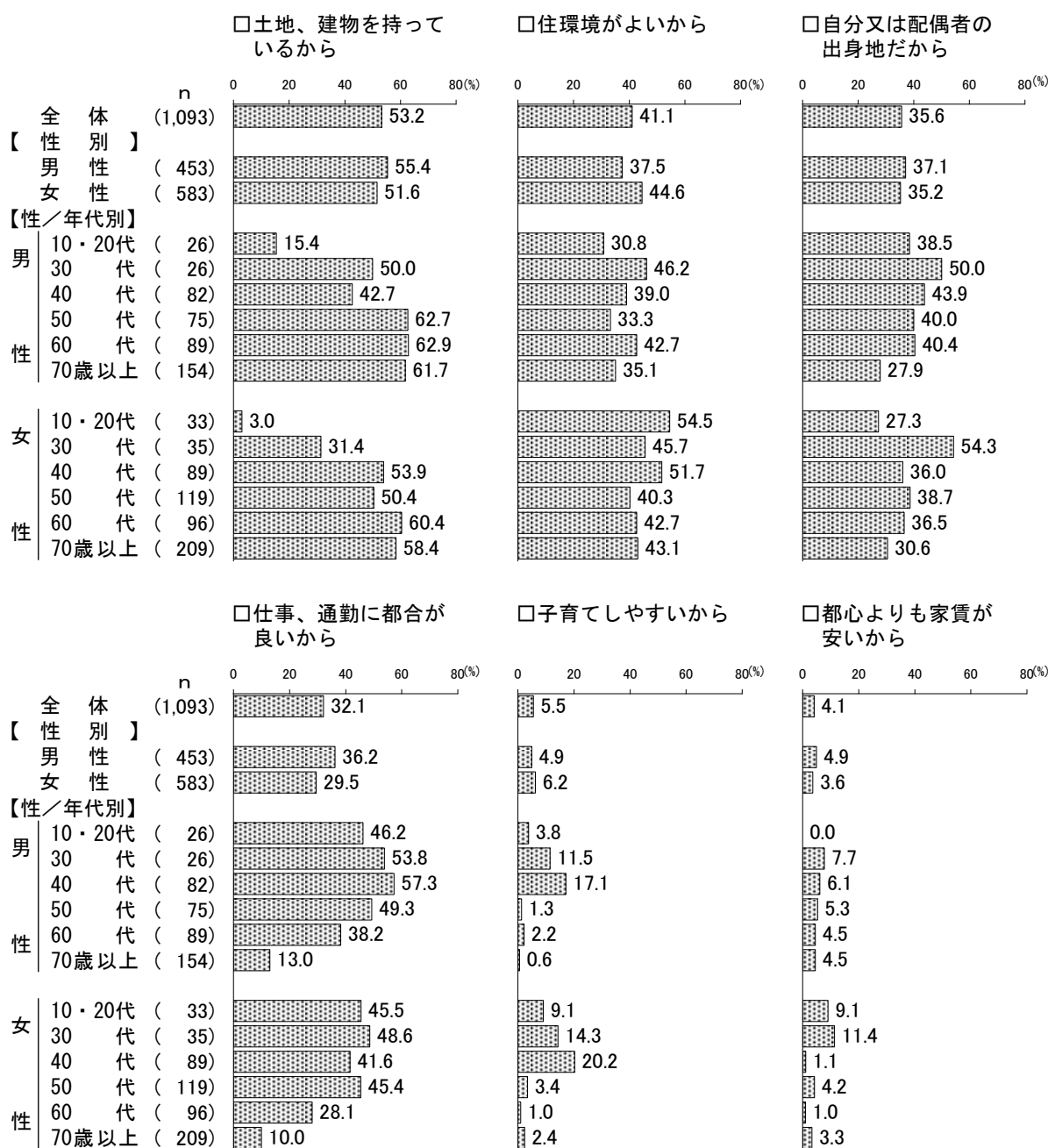
図1-3-1



これからも大田区に「ずっと住みたい」と答えた人(1,093人)に、その理由を聞いたところ、「土地、建物を持っているから」(53.2%)が5割を超えて最も高く、次いで「住環境がよいから」(41.1%)、「自分又は配偶者の出身地だから」(35.6%)、「仕事、通勤に都合が良いから」(32.1%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「交通の便が良い」、「住み慣れている」、「家族や親族が近くに住んでいる」などがあげられている。(図1-3-1)

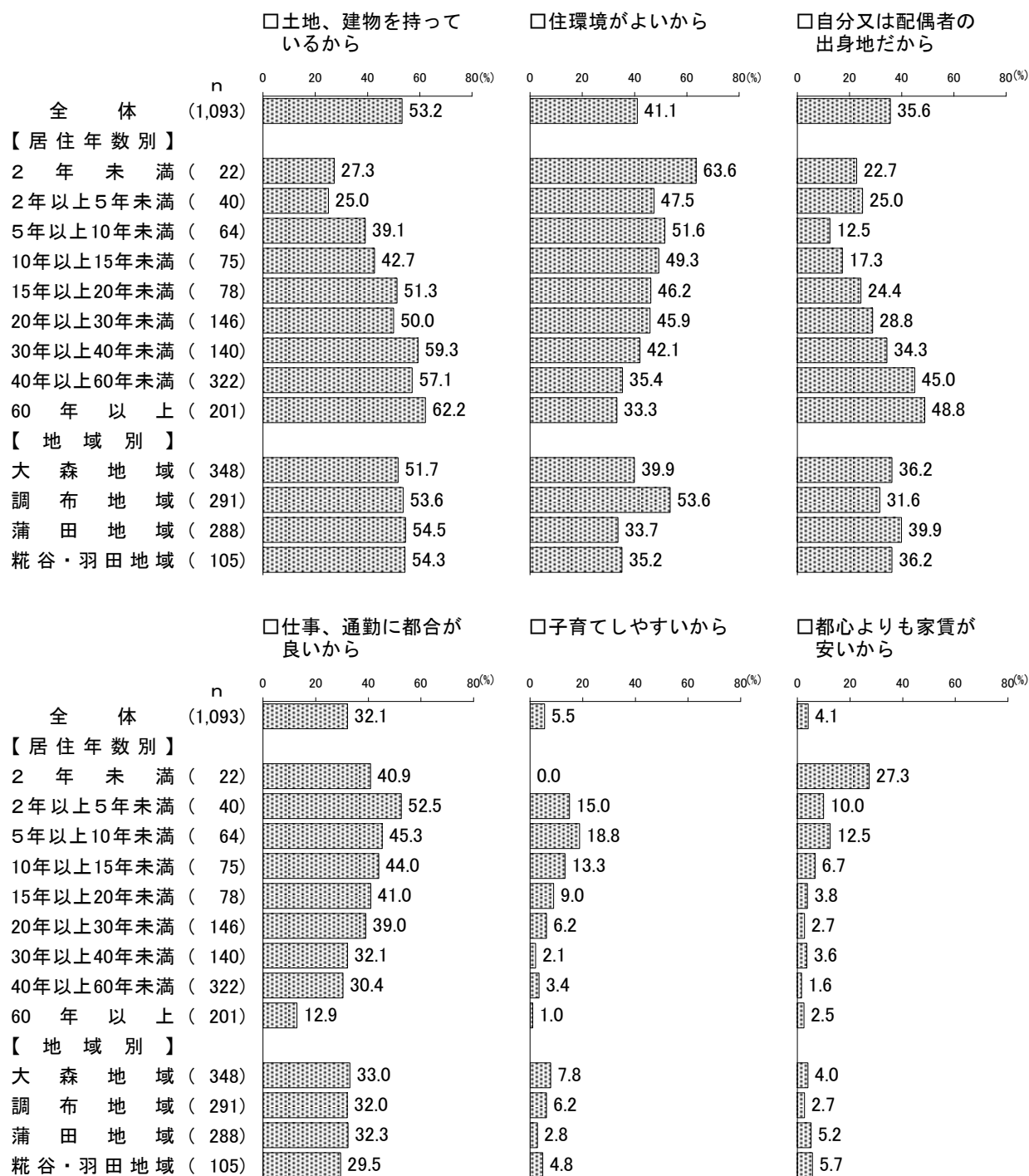
図 1-3-2 ずっと住み続けたい理由－性／年代別



性別で見ると、「住環境がよいから」は女性（44.6%）が男性（37.5%）より7.1ポイント高くなっている。一方、「仕事、通勤に都合が良いから」は男性（36.2%）が女性（29.5%）より6.7ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「土地、建物を持っているから」は男性50代以上の年代で6割を超えて高くなっている。「仕事、通勤に都合が良いから」は男性40代（57.3%）で6割近くと高くなっている。（図1-3-2）

図1-3-3 ずっと住みたい理由—居住年数別、地域別



居住年数別でみると、「土地、建物を持っているから」は「居住年数60年以上」(62.2%)で6割を超えて高くなっている。「仕事、通勤に都合が良いから」は「居住年数2年以上5年未満」(52.5%)で5割を超えて高くなっている。

地域別でみると、「住環境がよいから」は調布地域(53.6%)で5割を超えて高くなっている。「自分又は配偶者の出身地だから」は蒲田地域(39.9%)で4割と高くなっている。(図1-3-3)

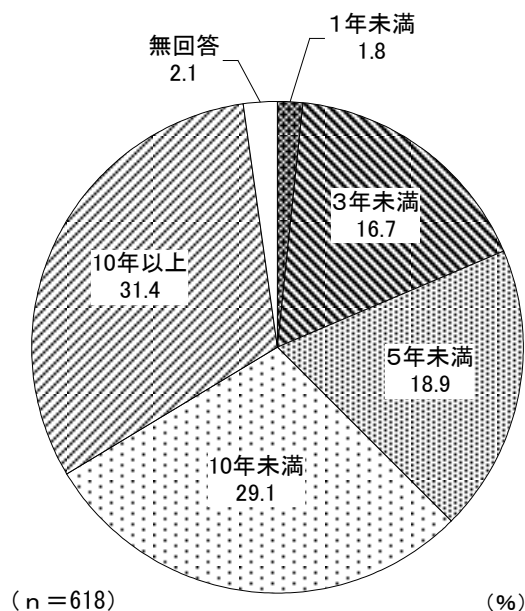
#### (4) 当分は住み続けたい期間

◇「10年以上」が3割を超える

(問2で、「当分は住み続けたい」と回答した方に)

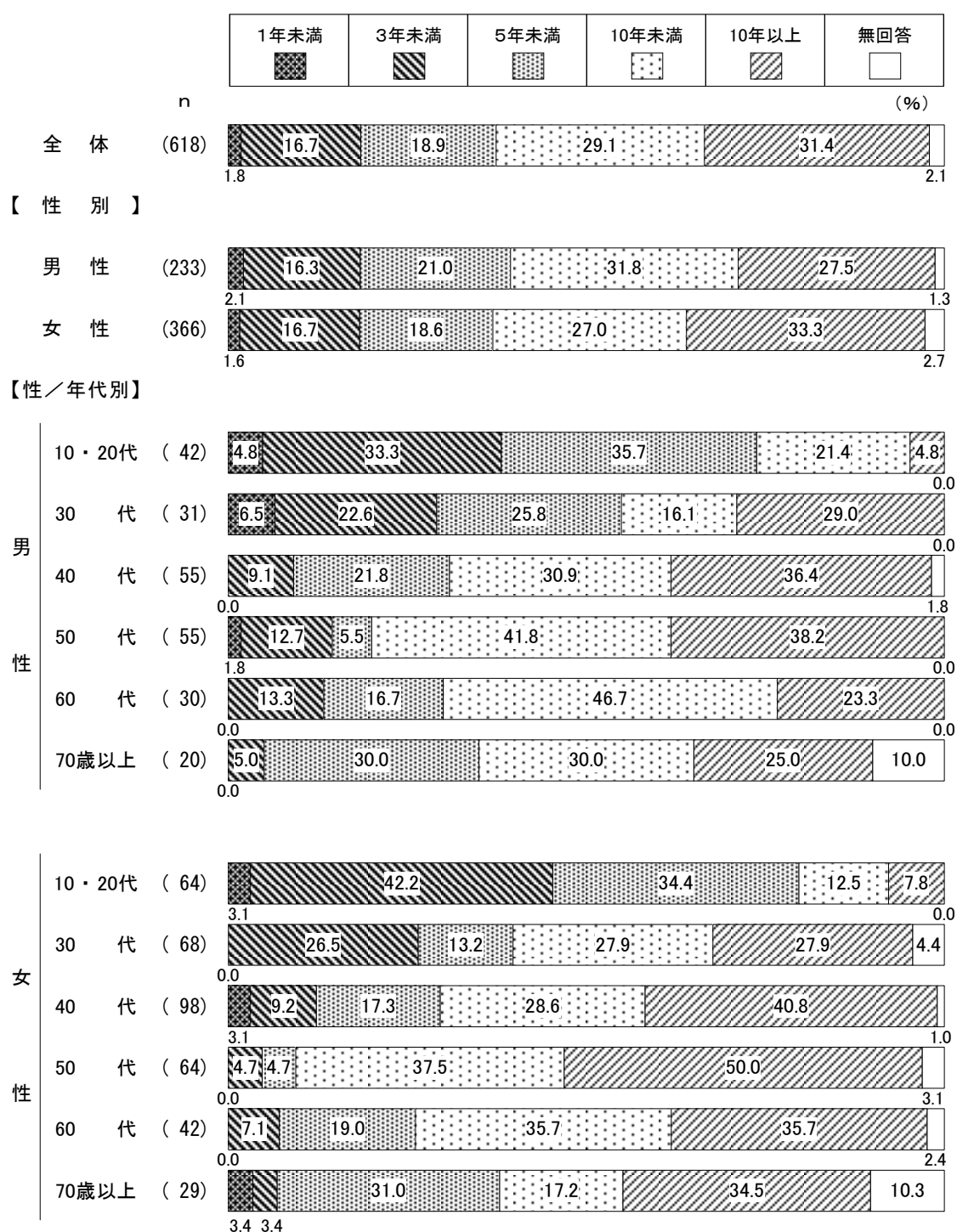
問2-2 「当分は住み続けたい」とはどのくらいの期間で理由は何ですか。(○は1つだけ)

図1-4-1



大田区に「当分は住み続けたい」と答えた人(618人)に、それはどのくらいの期間か聞いたところ、「10年以上」(31.4%)が3割を超えて最も高く、次いで「10年未満」(29.1%)、「5年未満」(18.9%)、「3年未満」(16.7%)などの順になっている。(図1-4-1)

図 1-4-2 当分は住み続けたい期間—性／年代別



性別でみると、「10年以上」は女性（33.3%）が男性（27.5%）より5.8ポイント高くなっている。一方、「10年未満」は男性（31.8%）が女性（27.0%）より4.8ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「3年未満」は女性10・20代（42.2%）で4割を超えて高くなっている。「10年未満」は男性60代（46.7%）で5割近くと高くなっている。「10年以上」は女性50代（50.0%）で5割と高くなっている。（図1-4-2）

また、「当分は住み続けたい」と答えた理由については、547人から581件の回答があった。住み続けたい期間別に分類して整理した結果は以下のとおりである。

①「1年未満」と答えた理由（計9件）

- 転居の予定や可能性があるから…………… 2件
- 結婚したら転居する可能性があるから…………… 2
- マンション等の更新の都合があるから…………… 1
- 実家や出身地に戻りたい、戻る予定があるから…………… 1
- 家賃や住宅購入費が高いから…………… 1
- 転勤・転職の可能性があるから…………… 1
- その他…………… 1

②「3年未満」と答えた理由（計98件）

- 仕事や通勤・通学に都合が良いから…………… 18件
- 転勤・転職の可能性があるから…………… 9
- 特に引っ越す理由がないから…………… 8
- マンション等の更新の都合があるから…………… 7
- 実家や出身地に戻りたい、戻る予定があるから…………… 6
- 住みやすい、住み慣れている、利便性が良いから…………… 6
- 転居の予定や可能性があるから…………… 5
- もっと環境が良い所に住みたいから…………… 5
- 子どもの成長や学校の都合に合わせたいから…………… 4
- 家賃や住宅購入費が高いから…………… 4
- 退職するまでは住みたいから…………… 3
- 引っ越すのが手間、費用が掛かるから…………… 3
- 商店や飲食店が充実しているから…………… 3
- 実家だから、実家に近いから…………… 2
- 他の場所に住んでみたい、居住環境を変えたいから…………… 2
- 治安が良いから…………… 2
- 結婚したら転居する可能性があるから…………… 2
- その他…………… 9

③「5年未満」と答えた理由（計119件）

- 仕事や通勤・通学に都合が良いから…………… 24件
- 住みやすい、住み慣れている、利便性が良いから…………… 16
- 子どもの成長や学校の都合に合わせたいから…………… 13
- 実家や出身地に戻りたい、戻る予定があるから…………… 8
- 引っ越す理由や予定がないから…………… 6
- 交通の便が良いから…………… 5
- 老後に転居する可能性があるから…………… 5
- 転勤・転職の可能性があるから…………… 4
- 実家だから、実家に近いから…………… 4
- 進学・就職・独立するため…………… 4
- 将来的にライフスタイルが変わると思うから…………… 4
- 家賃が安いから…………… 3
- 他の場所に住んでみたい、居住環境を変えたいから…………… 2
- 家を購入したい・購入する予定だから…………… 2



- 不自由がなく、引っ越す理由が無いから…………… 2
- 子どもと一緒に住む予定だから…………… 2
- 社宅の期限があるから…………… 2
- その他…………… 13

④ 「10年未満」と答えた理由（計173件）

- 子どもの成長や学校の都合に合わせたいから…………… 29件
- 仕事や通勤・通学に都合が良いから…………… 26
- 実家や出身地に戻りたい、戻る予定があるから…………… 16
- 老後に転居する可能性があるから…………… 12
- 住みやすい、住み慣れている、利便性が良いから…………… 11
- 退職するまでは住みたいから…………… 9
- 家族の都合によるから…………… 8
- 年齢や健康状態によって転居する可能性があるから…………… 8
- 交通の便が良いから…………… 6
- 他の場所に住んでみたいから…………… 4
- 土地、建物を持っているから…………… 4
- 不自由がなく、引っ越す理由が無いから…………… 3
- 子育て環境が良いから…………… 3
- 引っ越す理由や予定がないから…………… 3
- 結婚したら転居する可能性があるから…………… 3
- 家賃や住宅購入費が高いから…………… 3
- 社宅の期限があるから…………… 3
- 自宅が老朽化しているから…………… 2
- 住環境が以前より悪化しているから…………… 2
- 転勤・転職の可能性があるから…………… 2
- その他…………… 16

⑤ 「10年以上」と答えた理由（計182件）

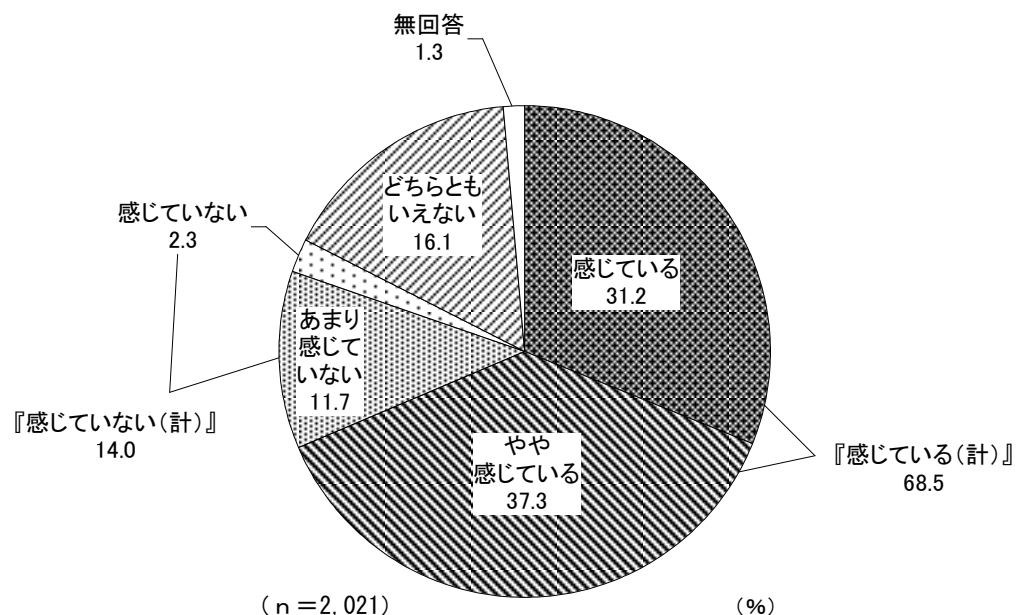
- 子どもの成長や学校の都合に合わせたいから…………… 33件
- 仕事や通勤・通学に都合が良いから…………… 26
- 土地、建物を持っているから…………… 22
- 住みやすい、住み慣れている、利便性が良いから…………… 13
- 老後に転居する可能性があるから…………… 9
- 退職するまでは住みたいから…………… 8
- 不自由がなく、引っ越す理由が無いから…………… 8
- 家族・友人・親族がいるから…………… 7
- 実家や出身地に戻りたい、戻る予定があるから…………… 7
- 交通の便が良いから…………… 6
- 住環境が良いから…………… 6
- 年齢や健康状態によって転居する可能性があるから…………… 6
- 他の場所に住んでみたいから…………… 3
- 実家だから、実家に近いから…………… 2
- 将来のことはわからないから…………… 2
- 施設へ入る可能性があるから…………… 2
- 経済的に心配だから…………… 2
- 子育て環境が良いから…………… 2
- その他…………… 18

### (5) 住んでいるまちが魅力的か

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は7割近く

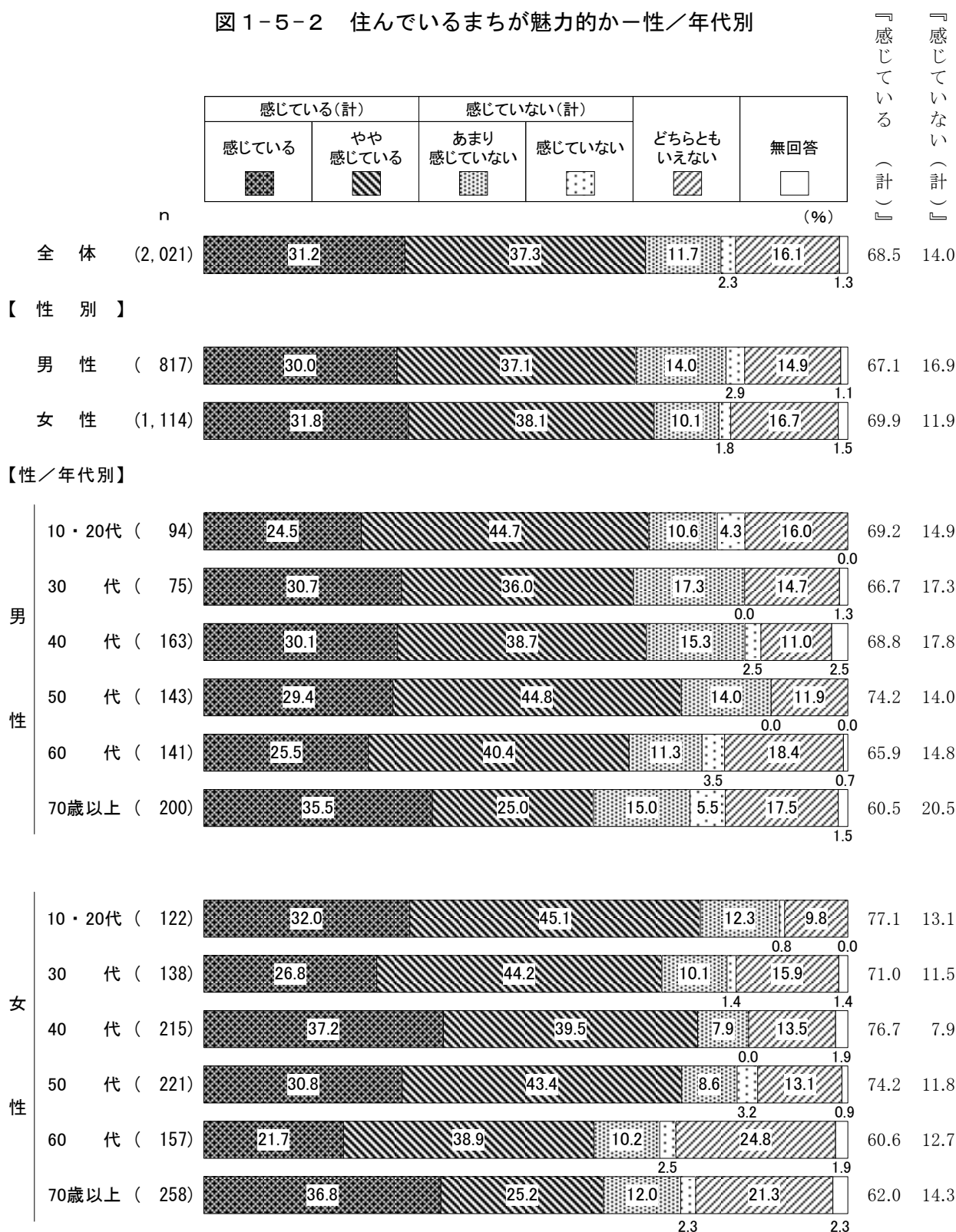
問3 あなたは、住んでいるまちが魅力的であると感じていますか。(○は1つだけ)

図1-5-1



住んでいるまちが魅力的であると感じているか聞いたところ、「感じている」(31.2%)と「やや感じている」(37.3%)を合わせた『感じている(計)』(68.5%)は7割近くとなっている。一方、「あまり感じていない」(11.7%)と「感じていない」(2.3%)を合わせた『感じていない(計)』(14.0%)は1割半ばとなっている。(図1-5-1)

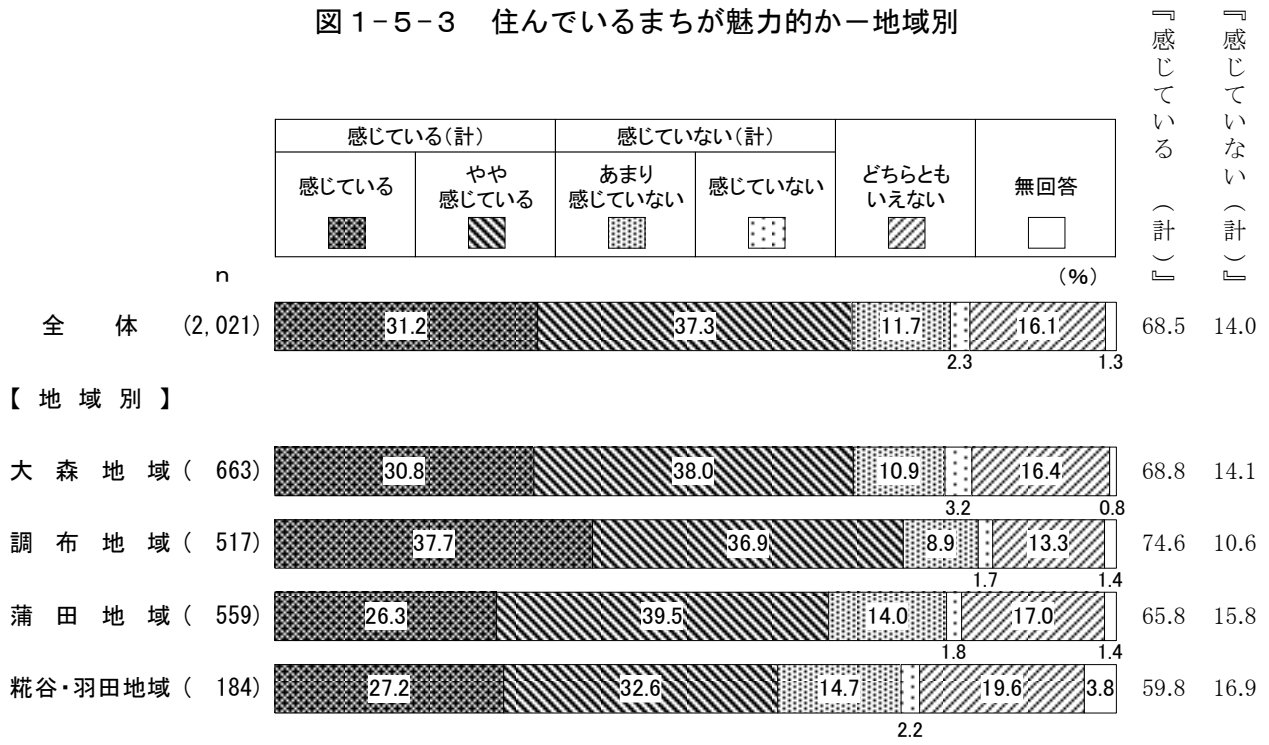
図 1-5-2 住んでいるまちが魅力的かー性／年代別



性別でみると、『感じていない (計)』は男性 (16.9%) が女性 (11.9%) より5.0ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『感じている (計)』は女性10・20代 (77.1%) と女性40代 (76.7%) で8割近くと高くなっている。一方、『感じていない (計)』は男性70歳以上 (20.5%) で約2割と高くなっている。(図 1-5-2)

図 1-5-3 住んでいるまちが魅力的か—地域別



地域別でみると、『感じている(計)』は調布地域(74.6%)で7割半ばと高くなっている。一方、『感じていない(計)』は糞谷・羽田地域(16.9%)で2割近くとなっている。(図1-5-3)

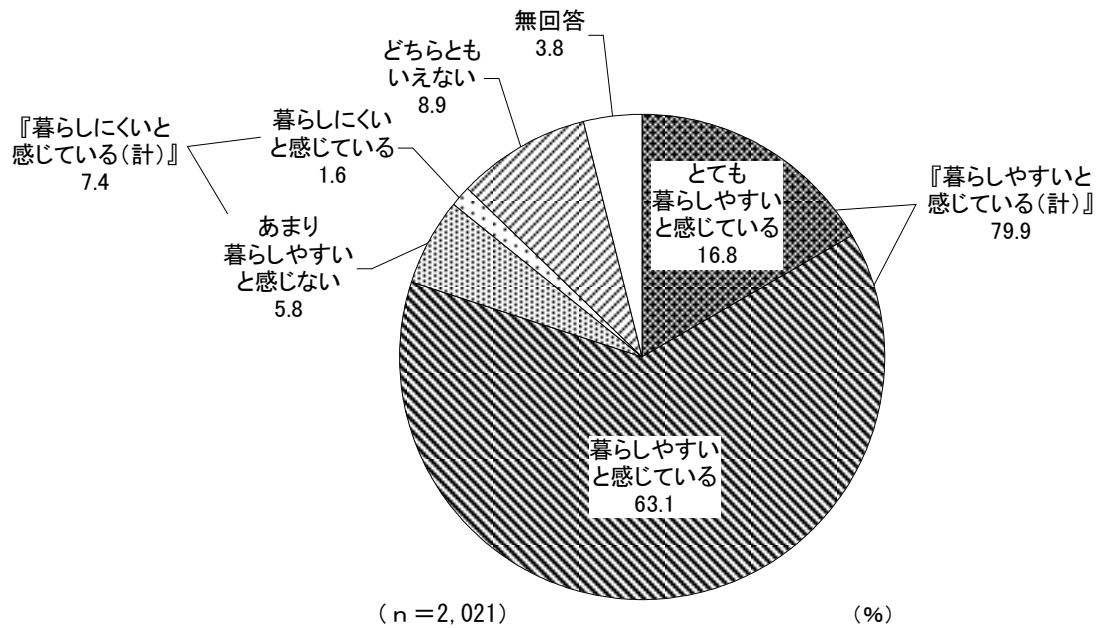
## 2. 暮らしやすさ

### (1) 住んでいるまちの暮らしやすさ

◇「とても暮らしやすいと感じている」と「暮らしやすいと感じている」を合わせた『暮らしやすいと感じている(計)』は8割

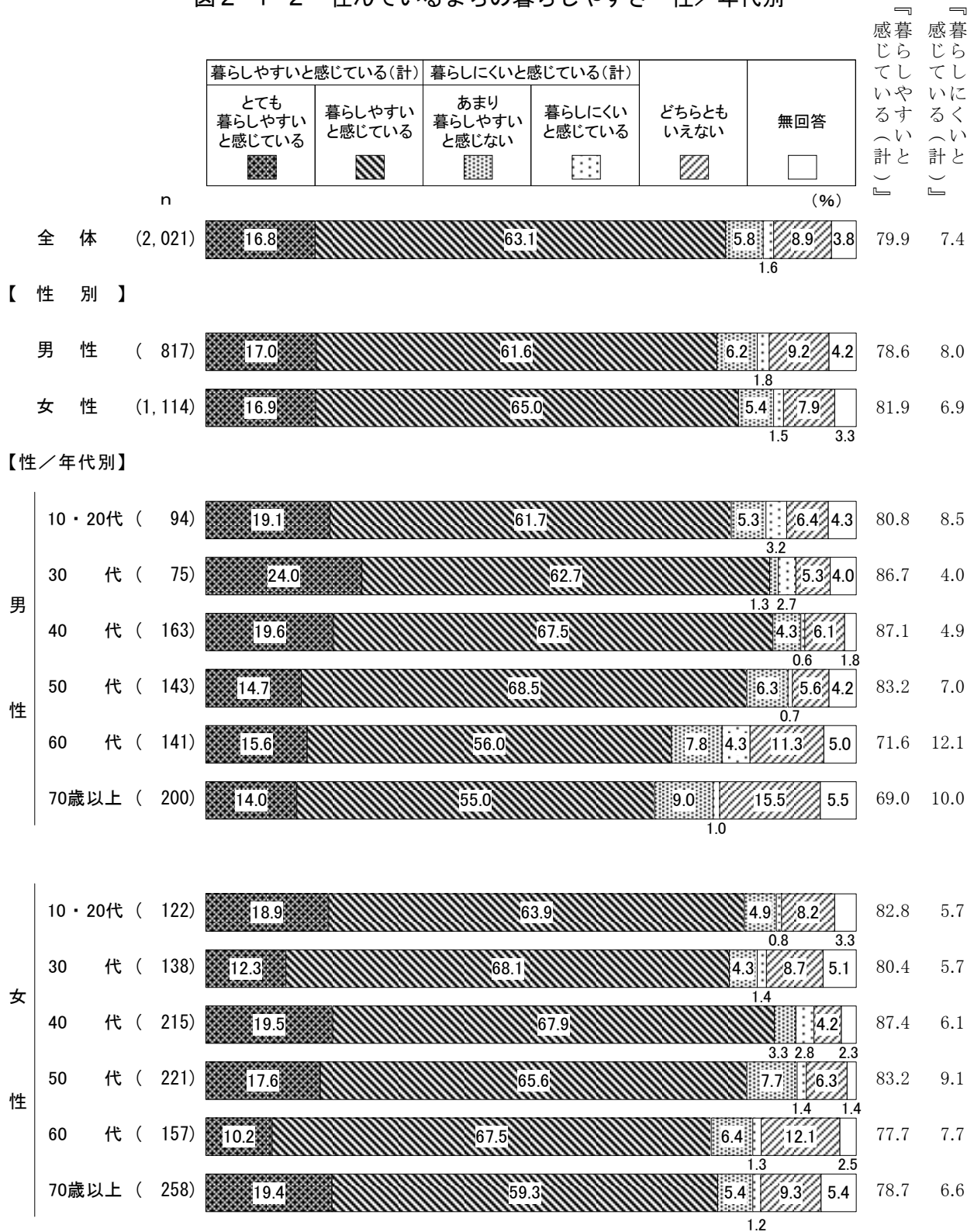
問4 現在住んでいるまちの暮らしやすさを、どのように感じていますか。(○は1つだけ)

図2-1-1



現在住んでいるまちの暮らしやすさについて聞いたところ、「暮らしやすいと感じている」(63.1%)が6割を超えて最も高く、これに「とても暮らしやすいと感じている」(16.8%)を合わせた『暮らしやすいと感じている(計)』(79.9%)は8割となっている。一方、「あまり暮らしやすいと感じない」(5.8%)と「暮らしにくいと感じている」(1.6%)を合わせた『暮らしにくいと感じている(計)』(7.4%)は1割未満となっている。(図2-1-1)

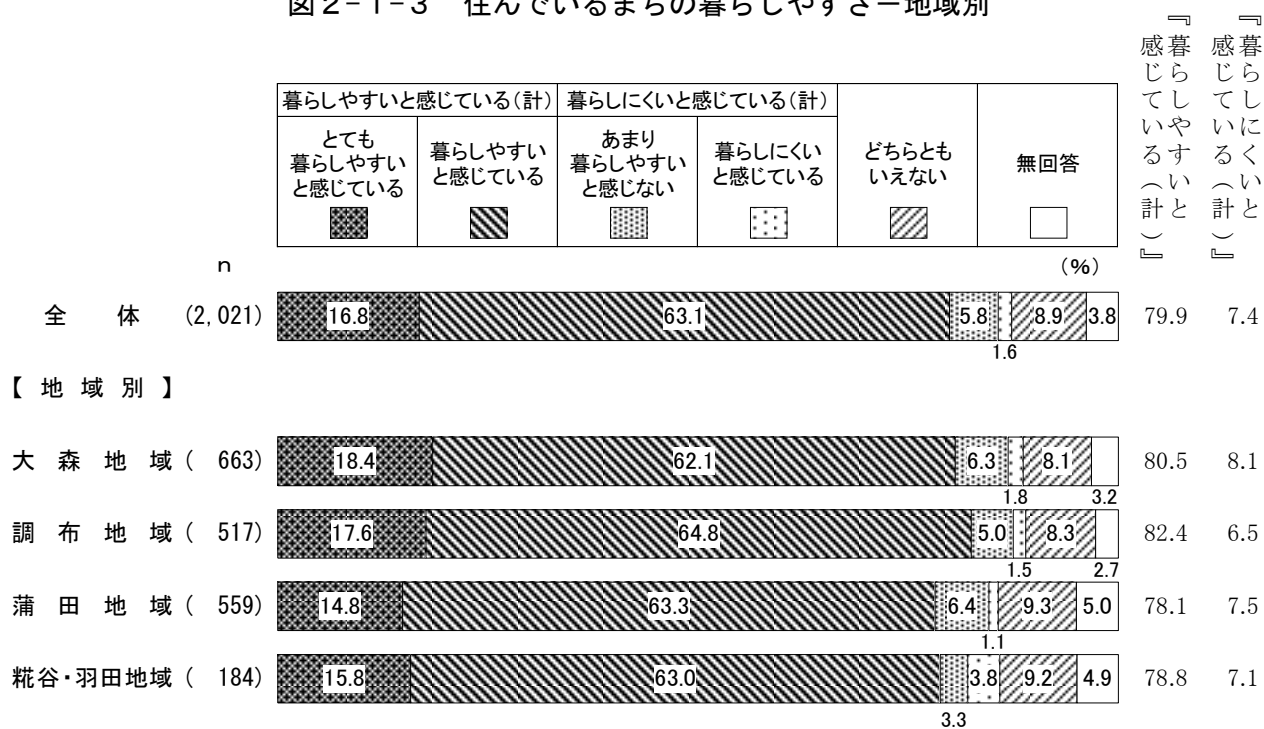
図2-1-2 住んでいるまちの暮らしやすさ—性／年代別



性別でみると、『暮らしやすと感じている(計)』は女性(81.9%)が男性(78.6%)より3.3ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『暮らしやすと感じている(計)』は男性30代(86.7%)、男性40代(87.1%)、女性40代(87.4%)で9割近くと高くなっている。(図2-1-2)

図 2-1-3 住んでいるまちの暮らしやすさ—地域別



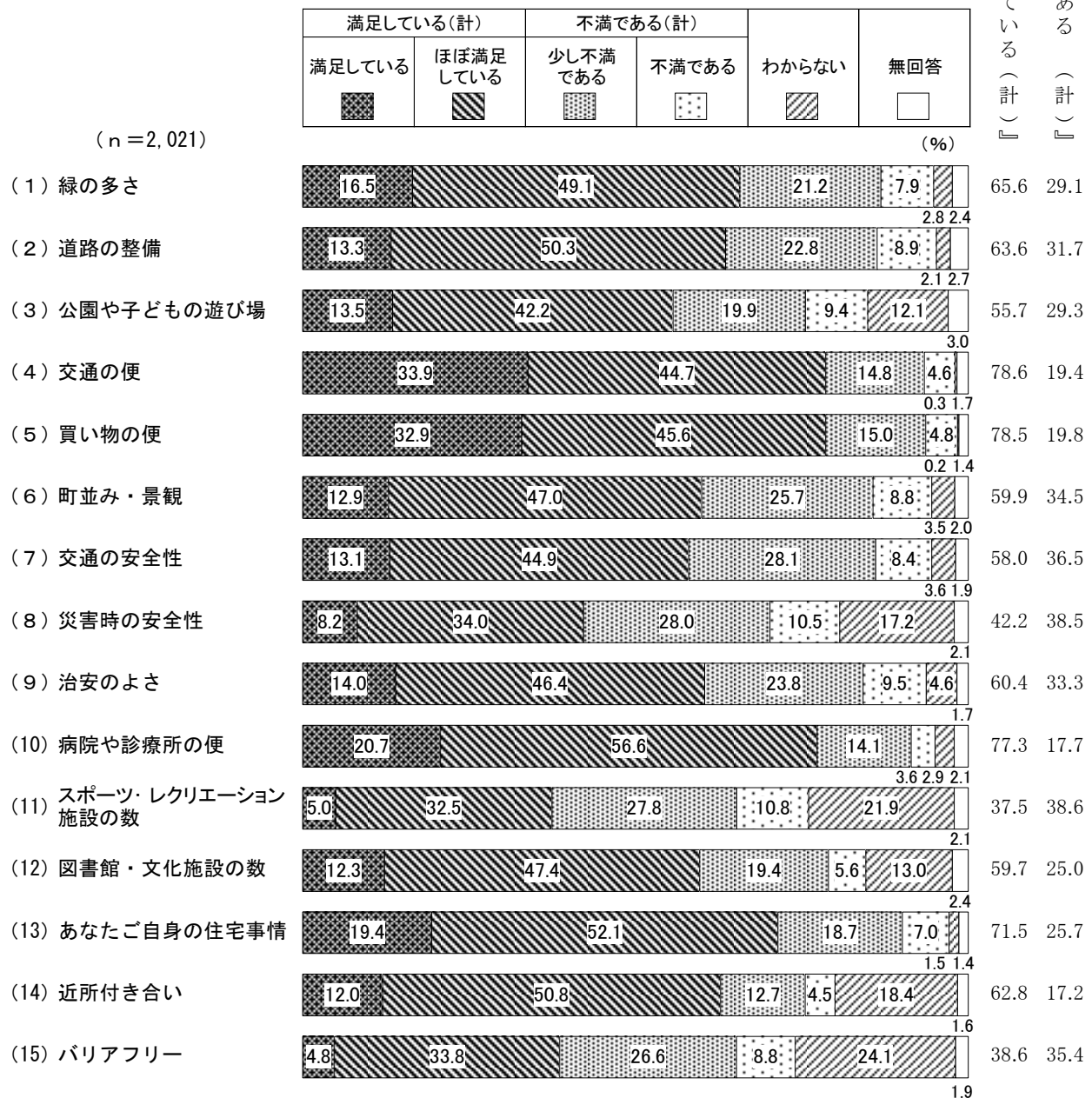
地域別でみると、『暮らしやすいと感じている(計)』は調布地域(82.4%)で8割を超えて高くなっている。(図2-1-3)

## (2) 生活環境の満足度

◇「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた『満足している(計)』は「交通の便」、  
「買い物の便」、「病院や診療所の便」で8割近く

問5 住んでいるまちの生活環境について、どの程度満足していますか。(〇はそれぞれ1つ)

図2-2-1



住んでいるまちの生活環境について聞いたところ、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた『満足している(計)』は「交通の便」(78.6%)、「買い物の便」(78.5%)、「病院や診療所の便」(77.3%)の3項目で8割近くと高くなっている。一方、「少し不満である」と「不満である」を合わせた『不満である(計)』は「スポーツ・レクリエーション施設の数」(38.6%)、「災害時の安全性」(38.5%)、「交通の安全性」(36.5%)の3項目で4割近くと高くなっている。

(図2-2-1)

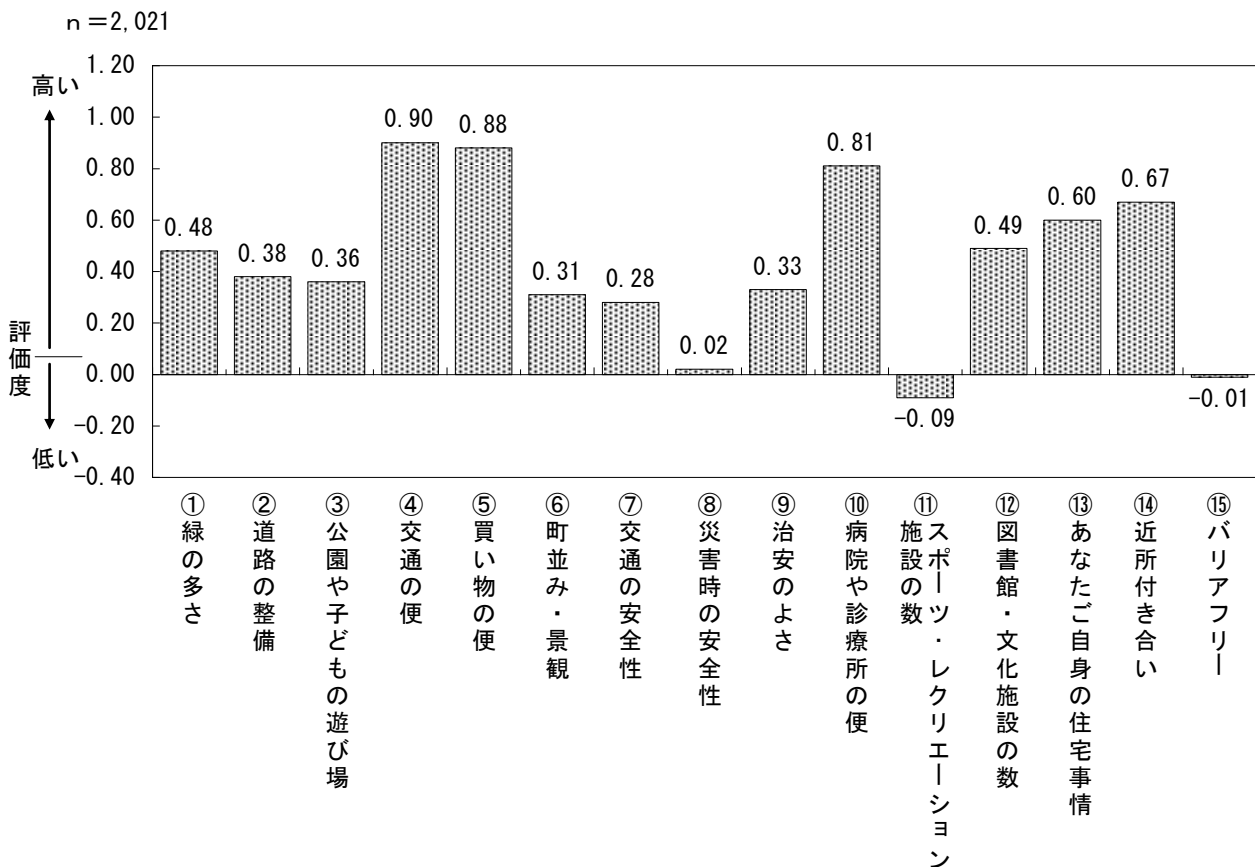


15項目にわたる生活環境の満足度の比較をしやすいするため、それぞれの回答を点数化し、下記の計算式で各項目の評価点を求めた。なお、「わからない」は計算から除外した。

$$\text{評価点} = \frac{\text{「満足している」} \times 2 + \text{「ほぼ満足している」} \times 1 + \text{「少し不満である」} \times (-1) + \text{「不満である」} \times (-2)}{\text{回答者数}}$$

15項目の生活環境の満足度を評価点で見ると、評価が高いのは「交通の便」(0.90)、「買い物の便」(0.88)、「病院や診療所の便」(0.81)の順になっている。一方、評価が低いのは「スポーツ・レクリエーション施設の数」(-0.09)、「バリアフリー」(-0.01)、「災害時の安全性」(0.02)の順になっている。(図2-2-2)

図2-2-2 生活環境の満足度（評価点）



以下、生活環境の満足度の評価点を地域別でみる。地域ごとに、全体と比べて評価の高いベスト3の項目と、評価の低いワースト3の項目を表に掲げた。

**【大森地域】**

全体と比較すると、ベスト3では、「スポーツ・レクリエーション施設の数」が0.12ポイント上回り1位、「図書館・文化施設の数」が0.11ポイント上回り2位、「治安のよさ」が0.10ポイント上回り3位となっている。

一方、ワースト3では、「道路の整備」と「交通の安全性」が1位、「買い物の便」が3位となっている。(図2-2-3、表2-2-1)

図2-2-3 生活環境の満足度－【大森地域】(全体との評価点の比較)

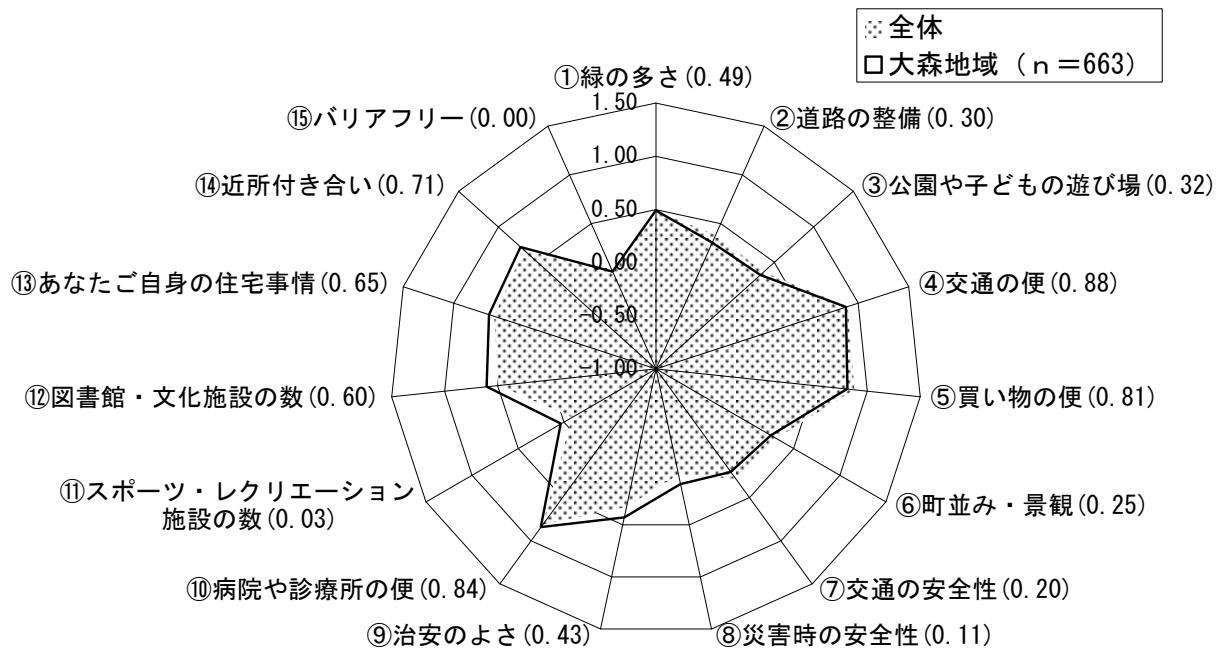


表2-2-1 生活環境の満足度－【大森地域】(全体との評価点の差ベスト3・ワースト3)

全体との差	1位	2位	3位
ベスト3	⑪スポーツ・レクリエーション施設の数 0.12	⑫図書館・文化施設の数 0.11	⑨治安のよさ 0.10
ワースト3	②道路の整備／⑦交通の安全性 -0.08		⑤買い物の便 -0.07

【調布地域】

全体と比較すると、ベスト3では、「治安のよさ」が0.60ポイント上回り1位、「災害時の安全性」が0.40ポイント上回り2位、「町並み・景観」が0.39ポイント上回り3位となっている。

一方、ワースト3では、「スポーツ・レクリエーション施設の数」が1位、「買い物の便」が2位、「図書館・文化施設の数」が3位となっている。(図2-2-4、表2-2-2)

図2-2-4 生活環境の満足度－【調布地域】(全体との評価点の比較)

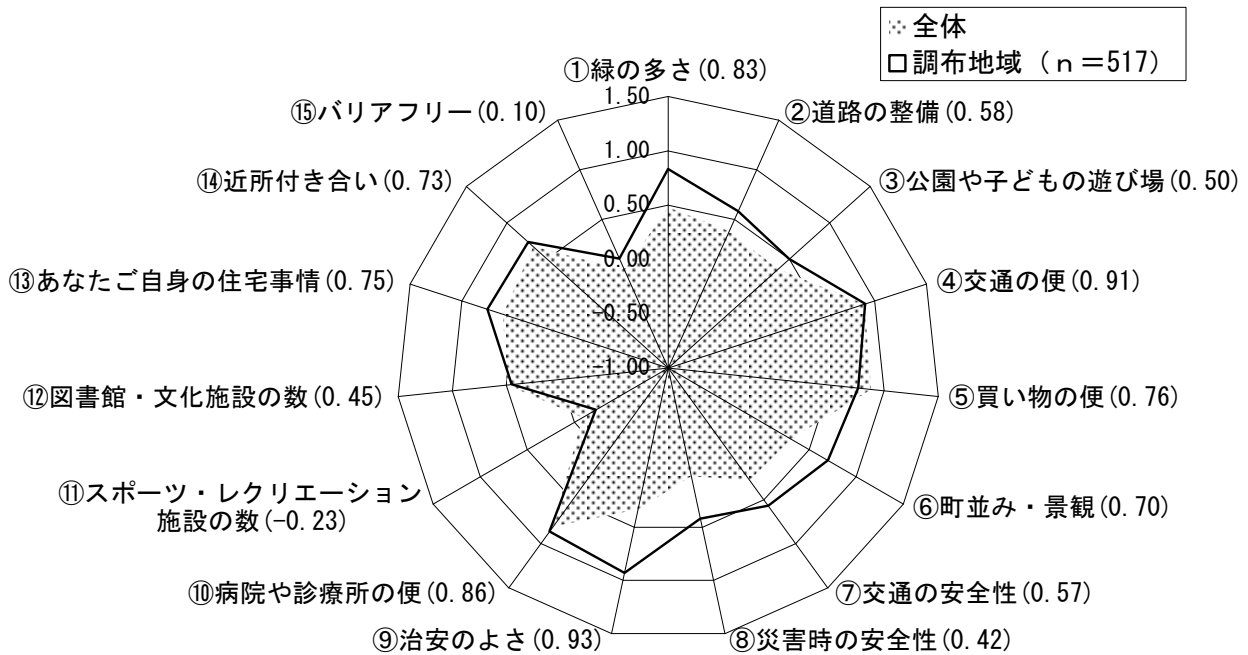


表2-2-2 生活環境の満足度－【調布地域】(全体との評価点の差ベスト3・ワースト3)

全体との差	1位	2位	3位
ベスト3	⑨治安のよさ 0.60	⑧災害時の安全性 0.40	⑥町並み・景観 0.39
ワースト3	⑪スポーツ・レクリエーション施設の数 -0.14	⑤買い物の便 -0.12	⑫図書館・文化施設の数 -0.04

**【蒲田地域】**

全体と比較すると、ベスト3では、「買い物の便」が0.16ポイント上回り1位、「交通の便」が0.10ポイント上回り2位、「バリアフリー」が0.02ポイント下回っているものの3位となっている。

一方、ワースト3では、「治安のよさ」が1位、「災害時の安全性」が2位、「緑の多さ」が3位となっている。(図2-2-5、表2-2-3)

図2-2-5 生活環境の満足度－【蒲田地域】(全体との評価点の比較)

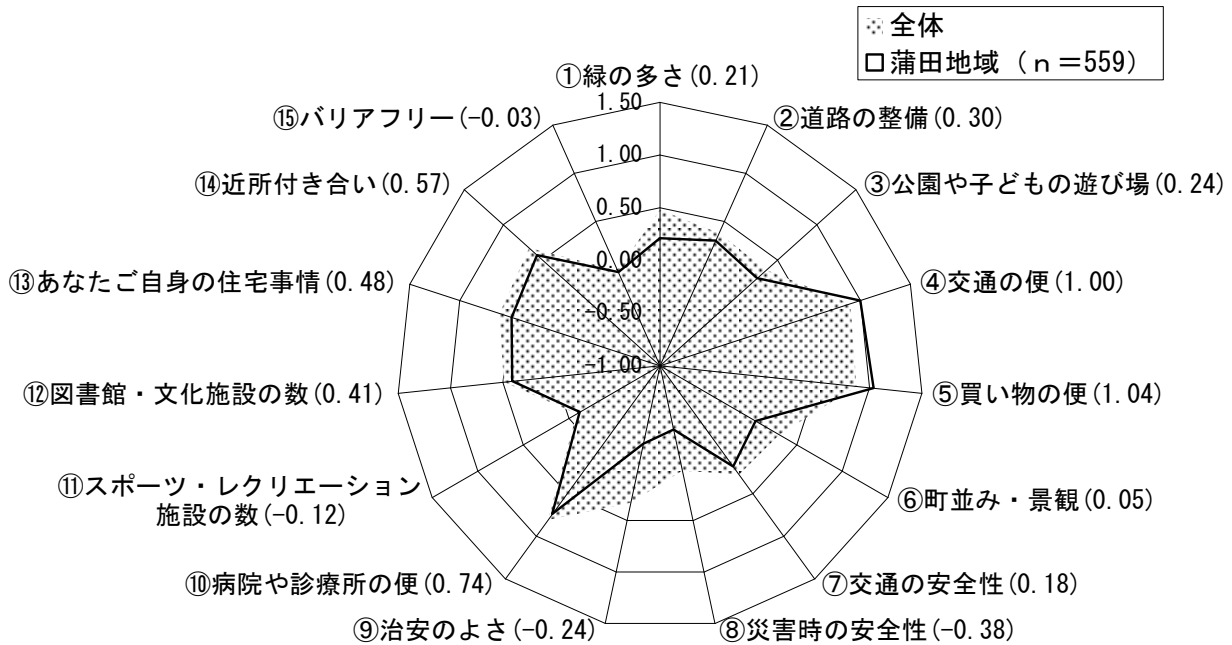


表2-2-3 生活環境の満足度－【蒲田地域】(全体との評価点の差ベスト3・ワースト3)

全体との差	1位		2位		3位	
ベスト3	⑤買い物の便	0.16	④交通の便	0.10	⑮バリアフリー	-0.02
ワースト3	⑨治安のよさ	-0.57	⑧災害時の安全性	-0.40	①緑の多さ	-0.27

**【糶谷・羽田地域】**

全体と比較すると、ベスト3では、「スポーツ・レクリエーション施設の数」が0.12ポイント上回り1位、「公園や子どもの遊び場」が0.08ポイント上回り2位、「図書館・文化施設の数」が0.07ポイント上回り3位となっている。

一方、ワースト3では、「緑の多さ」が1位、「治安のよさ」が2位、「交通の安全性」が3位となっている。(図2-2-6、表2-2-4)

図2-2-6 生活環境の満足度ー【糶谷・羽田地域】(全体との評価点の比較)

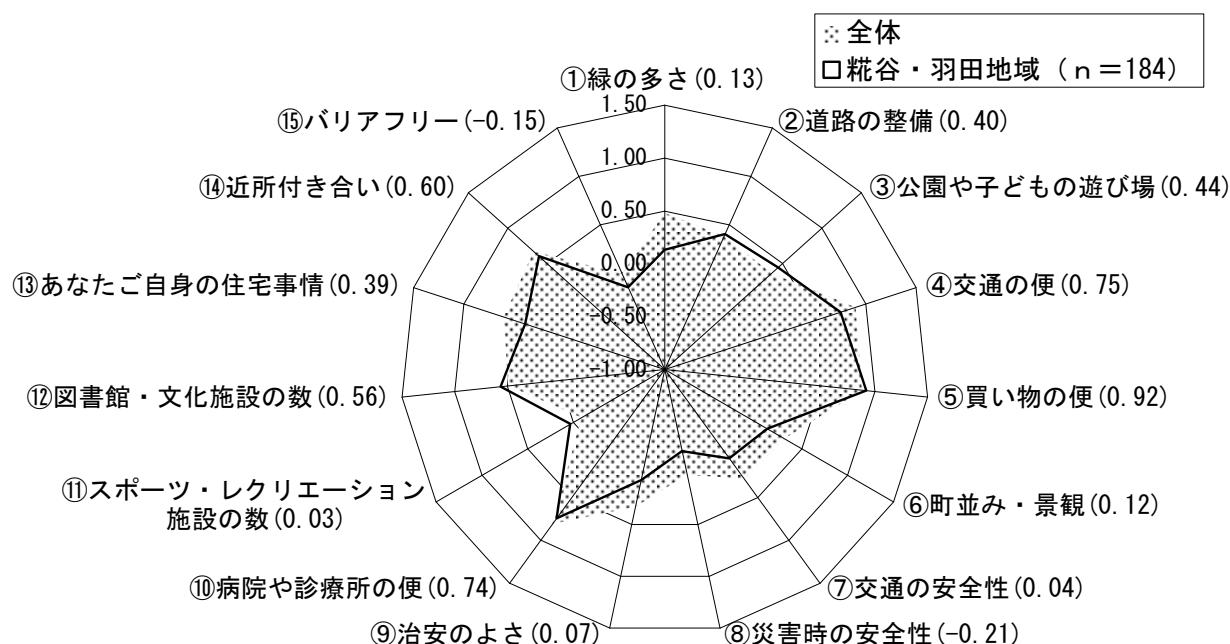


表2-2-4 生活環境の満足度ー【糶谷・羽田地域】(全体との評価点の差ベスト3・ワースト3)

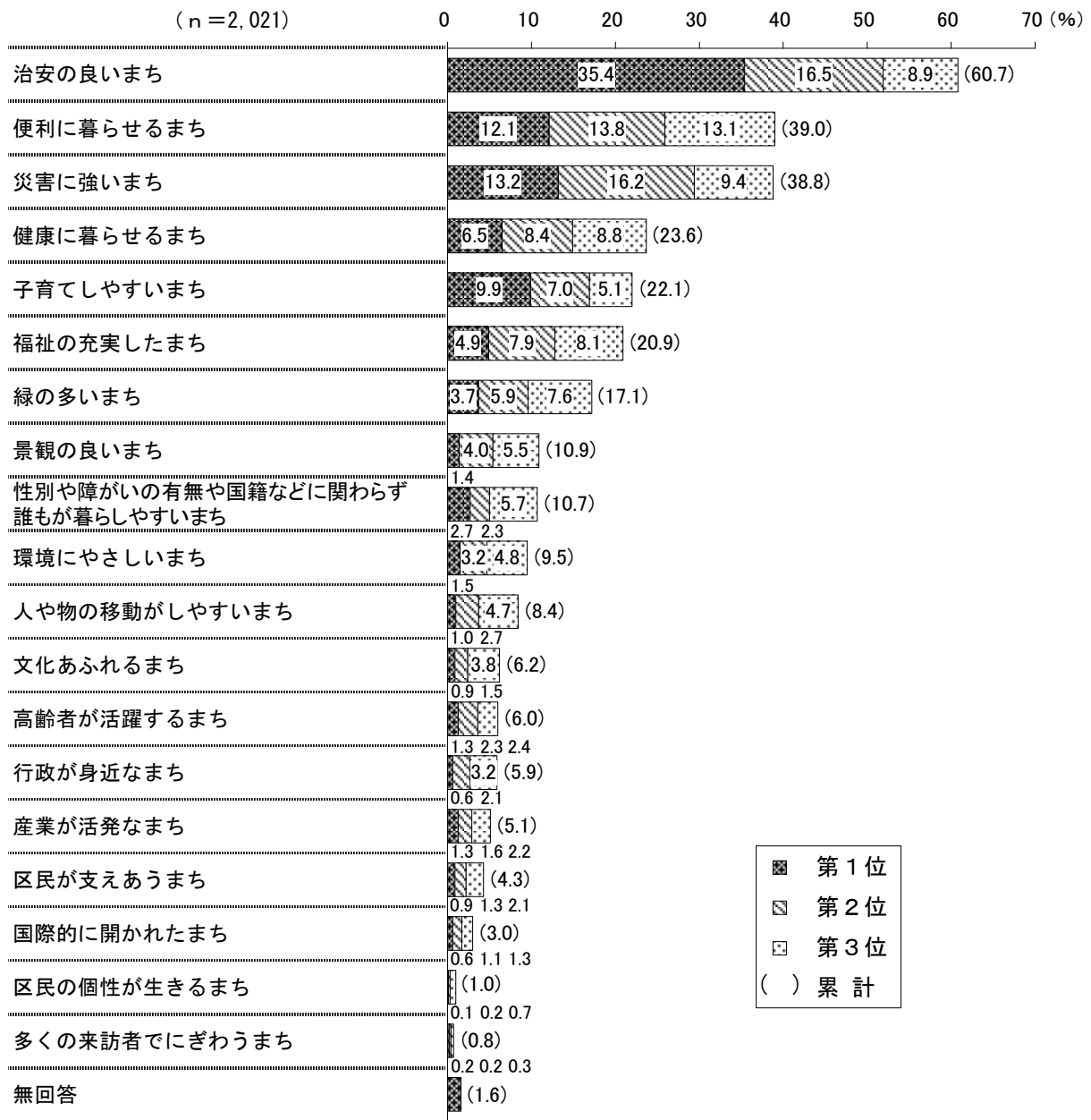
全体との差	1位	2位	3位
ベスト3	⑪スポーツ・レクリエーション施設の数 0.12	③公園や子どもの遊び場 0.08	⑫図書館・文化施設の数 0.07
ワースト3	①緑の多さ -0.35	⑨治安のよさ -0.26	⑦交通の安全性 -0.24

(3) 住んでいるまちにどのようになってほしいか

◇第1位から第3位までを合わせた《累計》では「治安の良いまち」が約6割

問6 あなたは、現在住んでいるまちに対して、今後、どのようなまちになってほしいとお考えですか。(1位から3位まで1つずつ選んで、下の回答欄に番号を記入してください)

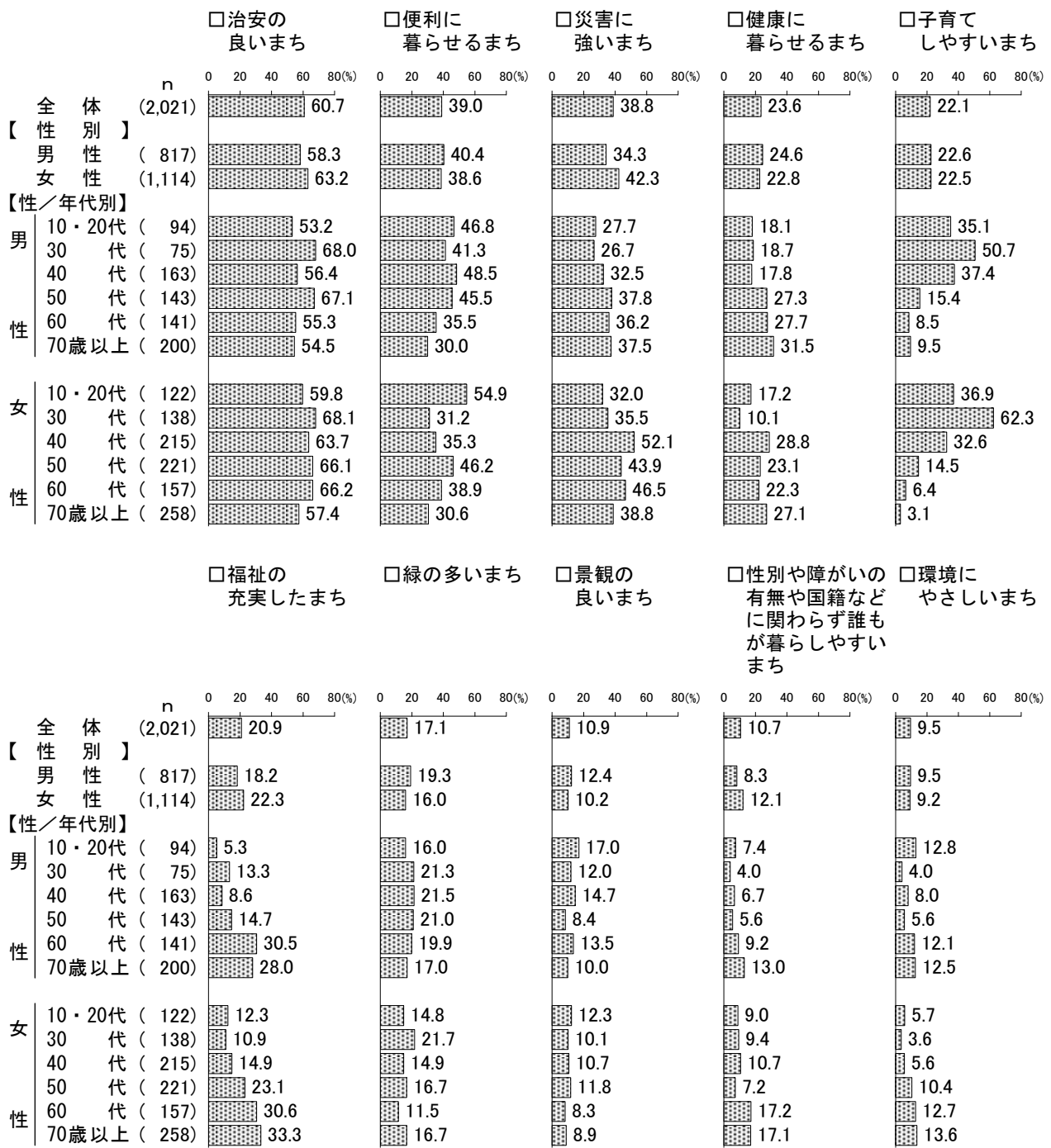
図2-3-1



住んでいるまちにどのようになってほしいか聞いたところ、第1位では「治安の良いまち」(35.4%)が3割半ばで最も高く、次いで「災害に強いまち」(13.2%)などの順になっている。

また、第1位から第3位までを合わせた《累計》で見ると、「治安の良いまち」(60.7%)が約6割で最も高く、次いで「便利に暮らせるまち」(39.0%)、「災害に強いまち」(38.8%)、「健康に暮らせるまち」(23.6%)などの順になっている。(図2-3-1)

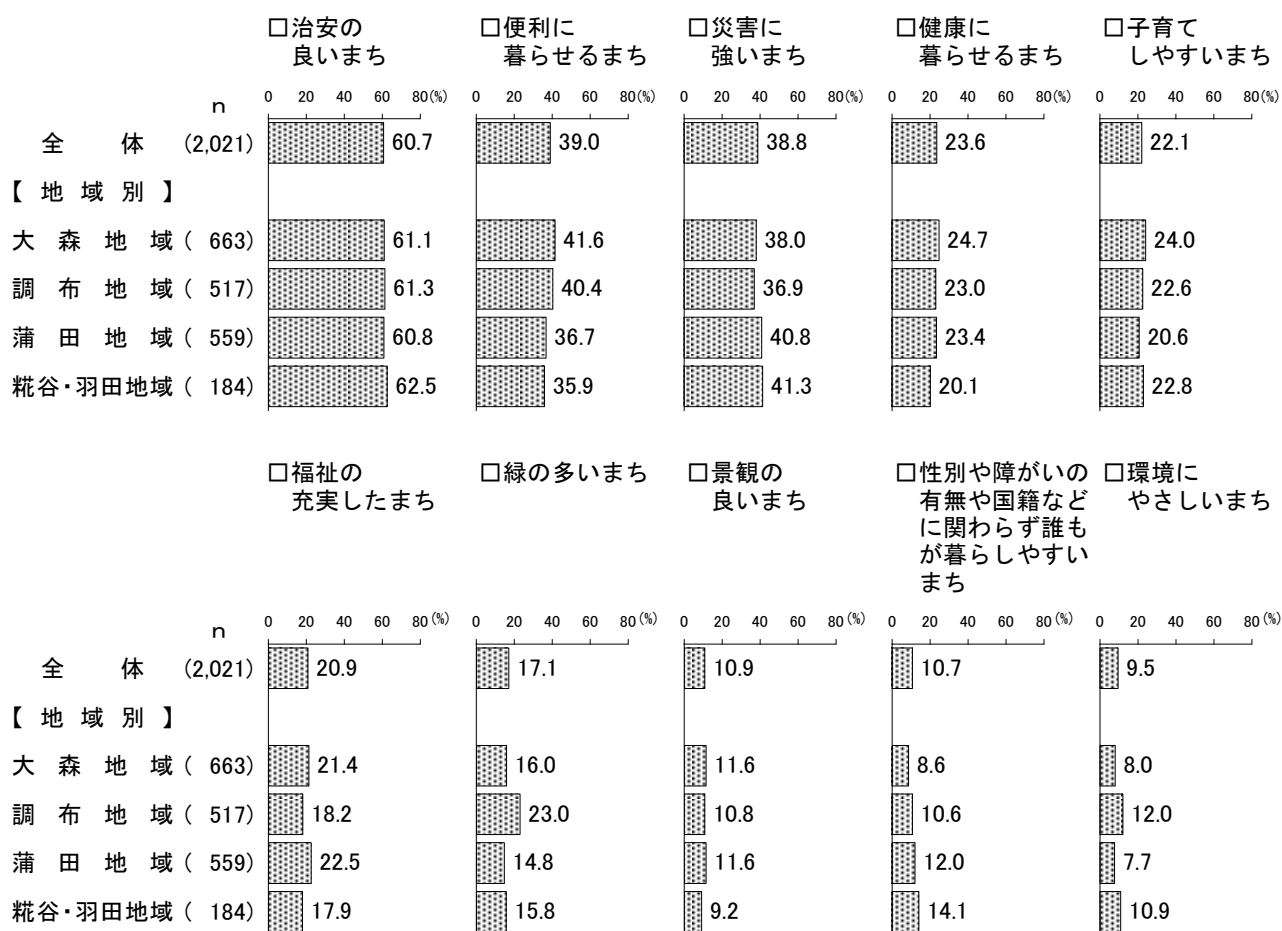
図2-3-2 住んでいるまちにどのようなになってほしいか一性／年代別（累計・上位10項目）



上位10項目を性別で見ると、「災害に強いまち」は女性（42.3%）が男性（34.3%）より8.0ポイント、「治安の良いまち」は女性（63.2%）が男性（58.3%）より4.9ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「緑の多いまち」は男性（19.3%）が女性（16.0%）より3.3ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「便利に暮らせるまち」は女性10・20代（54.9%）で5割半ばと高くなっている。「災害に強いまち」は女性40代（52.1%）で5割を超えて高くなっている。「子育てしやすいまち」は女性30代（62.3%）で6割を超えて高くなっている。（図2-3-2）

図2-3-3 住んでいるまちにどのようになってほしいかー地域別（累計・上位10項目）



上位10項目を地域別で見ると、「便利に暮らせるまち」は大森地域（41.6%）で4割を超えて高くなっている。「災害に強いまち」は糞谷・羽田地域（41.3%）で4割を超えて高くなっている。「緑の多いまち」は調布地域（23.0%）で2割を超えて高くなっている。（図2-3-3）



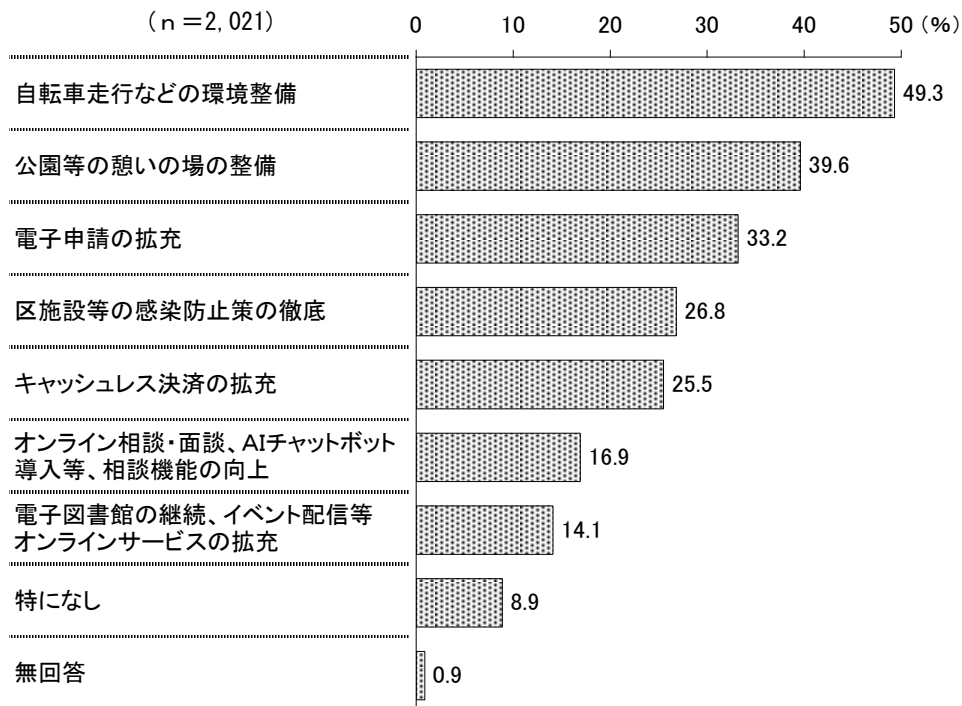
### 3. 緊急対策

(1) 「新しい生活様式」に即した行政となるために取り組んでほしいこと

◇ 「自転車走行などの環境整備」が約5割

問7 新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」に即した行政となるために、今後、区に取り組んでほしいことは何ですか。(〇はいくつでも)

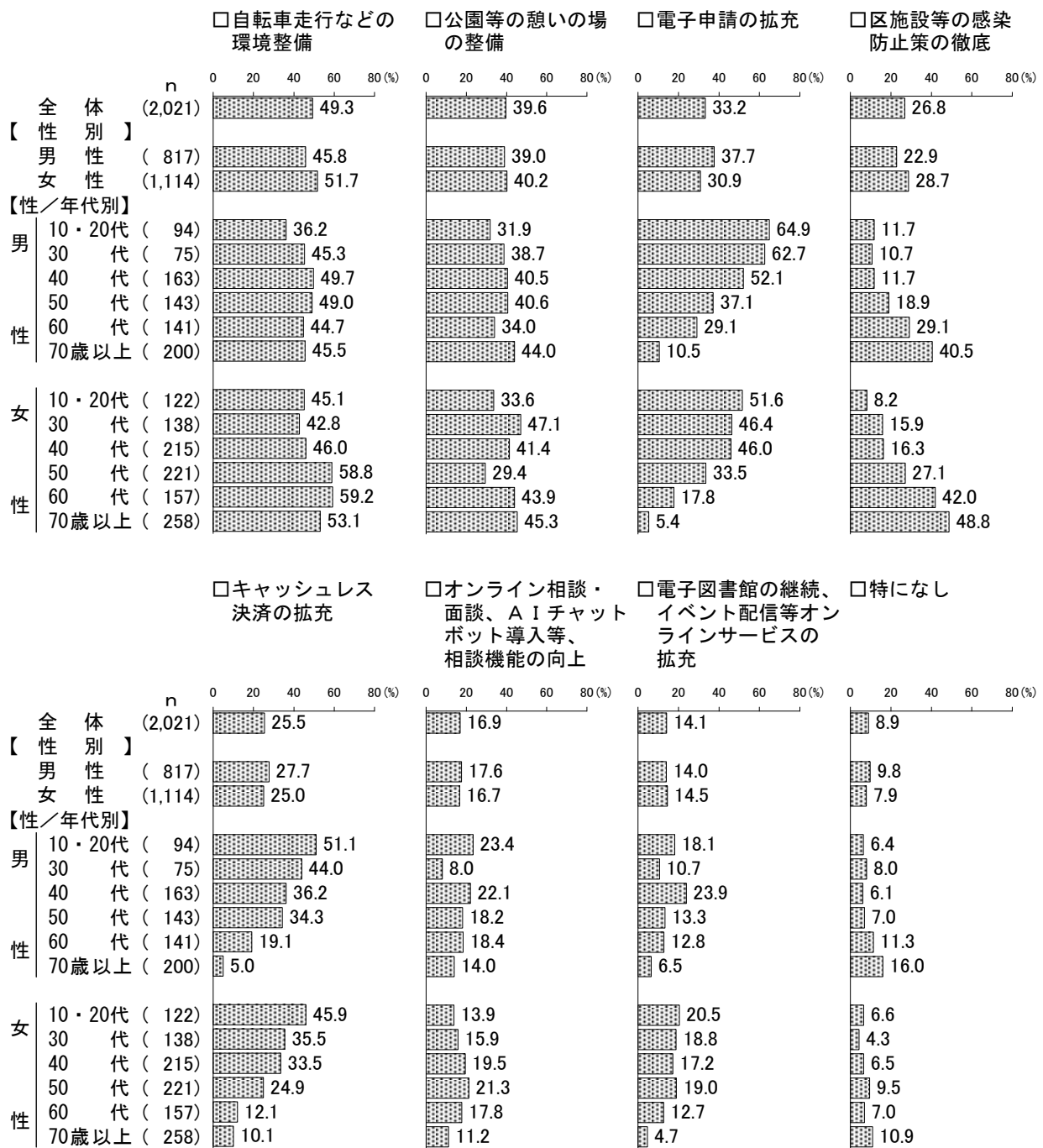
図3-1-1



「新しい生活様式」に即した行政となるために取り組んでほしいことを聞いたところ、「自転車走行などの環境整備」(49.3%)が約5割で最も高く、次いで「公園等の憩いの場の整備」(39.6%)、「電子申請の拡充」(33.2%)、「区施設等の感染防止策の徹底」(26.8%)などの順になっている。

(図3-1-1)

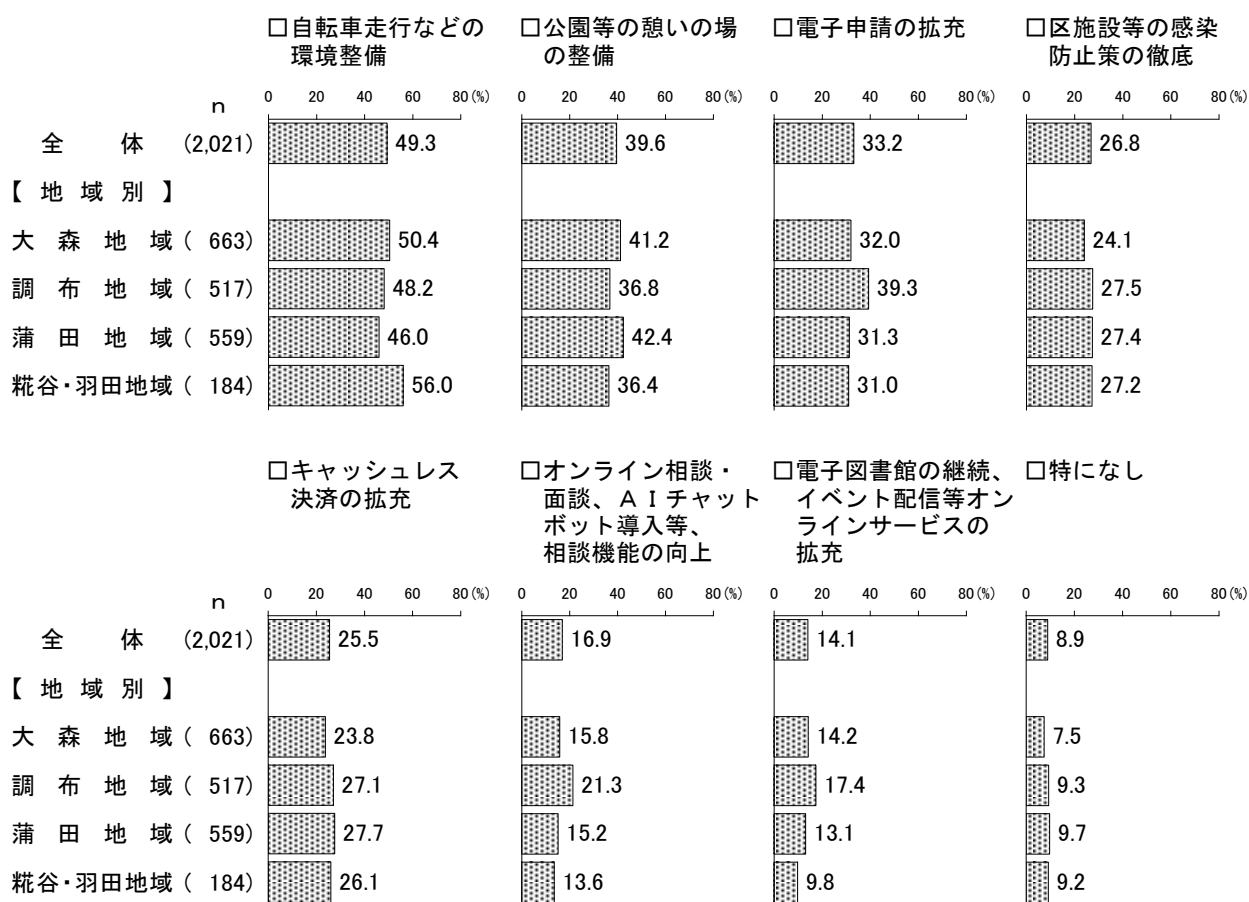
図3-1-2 「新しい生活様式」に即した行政となるために取り組んでほしいこと一性／年代別



性別で見ると、「電子申請の拡充」は男性（37.7%）が女性（30.9%）より6.8ポイント高くなっている。一方、「自転車走行などの環境整備」は女性（51.7%）が男性（45.8%）より5.9ポイント、「区施設等の感染防止策の徹底」は女性（28.7%）が男性（22.9%）より5.8ポイント、それぞれ高くなっている。

性／年代別で見ると、「自転車走行などの環境整備」は女性60代（59.2%）で約6割と高くなっている。「電子申請の拡充」は男女ともに年代が低くなるほど割合が高く、男性10・20代（64.9%）で6割半ばとなっている。「キャッシュレス決済の拡充」は男女ともに年代が低くなるほど割合が高く、男性10・20代（51.1%）で5割を超えている。（図3-1-2）

図3-1-3 「新しい生活様式」に即した行政となるために取り組んでほしいことー地域別



地域別で見ると、「自転車走行などの環境整備」は糀谷・羽田地域（56.0%）で5割半ばと高くなっている。「公園等の憩いの場の整備」は蒲田地域（42.4%）と大森地域（41.2%）で4割を超えて高くなっている。「電子申請の拡充」は調布地域（39.3%）で約4割と高くなっている。

(図3-1-3)

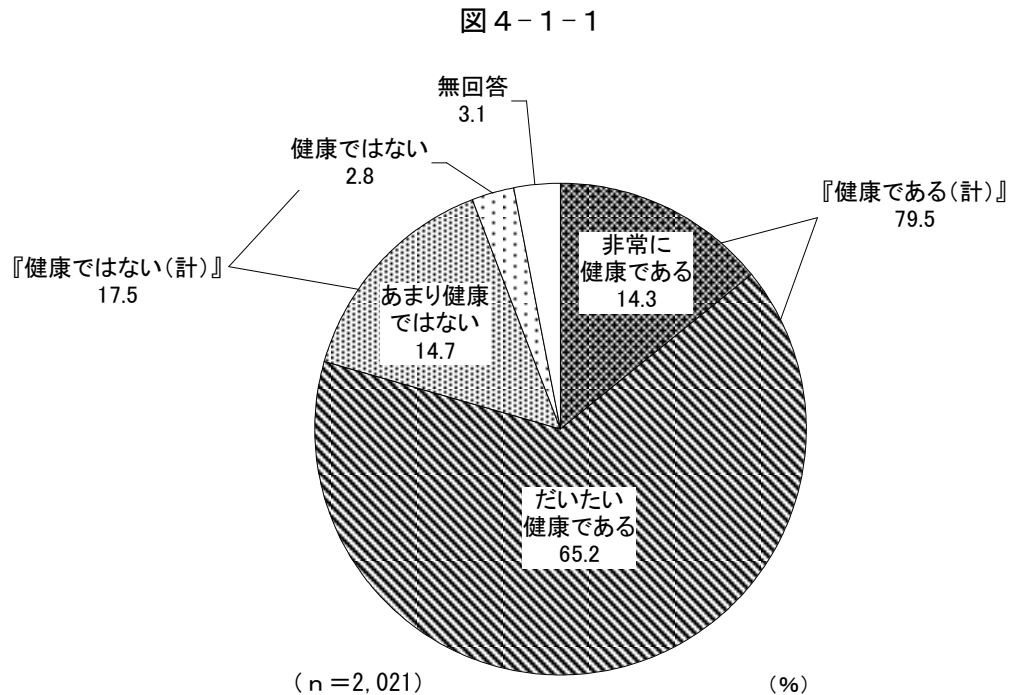
## 《基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち》

### 4. 健康に暮らせるまち

#### (1) 健康状態

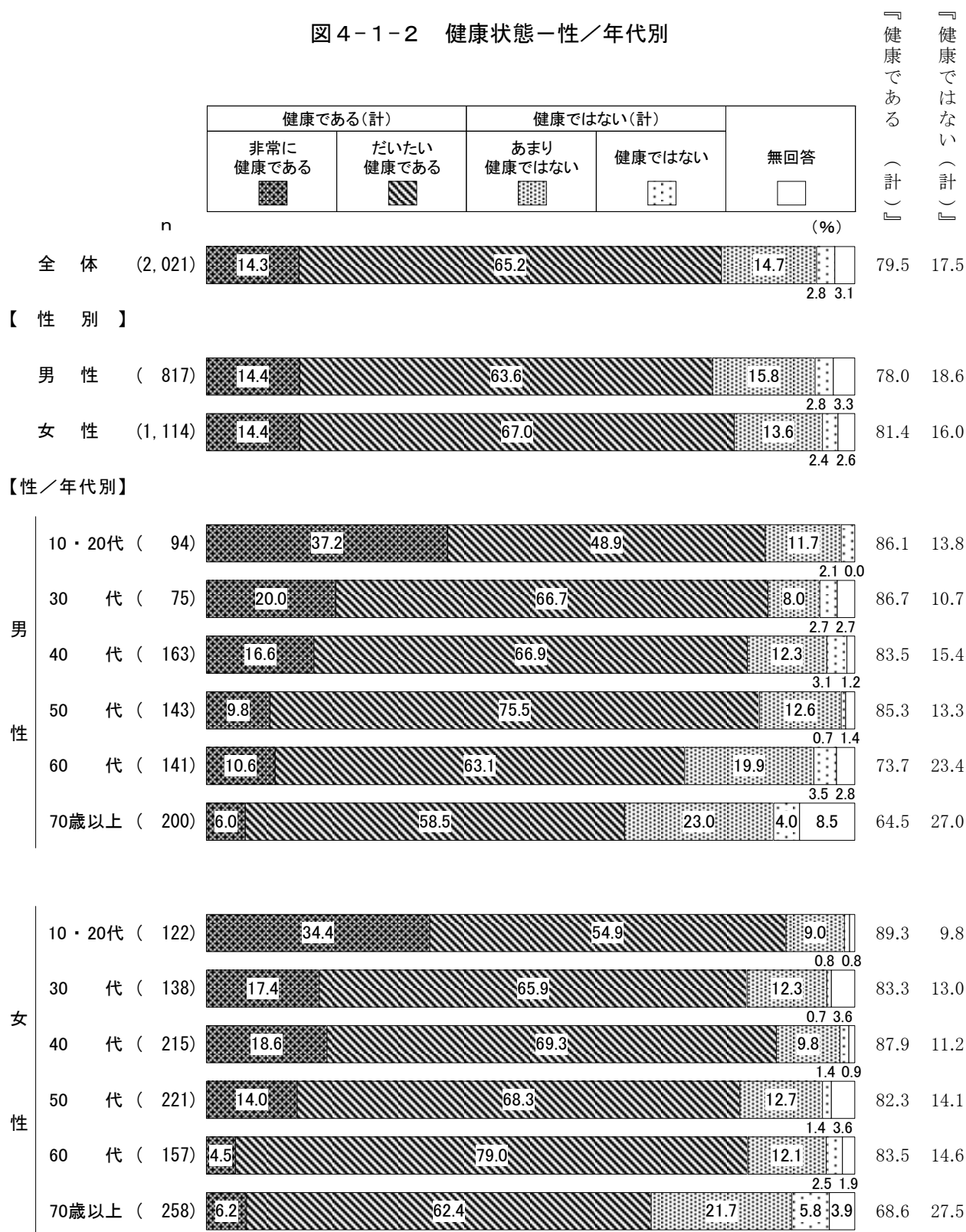
◇「非常に健康である」と「だいたい健康である」を合わせた『健康である(計)』は8割

問8 あなたは、現在のご自身の健康状態をどのように感じていますか。(○は1つだけ)



健康状態をどのように感じているか聞いたところ、「だいたい健康である」(65.2%)が6割半ばで最も高く、これに「非常に健康である」(14.3%)を合わせた『健康である(計)』(79.5%)は8割となっている。一方、「あまり健康ではない」(14.7%)と「健康ではない」(2.8%)を合わせた『健康ではない(計)』(17.5%)は2割近くとなっている。(図4-1-1)

図 4-1-2 健康状態—性／年代別

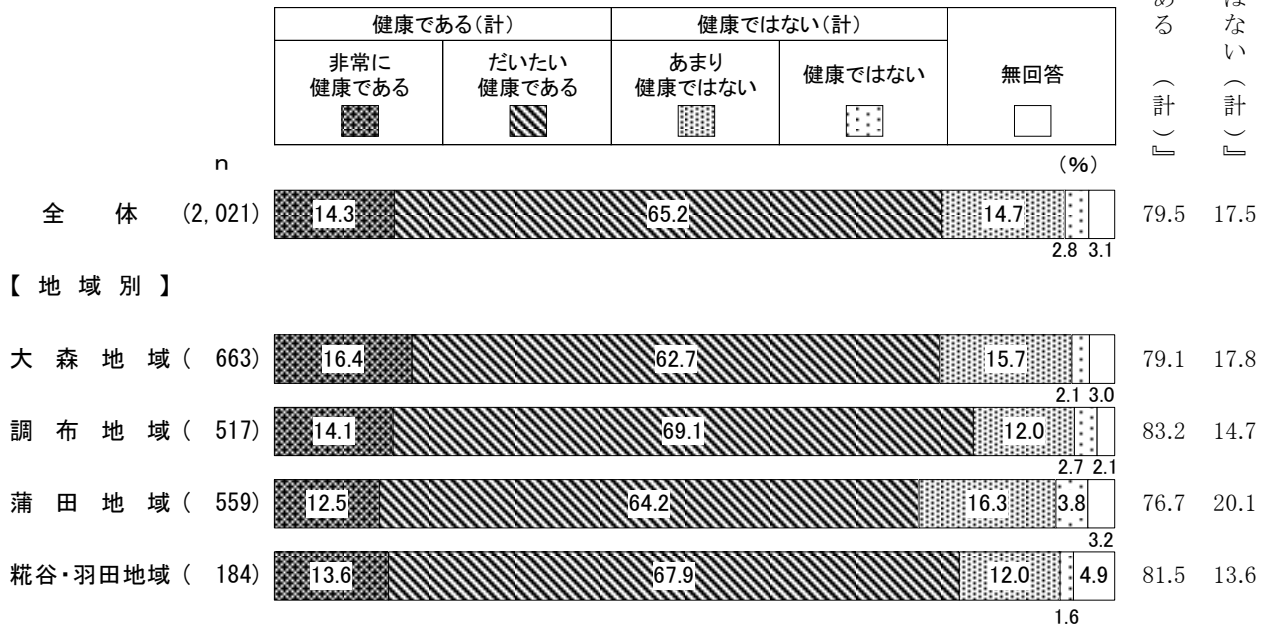


性別でみると、『健康である(計)』は女性(81.4%)が男性(78.0%)より3.4ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『健康である(計)』は女性10・20代(89.3%)で約9割と高くなっている。一方、『健康ではない(計)』は女性70歳以上(27.5%)と男性70歳以上(27.0%)で3割近くと高くなっている。(図4-1-2)

図4-1-3 健康状態—地域別

『健康である (計)』  
『健康ではない (計)』



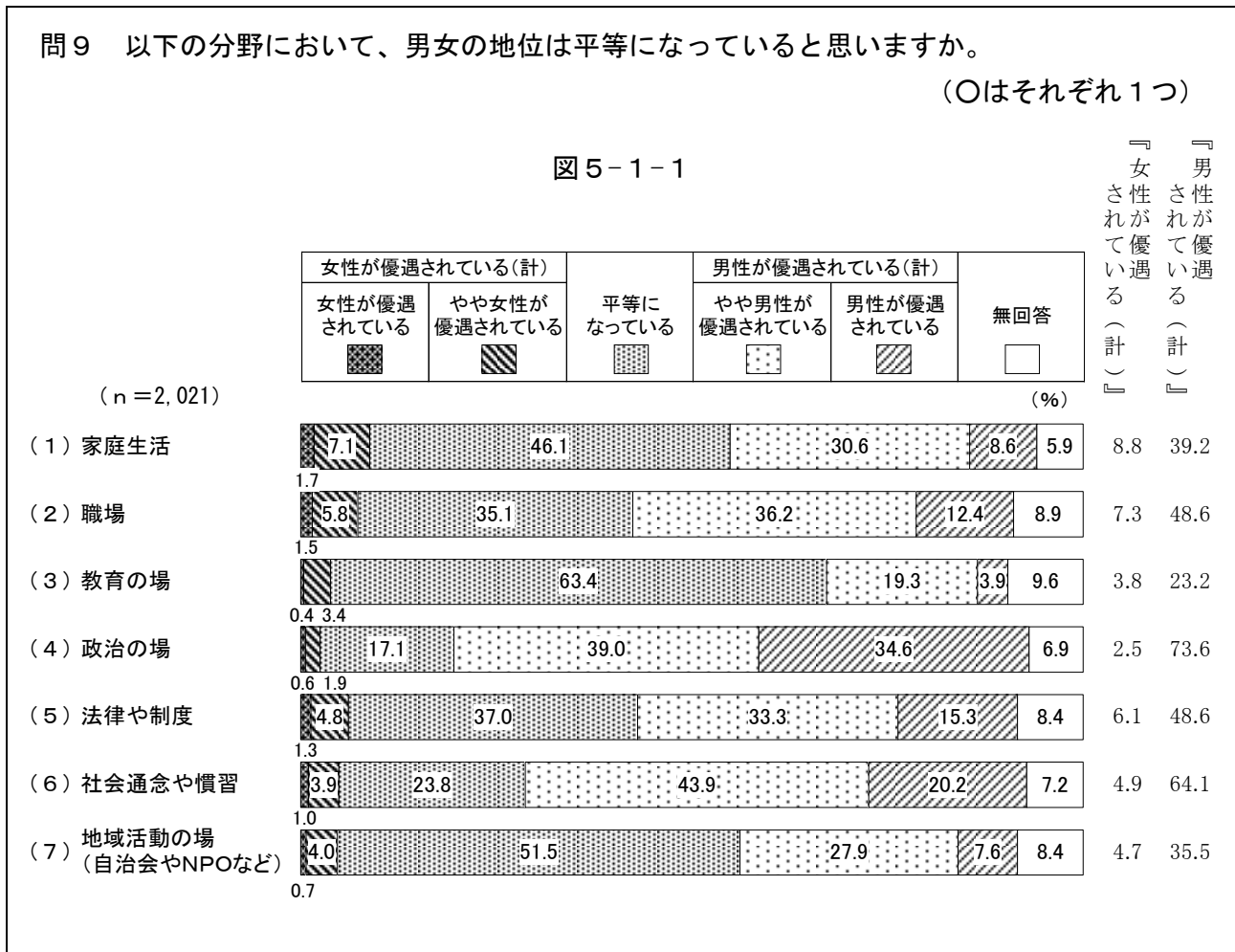
地域別でみると、『健康である (計)』は調布地域 (83.2%) と糀谷・羽田地域 (81.5%) で8割を超えて高くなっている。一方、『健康ではない (計)』は蒲田地域 (20.1%) で2割と高くなっている。(図4-1-3)

## 5. 社会的包摂の中で安心して暮らせるまち

### (1) 男女の地位平等

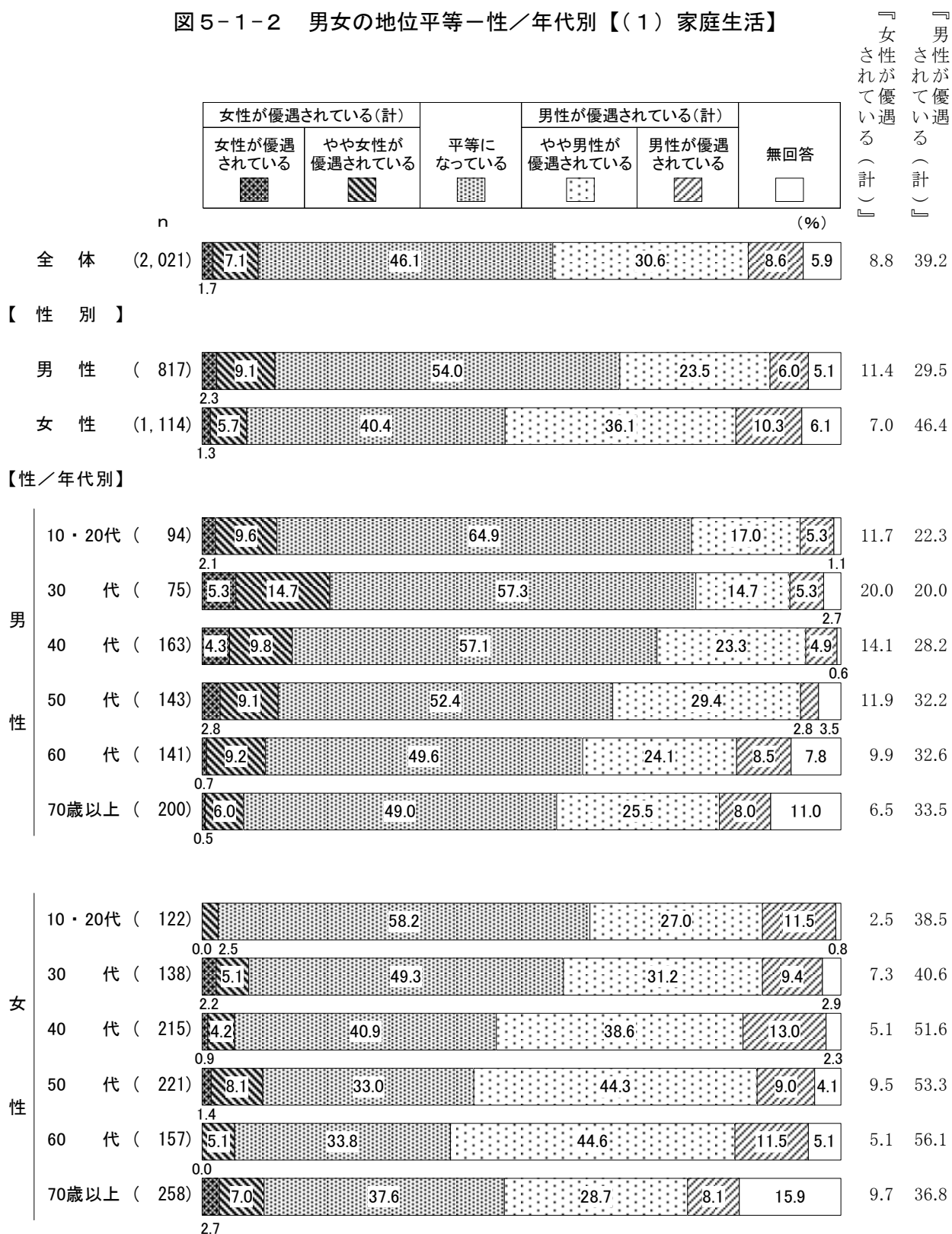
◇「平等になっている」は“教育の場”で6割を超える

『男性が優遇されている(計)』は“政治の場”で7割を超える



男女の地位について聞いたところ、「女性が優遇されている」と「やや女性が優遇されている」を合わせた『女性が優遇されている(計)』は全ての項目で1割未満となっている。一方、「やや男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている(計)』は“政治の場”(73.6%)で7割を超え、“社会通念や慣習”(64.1%)で6割半ばと高くなっている。また、「平等になっている」は“教育の場”(63.4%)で6割を超え、“地域活動の場(自治会やNPOなど)”(51.5%)で5割を超えて高くなっている。(図5-1-1)

図5-1-2 男女の地位平等—性／年代別【(1) 家庭生活】



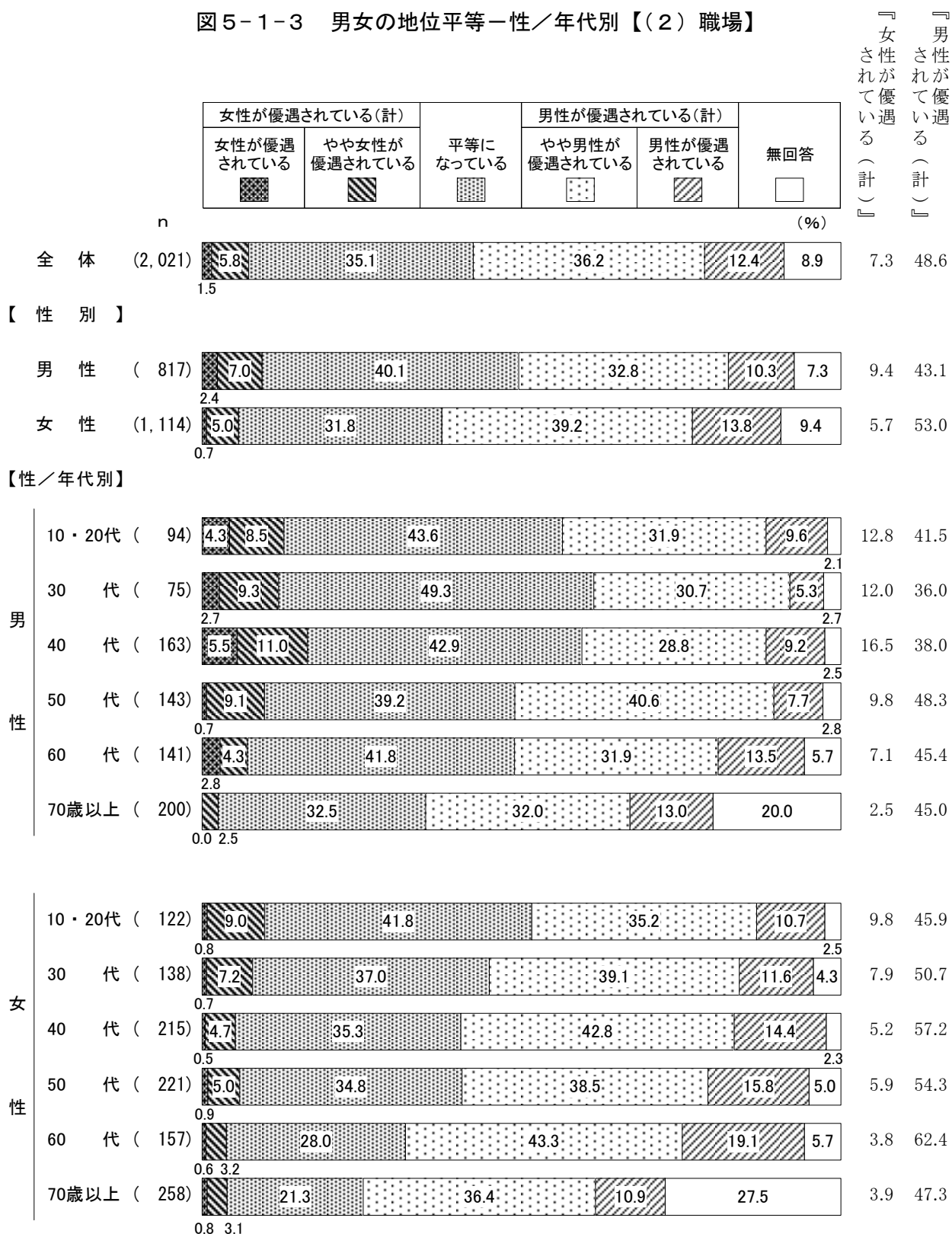
“家庭生活”を性別で見ると、『男性が優遇されている(計)』は女性(46.4%)が男性(29.5%)より16.9ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『男性が優遇されている(計)』は女性60代(56.1%)で5割半ばと高くなっている。「平等になっている」は男性10・20代(64.9%)で6割半ばと高くなっている。

(図5-1-2)



図5-1-3 男女の地位平等－性／年代別【(2) 職場】

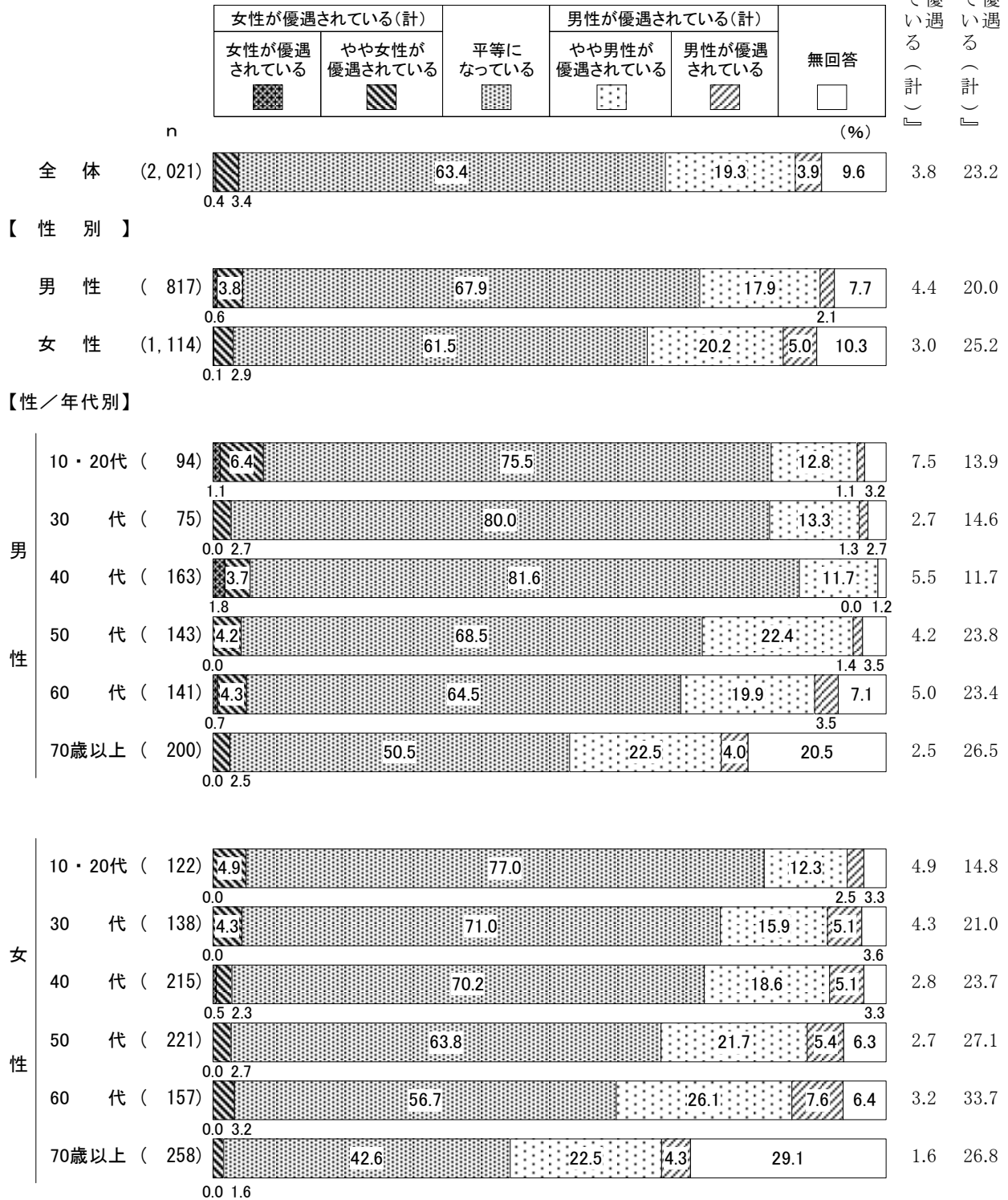


“職場”を性別で見ると、『男性が優遇されている(計)』は女性(53.0%)が男性(43.1%)より9.9ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『男性が優遇されている(計)』は女性60代(62.4%)で6割を超えて高くなっている。「平等になっている」は男性30代(49.3%)で約5割と高くなっている。(図5-1-3)

図5-1-4 男女の地位平等—性／年代別【(3) 教育の場】

『女性  
が優遇  
されて  
いる  
(計)』  
『男性  
が優遇  
されて  
いる  
(計)』

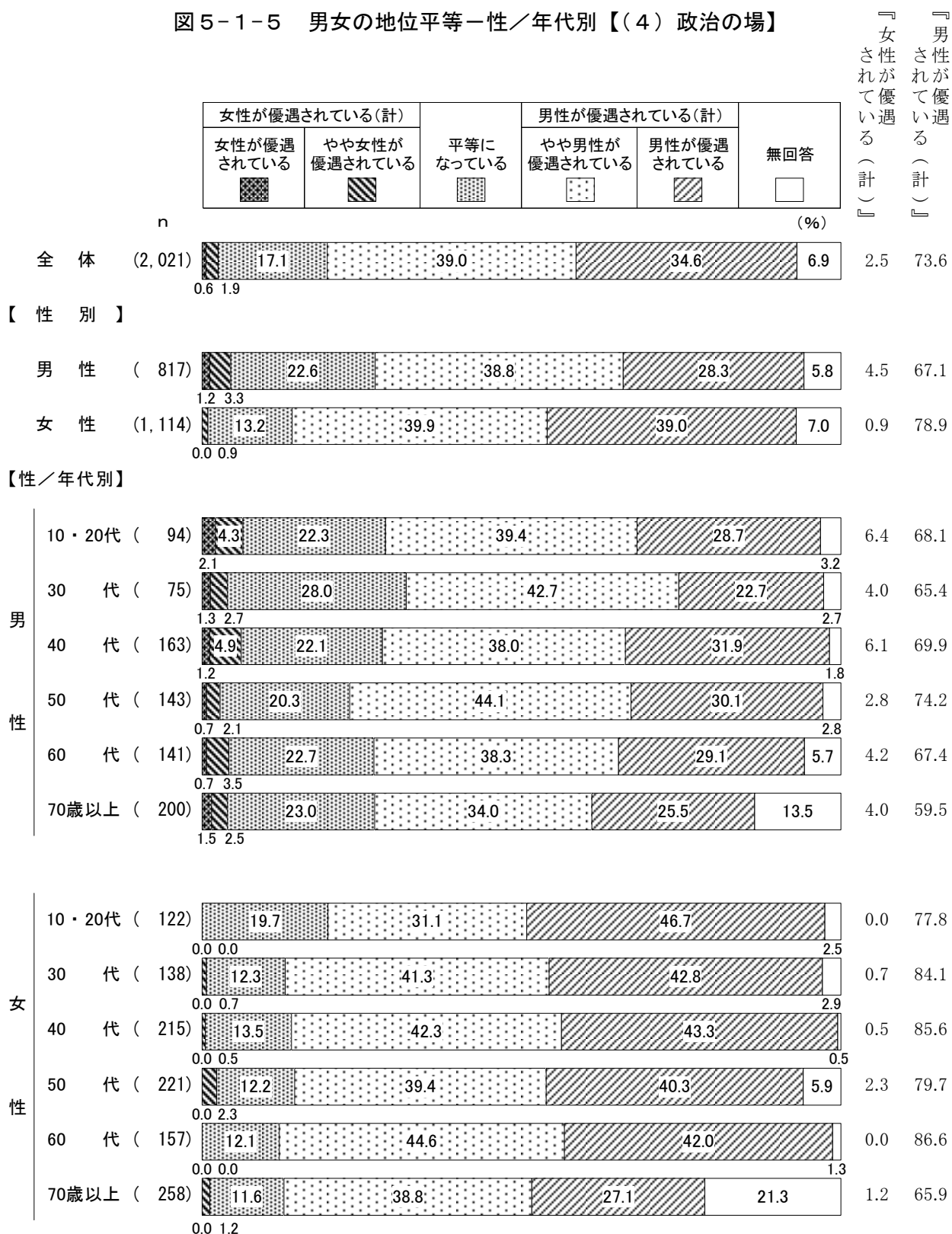


“教育の場”を性別で見ると、『男性が優遇されている(計)』は女性(25.2%)が男性(20.0%)より5.2ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『男性が優遇されている(計)』は女性60代(33.7%)で3割を超えて高くなっている。「平等になっている」は男性40代(81.6%)で8割を超えて高くなっている。

(図5-1-4)

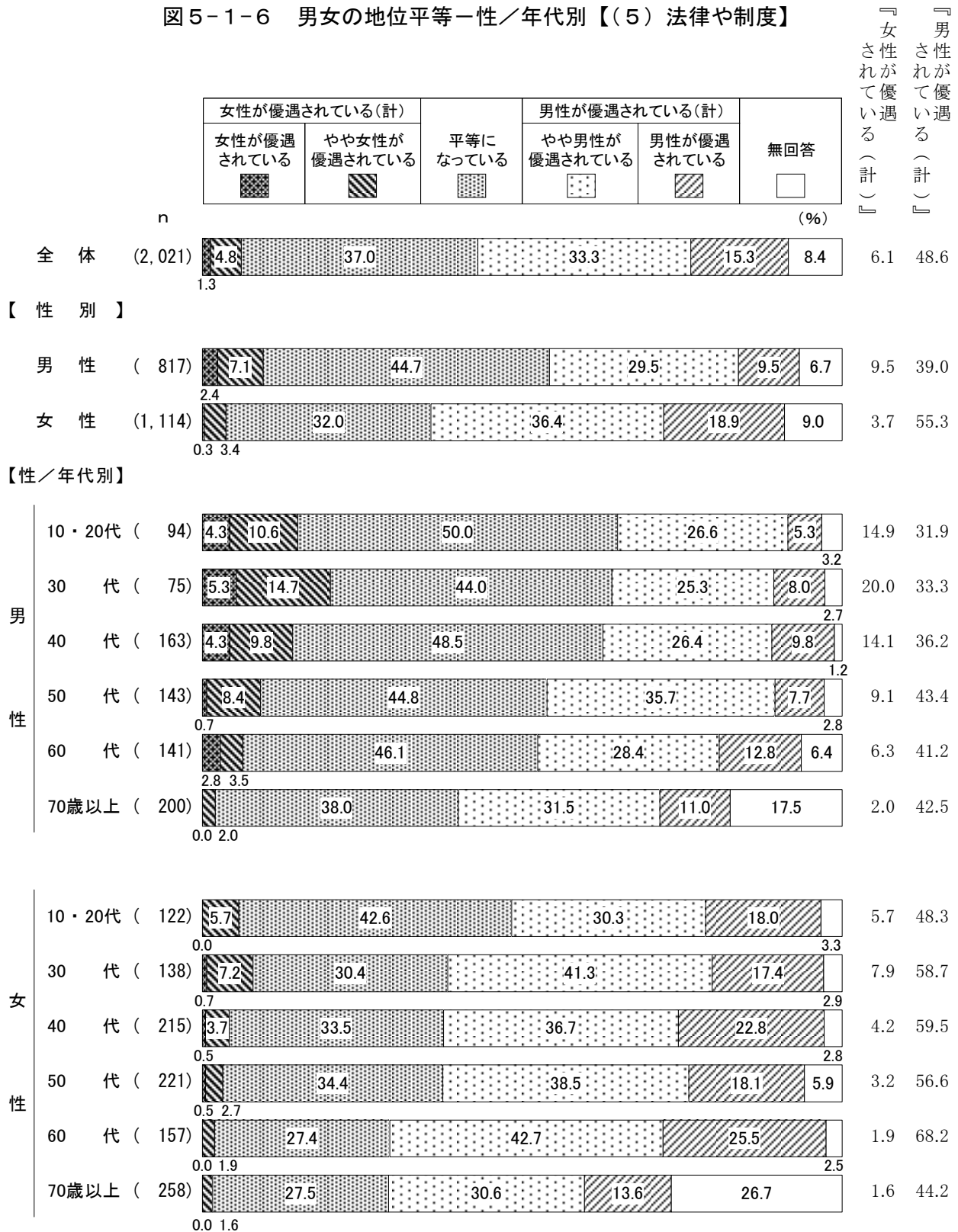
図 5-1-5 男女の地位平等—性／年代別【(4) 政治の場】



“政治の場”を性別で見ると、『男性が優遇されている(計)』は女性(78.9%)が男性(67.1%)より11.8ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『男性が優遇されている(計)』は女性60代(86.6%)で9割近くと高くなっている。「平等になっている」は男性30代(28.0%)で3割近くと高くなっている。(図5-1-5)

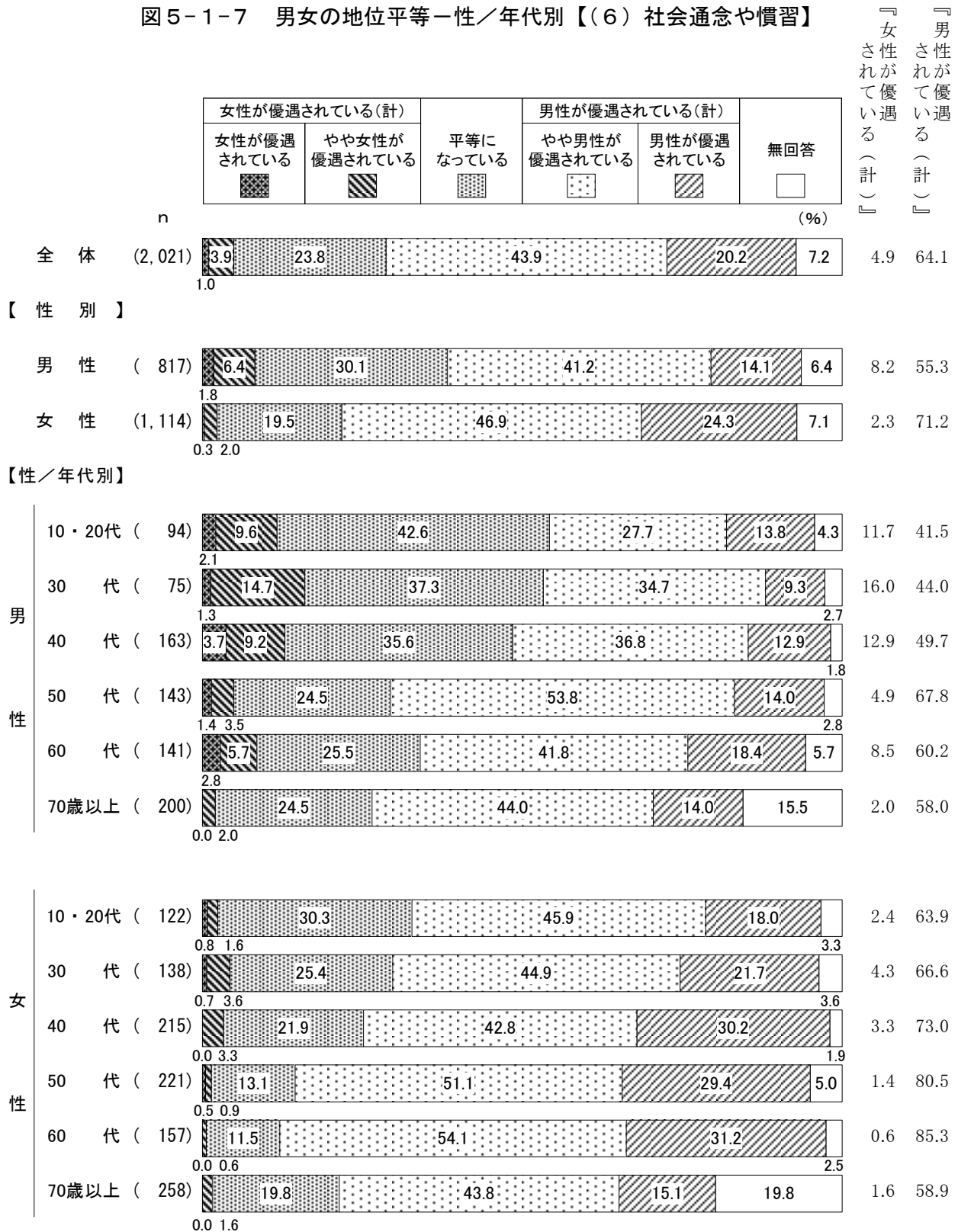
図5-1-6 男女の地位平等一性／年代別【(5) 法律や制度】



“法律や制度”を性別で見ると、『男性が優遇されている(計)』は女性(55.3%)が男性(39.0%)より16.3ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『男性が優遇されている(計)』は女性60代(68.2%)で7割近くと高くなっている。「平等になっている」は男性10・20代(50.0%)で5割と高くなっている。(図5-1-6)

図5-1-7 男女の地位平等—性／年代別【(6) 社会通念や慣習】

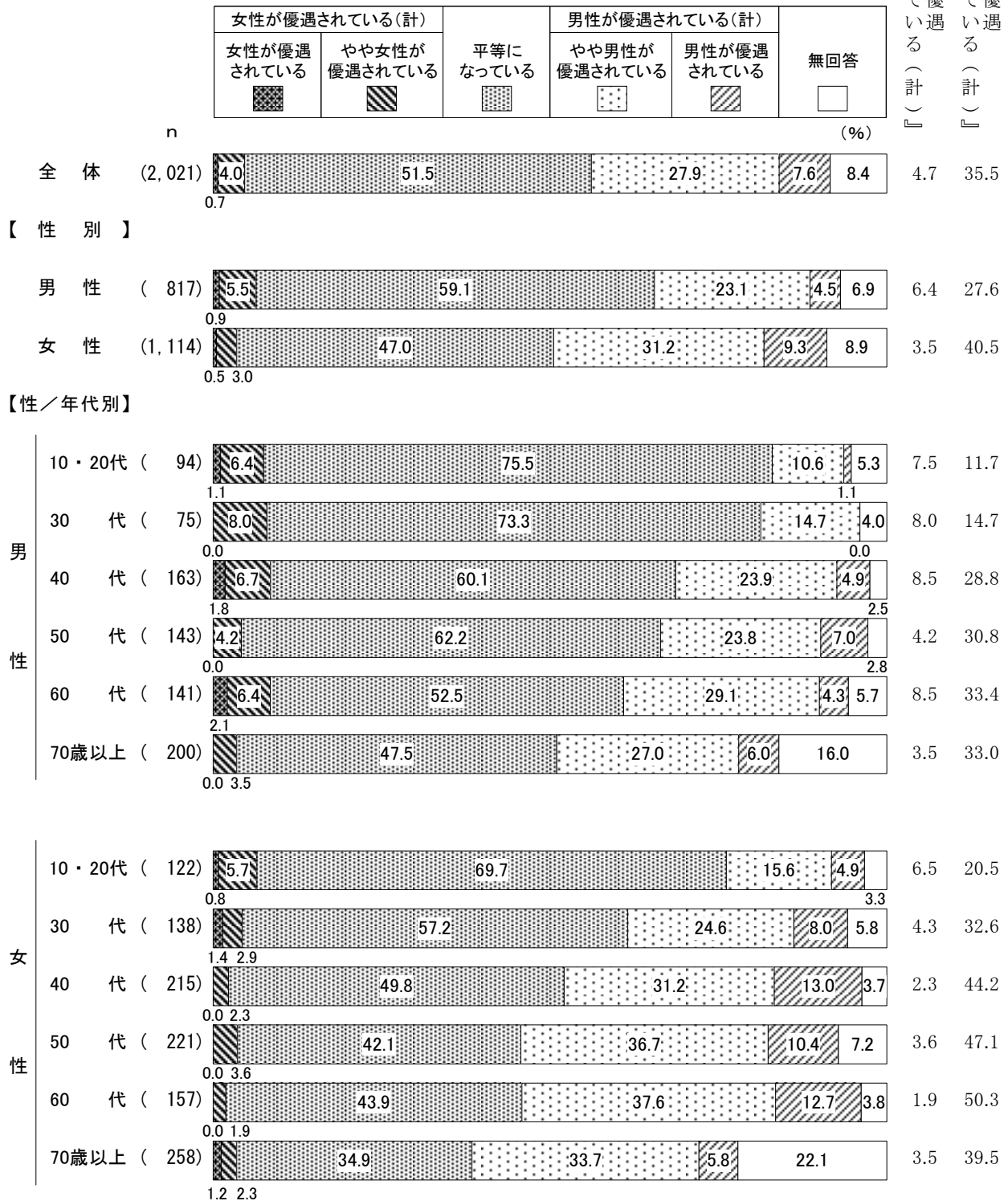


“社会通念や慣習”を性別で見ると、『男性が優遇されている(計)』は女性(71.2%)が男性(55.3%)より15.9ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『男性が優遇されている(計)』は女性60代(85.3%)で8割半ばと高くなっている。「平等になっている」は男性10・20代(42.6%)で4割を超えて高くなっている。

(図5-1-7)

図5-1-8 男女の地位平等－性／年代別【(7)地域活動の場(自治会やNPOなど)】 『女性』 『男性』  
 『女性が優遇』 『男性が優遇』  
 『されている(計)』 『されている(計)』



“地域活動の場(自治会やNPOなど)”を性別で見ると、『男性が優遇されている(計)』は女性(40.5%)が男性(27.6%)より12.9ポイント高くなっている。

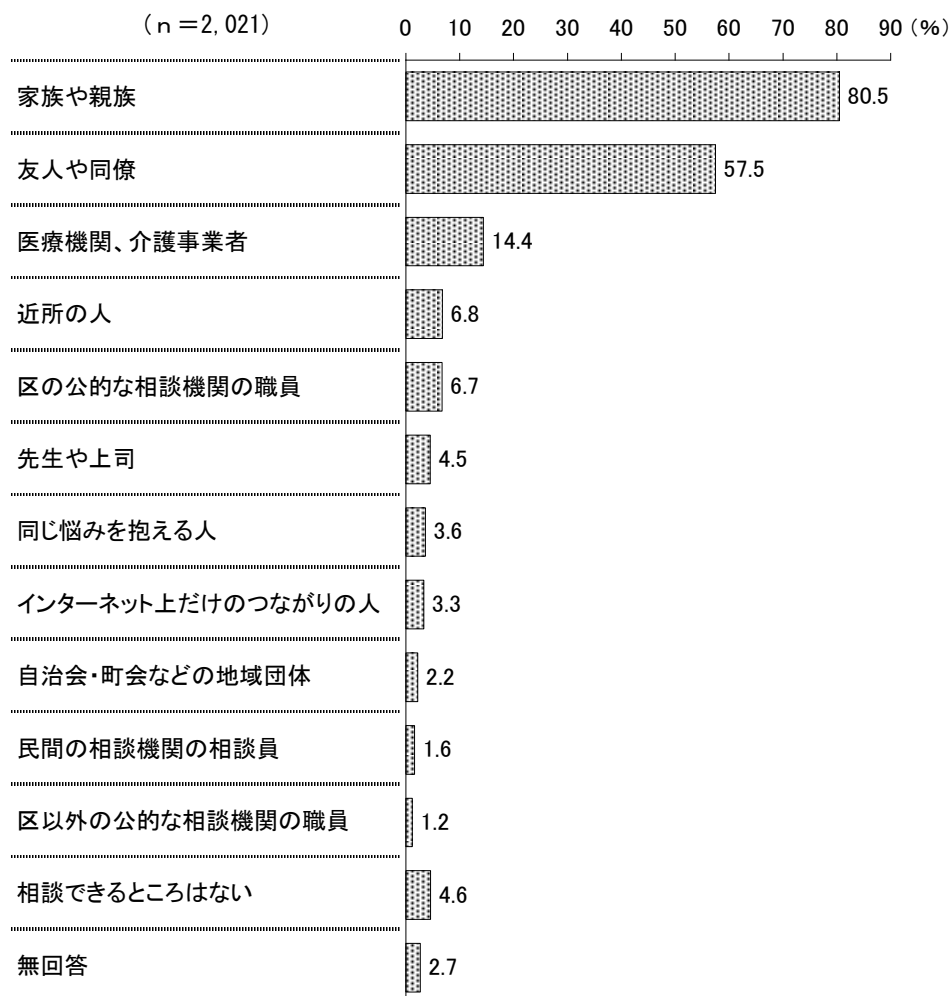
性／年代別で見ると、『男性が優遇されている(計)』は女性60代(50.3%)で5割と高くなっている。「平等になっている」は男性10・20代(75.5%)で7割半ばと高くなっている。(図5-1-8)

## (2) 困りごとや心配ごとがあった場合の相談先

◇「家族や親族」が約8割

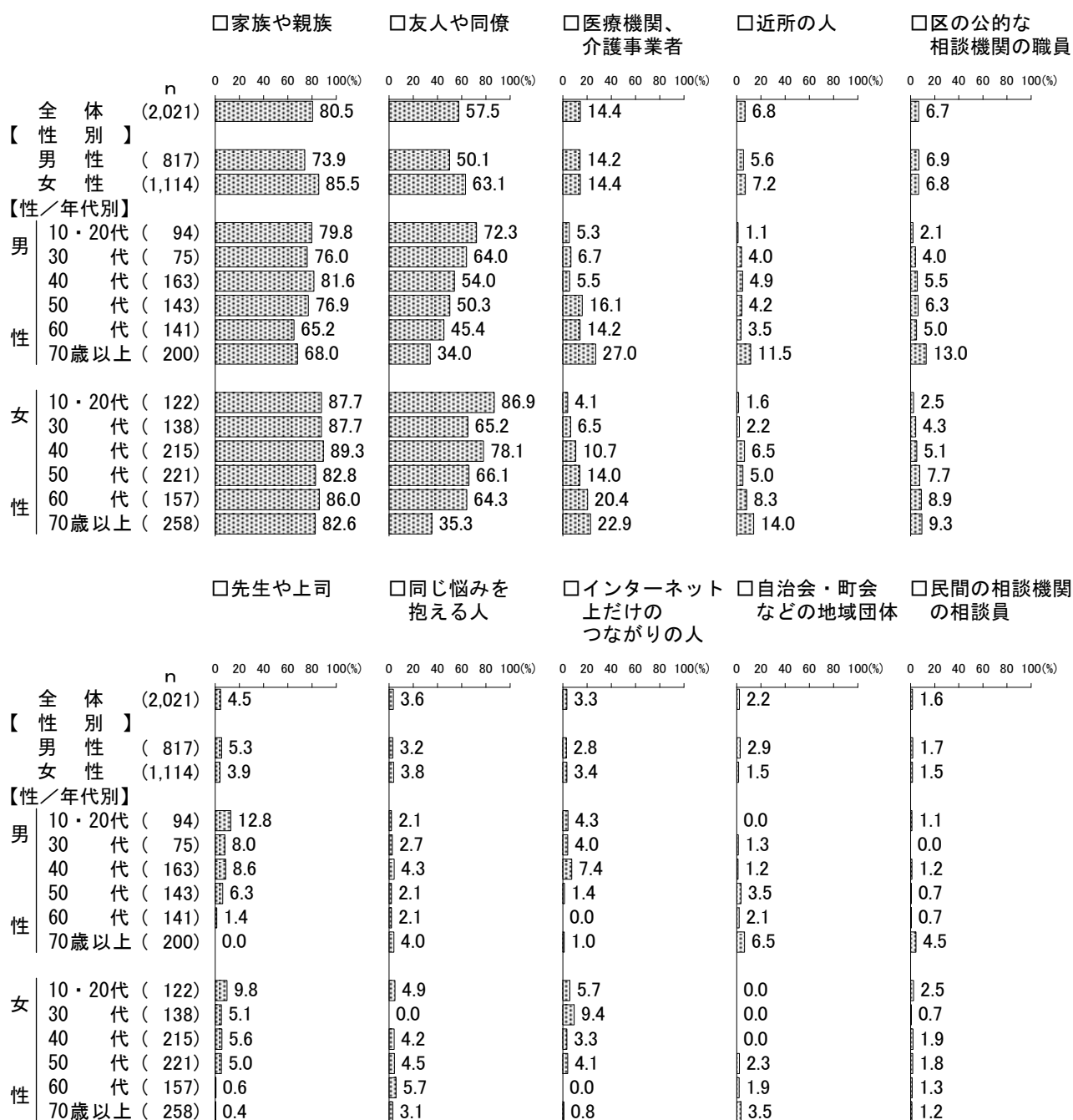
問10 あなたは、日々の暮らしで困りごとや心配ごとがあった場合、主に誰に相談していますか。(〇はいくつでも)

図5-2-1



日々の暮らしで困りごとや心配ごとがあった場合、主に誰に相談しているか聞いたところ、「家族や親族」(80.5%)が約8割で最も高く、次いで「友人や同僚」(57.5%)、「医療機関、介護事業者」(14.4%)などの順になっている。(図5-2-1)

図5-2-2 困りごとや心配ごとがあった場合の相談先一性／年代別（上位10項目）

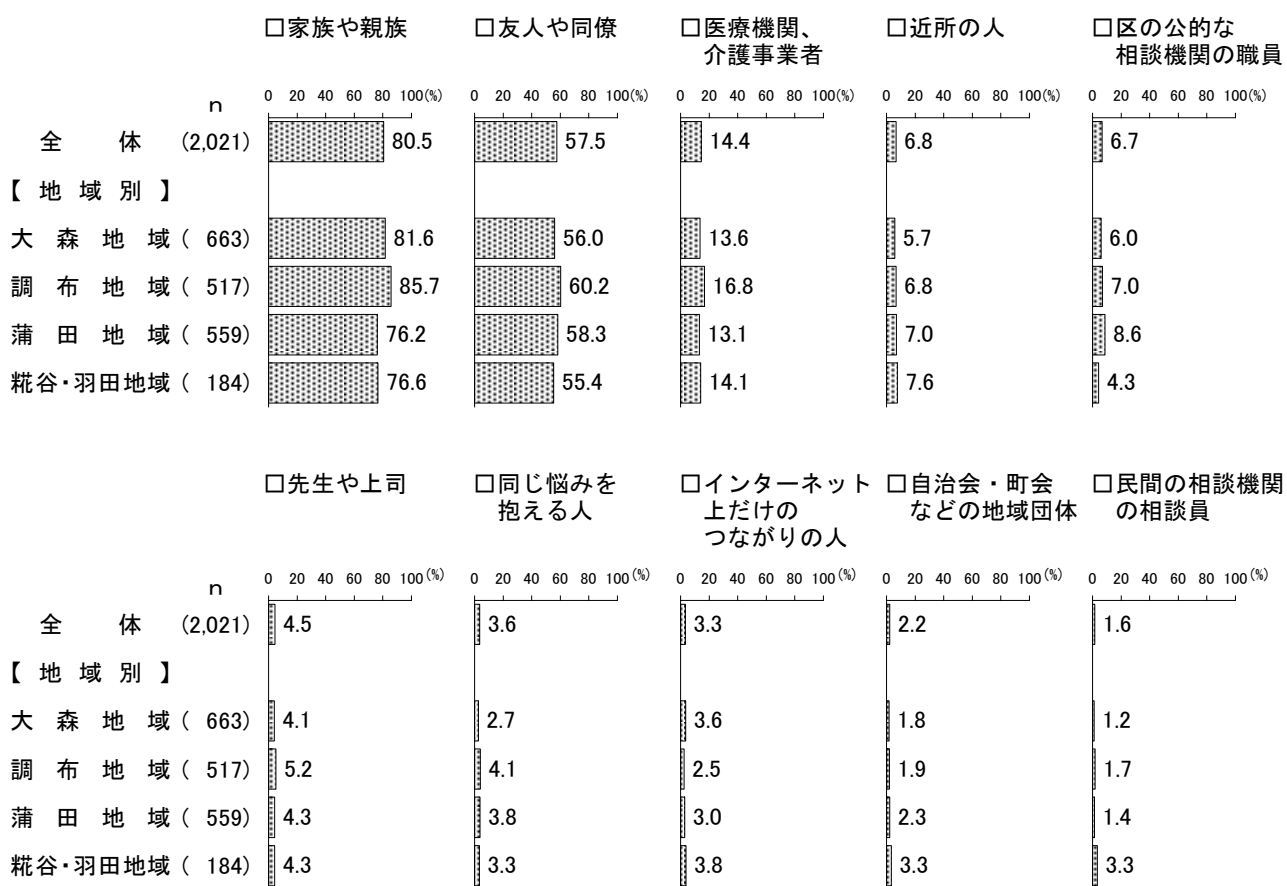


上位10項目を性別で見ると、「友人や同僚」は女性（63.1%）が男性（50.1%）より13.0ポイント、「家族や親族」は女性（85.5%）が男性（73.9%）より11.6ポイント、それぞれ高くなっている。

性／年代別で見ると、「家族や親族」は女性40代（89.3%）で約9割と高くなっている。「友人や同僚」は女性10・20代（86.9%）で9割近くと高くなっている。「医療機関、介護事業者」は男性70歳以上（27.0%）で3割近くと高くなっている。（図5-2-2）



図5-2-3 困りごとや心配ごとがあった場合の相談先—地域別（上位10項目）



上位10項目を地域別で見ると、「家族や親族」は調布地域（85.7%）で8割半ばと高くなっている。「友人や同僚」は調布地域（60.2%）で6割と高くなっている。（図5-2-3）

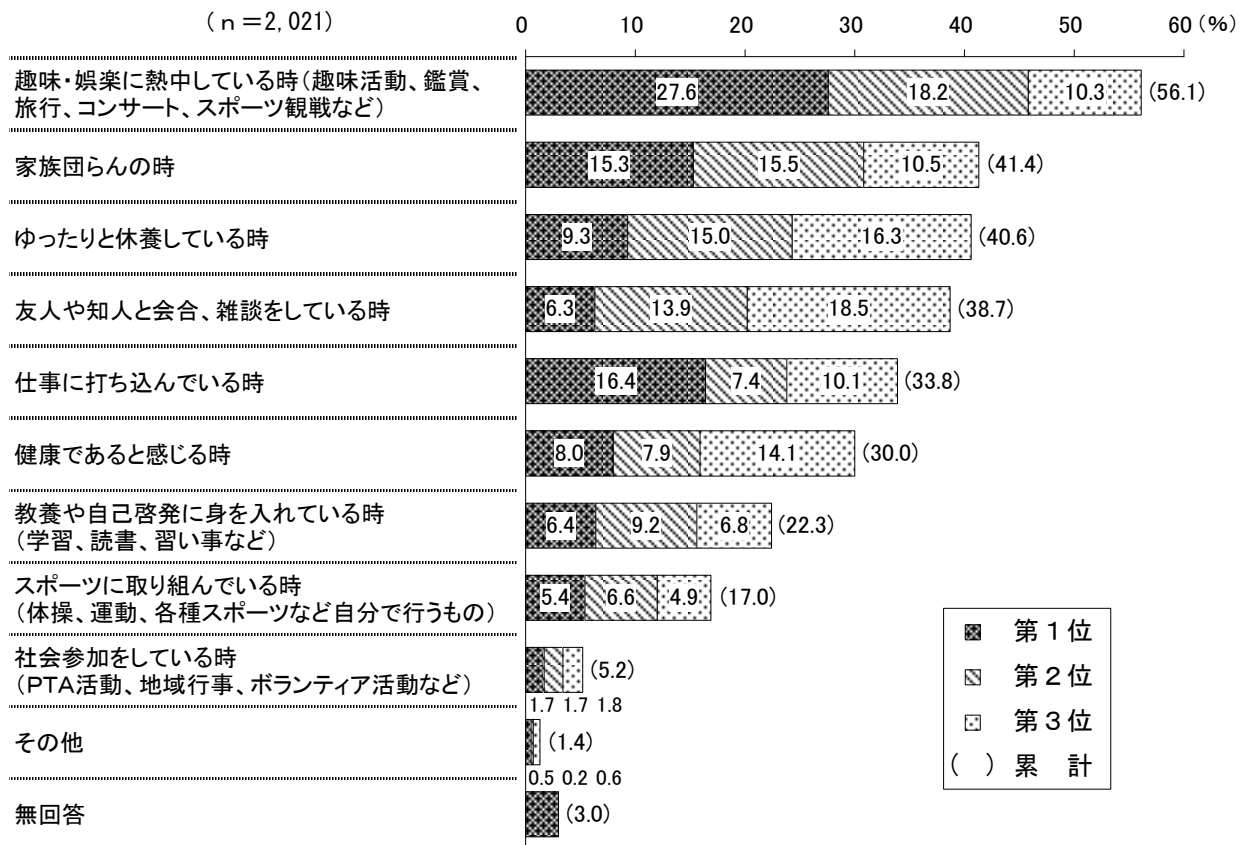
## 6. 学びやスポーツを通じて誰もが生きがいをもって暮らせるまち

### (1) 日常生活のなかで充実感や張り合いを感じる時

◇第1位から第3位までを合わせた《累計》では「趣味・娯楽に熱中している時」が5割半ば

問11 日常生活のなかで、充実感や張り合いを感じるのはどのような時ですか。  
(1位から3位まで1つずつ選んで、下の回答欄に番号を記入してください)

図6-1-1

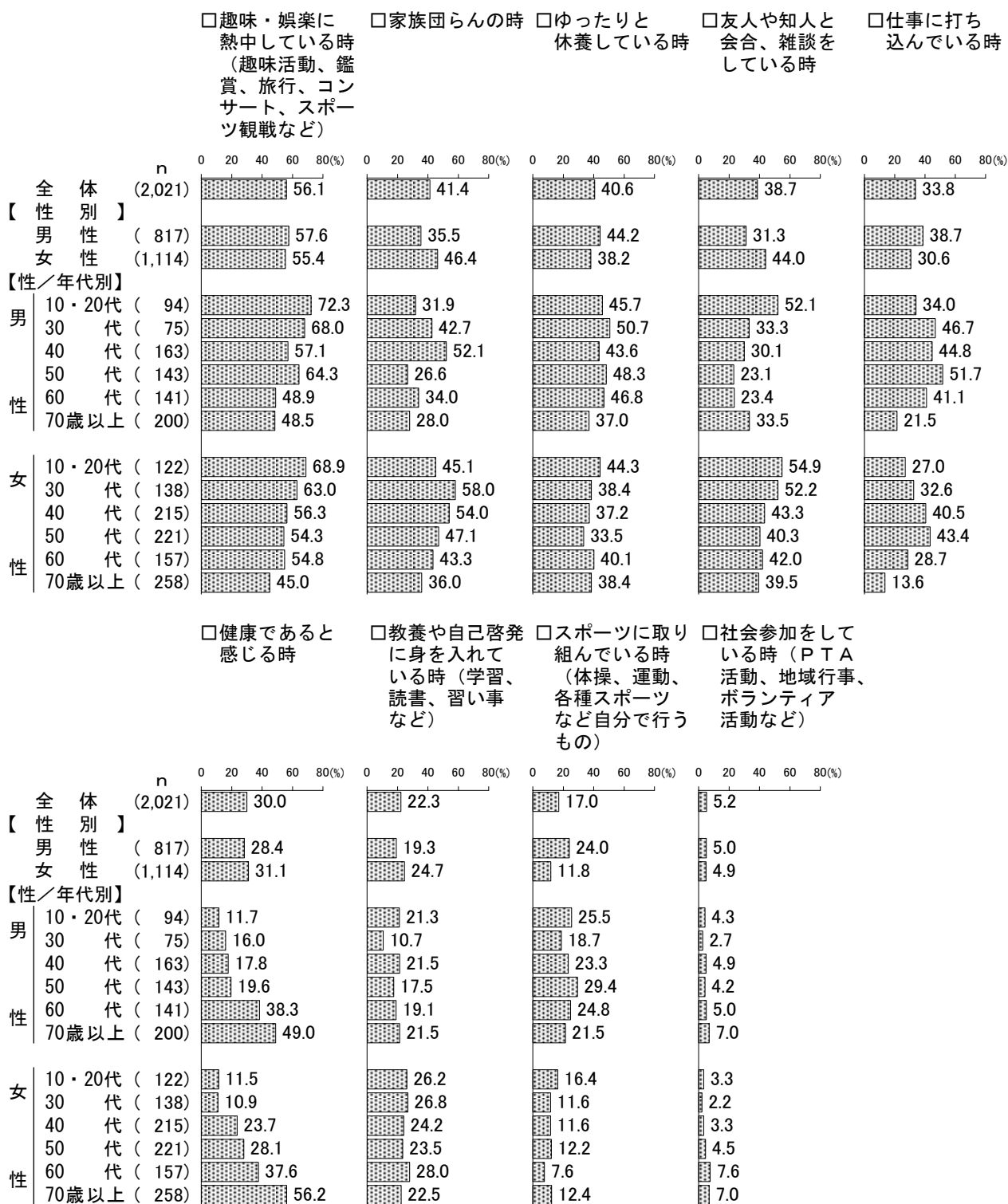


日常生活のなかで、充実感や張り合いを感じるのはどのような時か聞いたところ、第1位では「趣味・娯楽に熱中している時(趣味活動、鑑賞、旅行、コンサート、スポーツ観戦など)」(27.6%)が3割近くで最も高く、次いで「仕事に打ち込んでいる時」(16.4%)、「家族団らんの時」(15.3%)などの順になっている。

また、第1位から第3位までを合わせた《累計》で見ると、「趣味・娯楽に熱中している時(趣味活動、鑑賞、旅行、コンサート、スポーツ観戦など)」(56.1%)が5割半ばで最も高く、次いで「家族団らんの時」(41.4%)、「ゆったりと休養している時」(40.6%)、「友人や知人と会合、雑談をしている時」(38.7%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「家事をしている時」、「子育てをしている時」、「ペットと過ごしている時」などがあげられている。(図6-1-1)

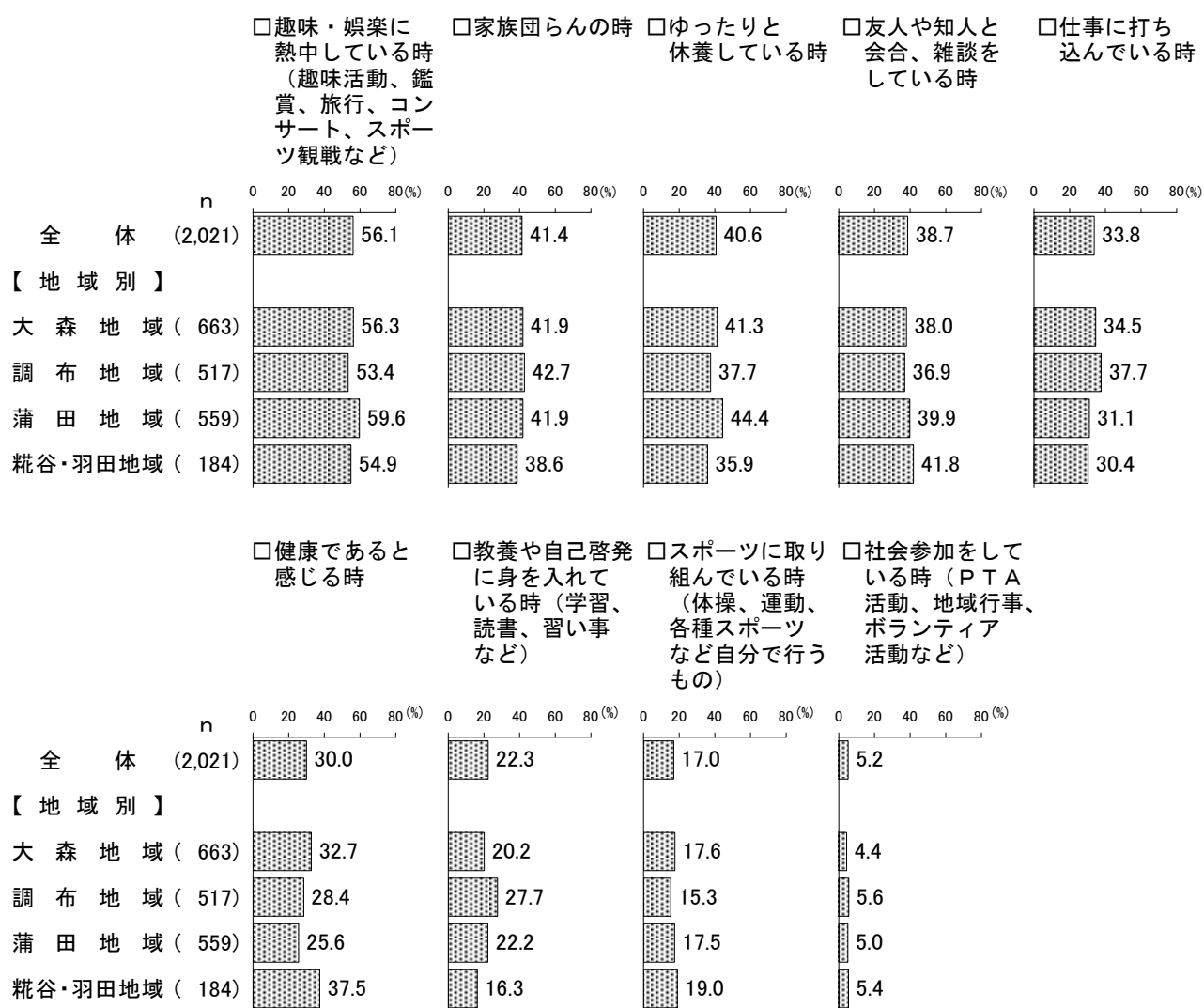
図6-1-2 日常生活のなかで充実感や張り合いを感じる時—性／年代別（累計）



性別でみると、「友人や知人と会合、雑談をしている時」は女性（44.0%）が男性（31.3%）より12.7ポイント高くなっている。一方、「スポーツに取り組んでいる時」は男性（24.0%）が女性（11.8%）より12.2ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「趣味・娯楽に熱中している時」は男性10・20代（72.3%）で7割を超えて高くなっている。「家族団らんの時」は女性30代（58.0%）で6割近くと高くなっている。「健康であると感じる時」は男女ともにおおむね年代が高くなるほど割合が高く、女性70歳以上（56.2%）で5割半ばとなっている。（図6-1-2）

図6-1-3 日常生活のなかで充実感や張り合いを感じる時—地域別（累計）



地域別でみると、「趣味・娯楽に熱中している時」は蒲田地域（59.6%）で6割と高くなっている。「ゆったりと休養している時」は蒲田地域（44.4%）で4割半ばと高くなっている。「友人や知人と会合、雑談をしている時」は糞谷・羽田地域（41.8%）で4割を超えて高くなっている。

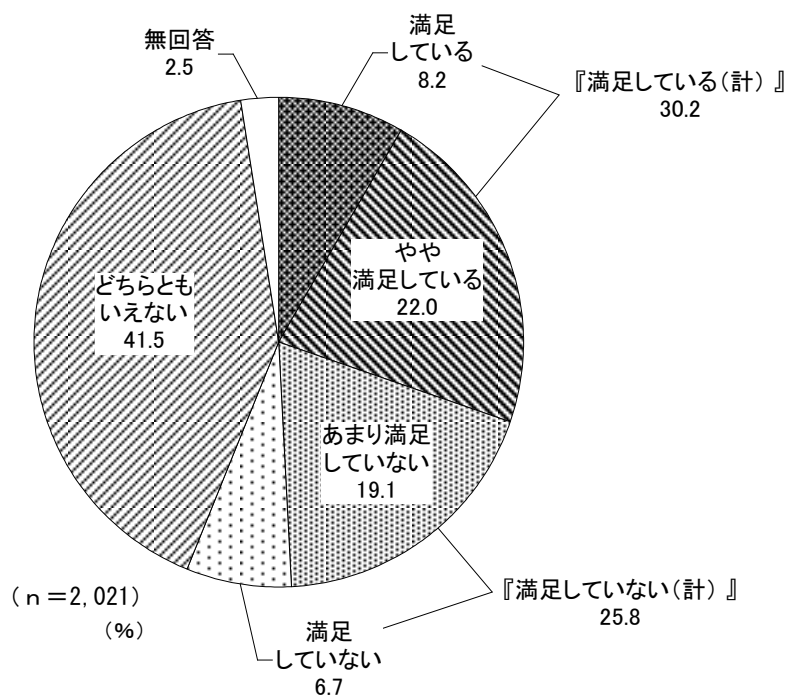
(図6-1-3)

## (2) 区内の歴史や文化、芸術に親しめる環境への満足度

◇「満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足している(計)』は3割

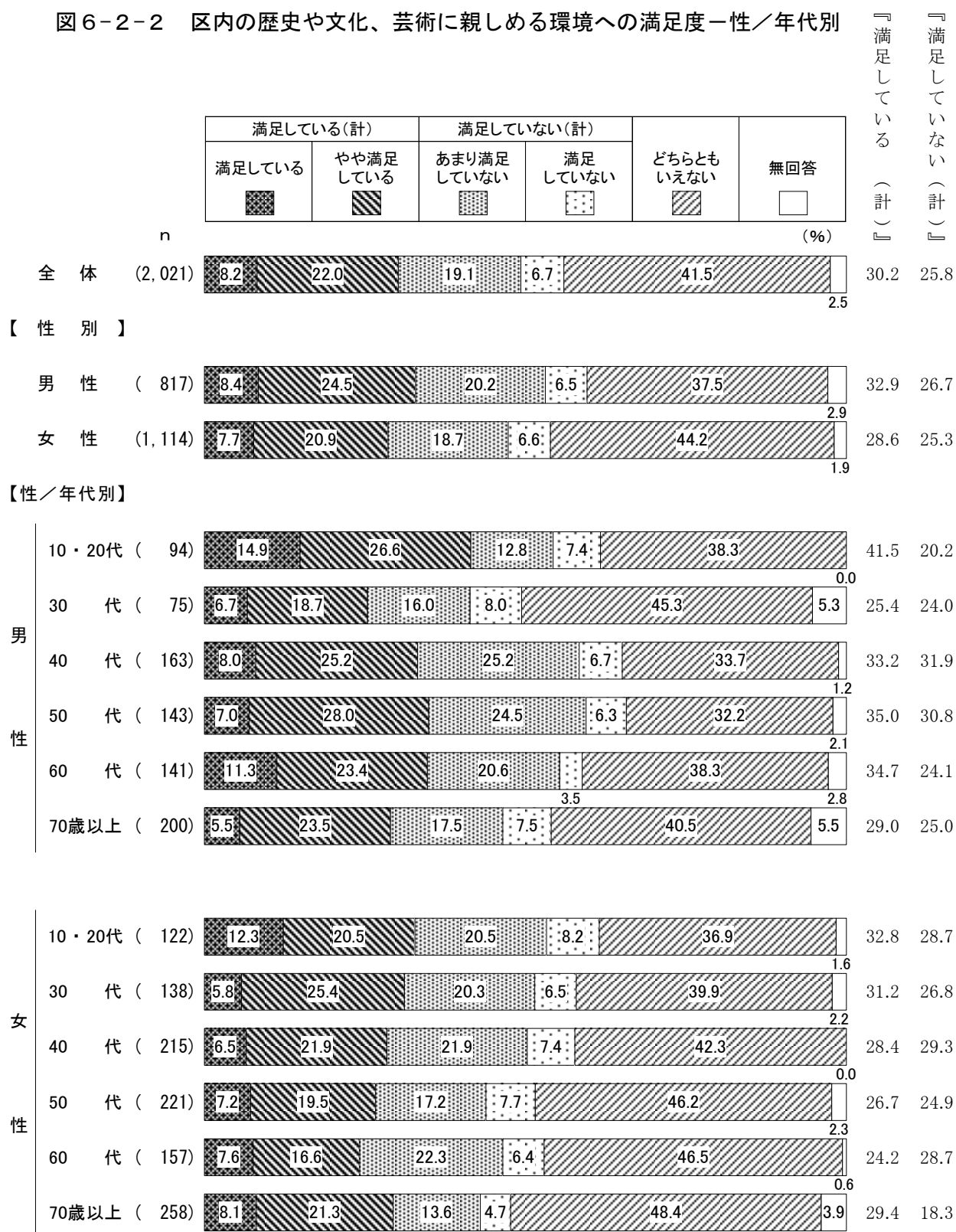
問12 あなたは、区内の歴史や文化、芸術に親しめる環境に満足していますか。(○は1つだけ)

図6-2-1



区内の歴史や文化、芸術に親しめる環境への満足度を聞いたところ、「満足している」(8.2%)と「やや満足している」(22.0%)を合わせた『満足している(計)』(30.2%)は3割となっている。一方、「あまり満足していない」(19.1%)と「満足していない」(6.7%)を合わせた『満足していない(計)』(25.8%)は2割半ばとなっている。また、「どちらともいえない」(41.5%)は4割を超えている。(図6-2-1)

図6-2-2 区内の歴史や文化、芸術に親しめる環境への満足度－性／年代別

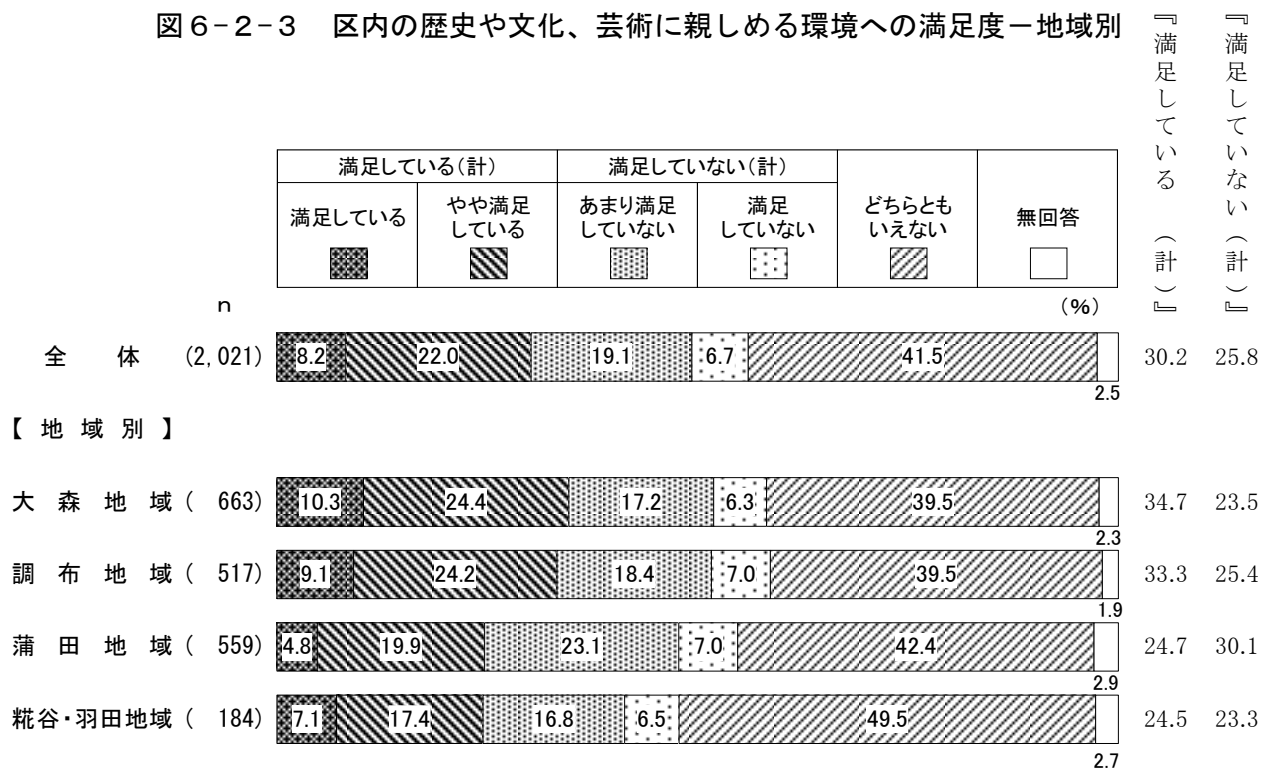


性別でみると、『満足している(計)』は男性(32.9%)が女性(28.6%)より4.3ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『満足している(計)』は男性10・20代(41.5%)で4割を超えて高くなっている。一方、『満足していない(計)』は男性40代(31.9%)で3割を超えて高くなっている。

(図6-2-2)

図 6-2-3 区内の歴史や文化、芸術に親しめる環境への満足度—地域別



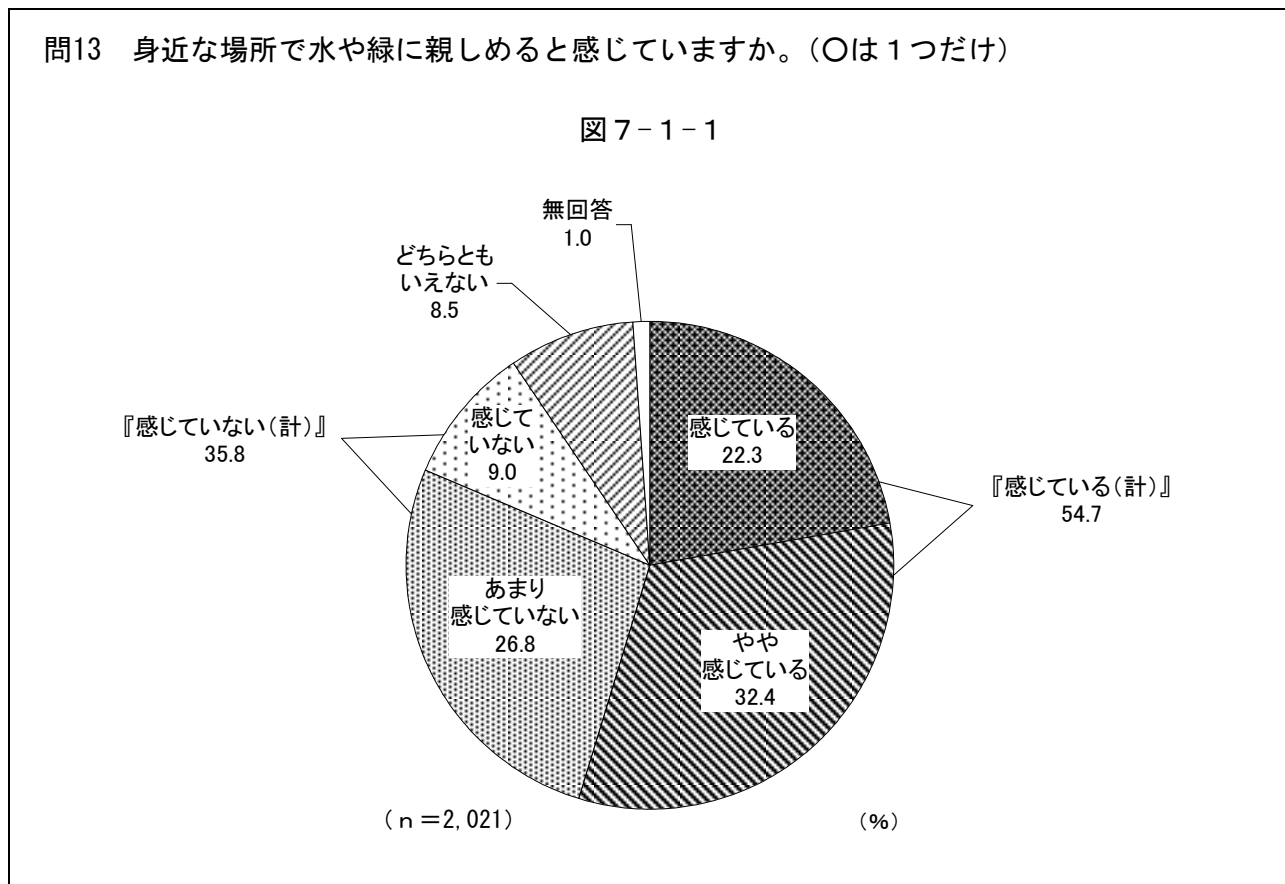
地域別でみると、『満足している (計)』は大森地域 (34.7%) で3割半ばと高くなっている。一方、『満足していない (計)』は蒲田地域 (30.1%) で3割と高くなっている。(図 6-2-3)

《基本目標2 まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市》

7. 身近な場所で水やみどりと触れ合える、潤いとやすらぎのあるまち

(1) 身近な場所で水や緑に親しめると感じているか

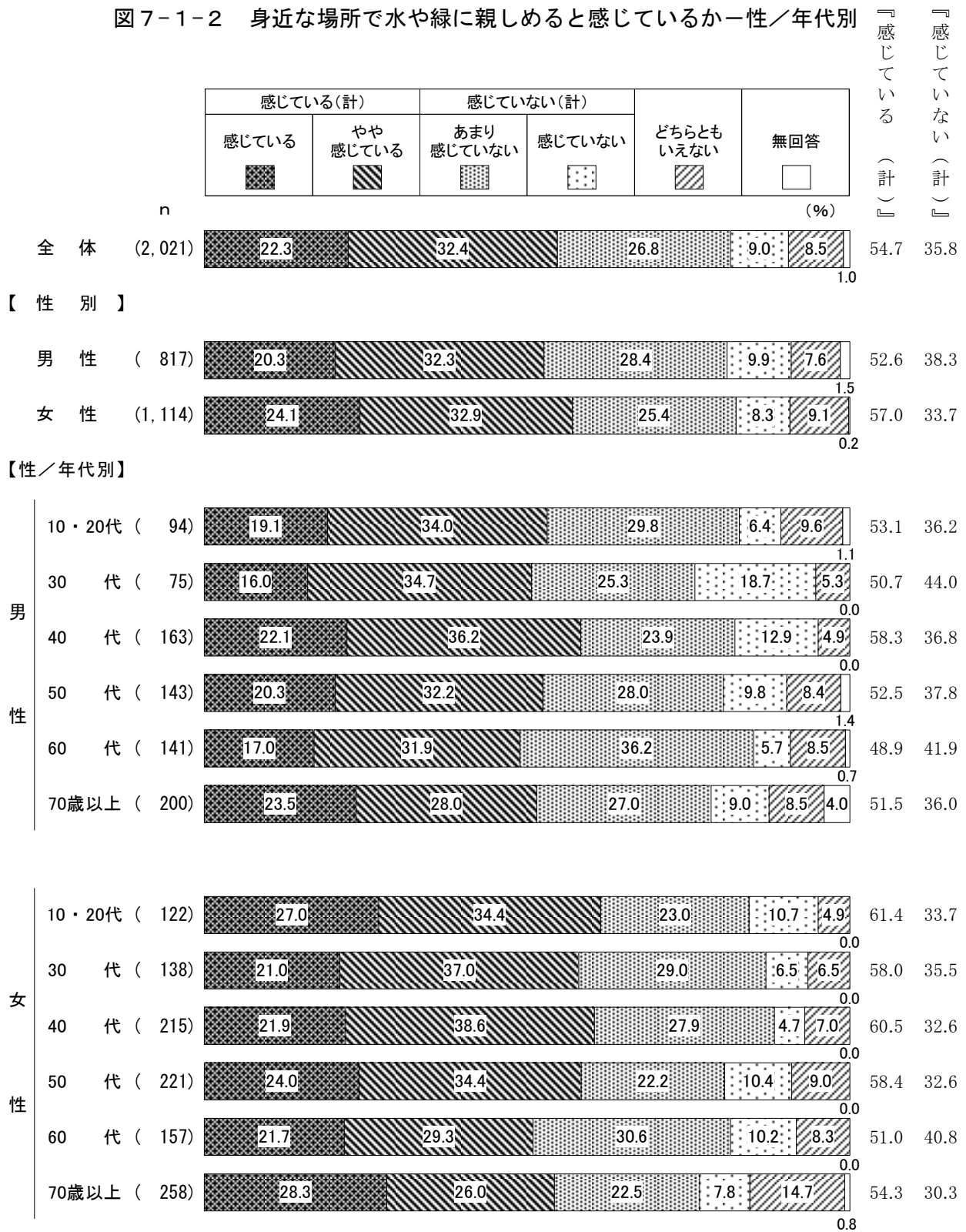
◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は5割半ば



身近な場所で水や緑に親しめると感じているか聞いたところ、「感じている」(22.3%)と「やや感じている」(32.4%)を合わせた『感じている(計)』(54.7%)は5割半ばとなっている。一方、「あまり感じていない」(26.8%)と「感じていない」(9.0%)を合わせた『感じていない(計)』(35.8%)は3割半ばとなっている。(図7-1-1)



図 7-1-2 身近な場所で水や緑に親しめると感じているか—性／年代別

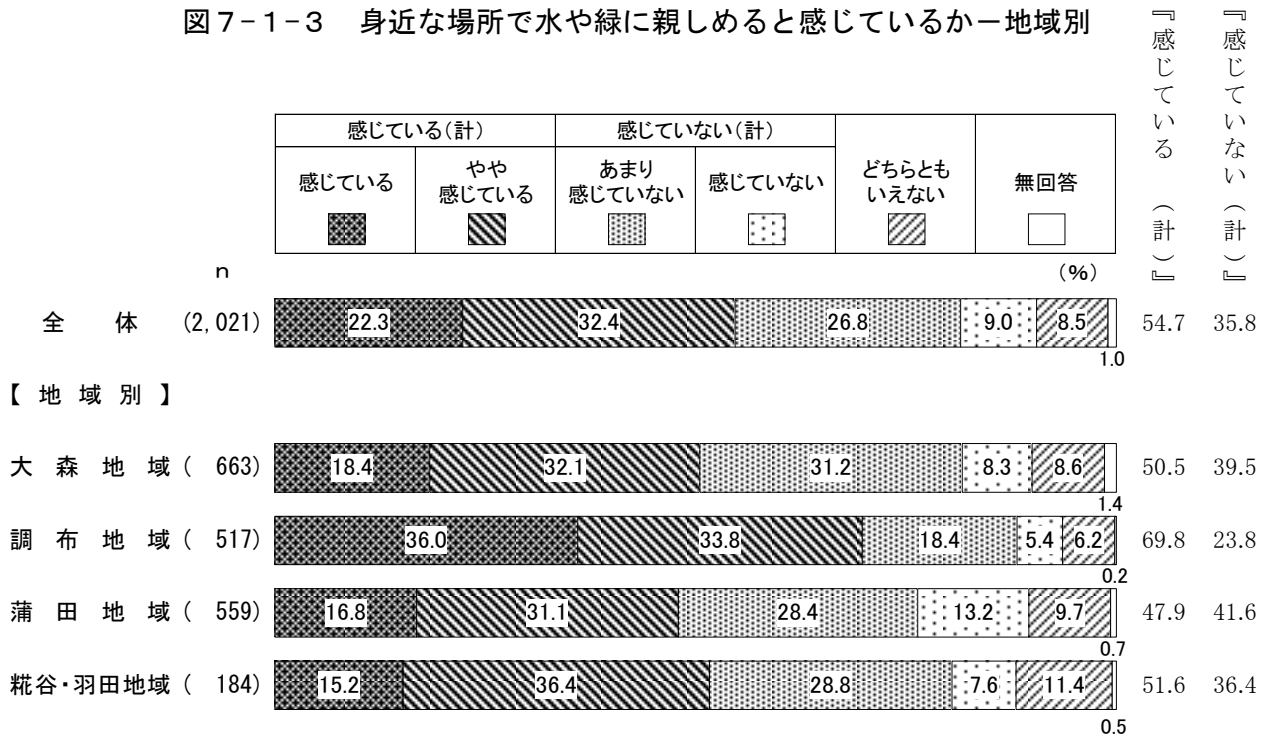


性別でみると、『感じている(計)』は女性(57.0%)が男性(52.6%)より4.4ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『感じている(計)』は女性10・20代(61.4%)で6割を超えて高くなっている。一方、『感じていない(計)』は男性30代(44.0%)で4割半ばと高くなっている。

(図 7-1-2)

図7-1-3 身近な場所で水や緑に親しめると感じているか—地域別



地域別でみると、『感じている(計)』は調布地域(69.8%)で7割と高くなっている。一方、『感じていない(計)』は蒲田地域(41.6%)で4割を超えて高くなっている。(図7-1-3)

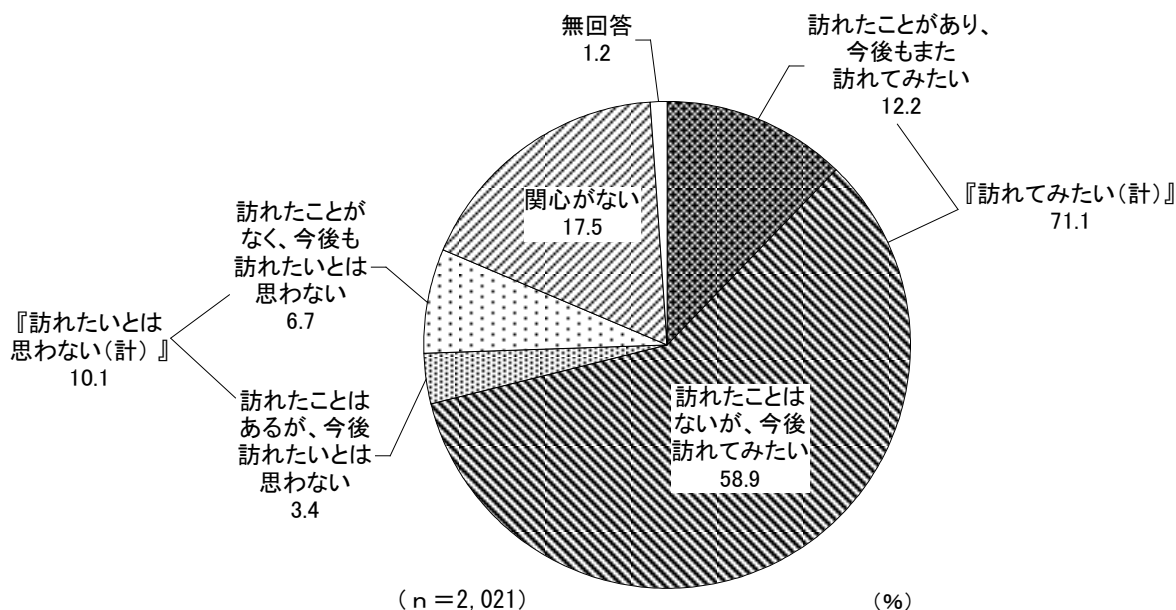
## 8. 空港臨海部の特性を活かし、世界にはばたき未来へつながるまち

### (1) 羽田空港跡地について、どう感じているか

◇「訪れたことがあり、今後もまた訪れてみたい」と「訪れたことはないが、今後訪れてみたい」を合わせた『訪れてみたい(計)』は7割を超える

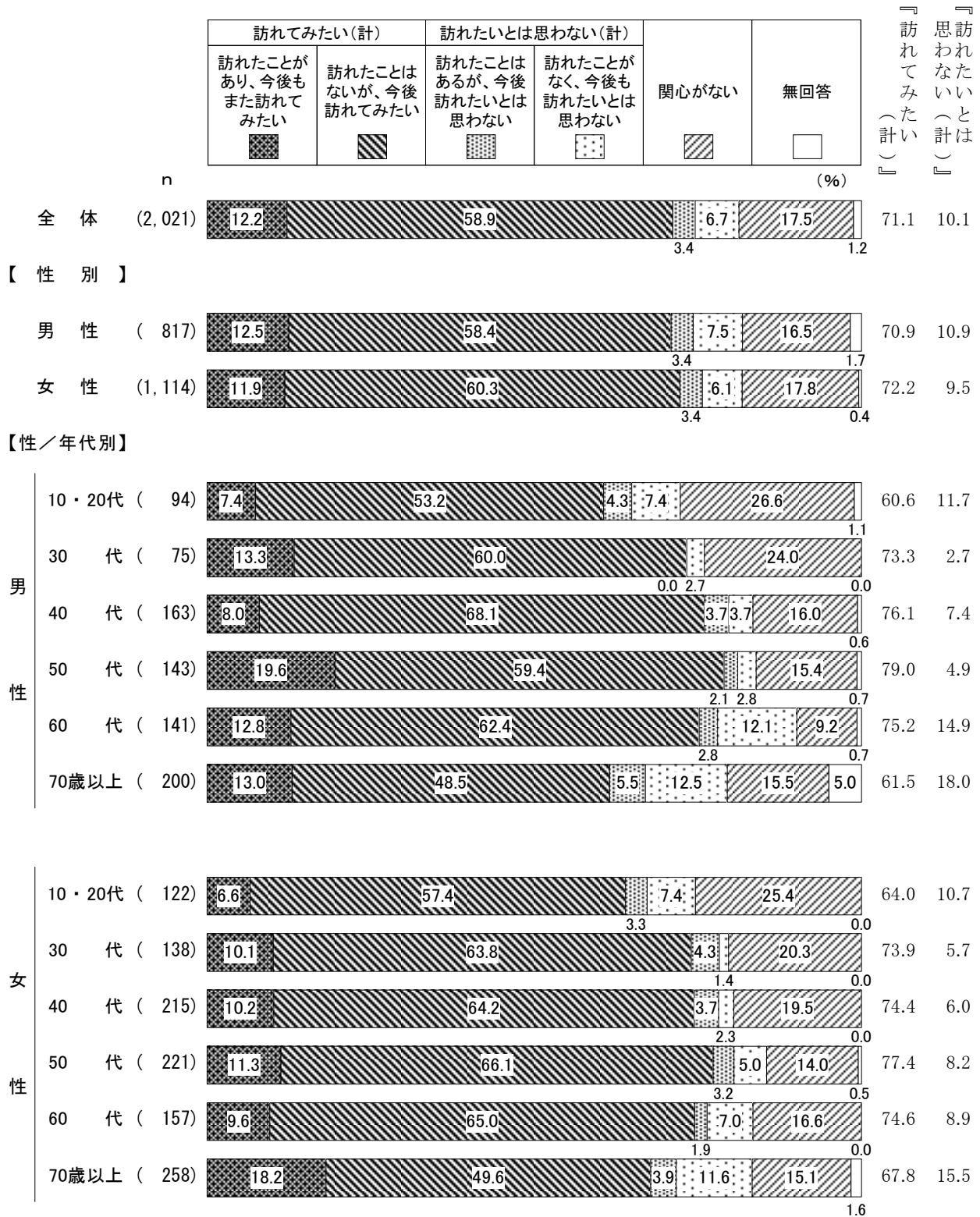
問14 本格的に稼働を始める羽田空港跡地（HANEDA GLOBAL WINGS）について、どのように感じていますか。（○は1つだけ）

図8-1-1



羽田空港跡地についてどのように感じているか聞いたところ、「訪れたことはないが、今後訪れてみたい」(58.9%)が6割近くで最も高く、これに「訪れたことがあり、今後もまた訪れてみたい」(12.2%)を合わせた『訪れてみたい(計)』(71.1%)は7割を超えている。一方、「訪れたことはあるが、今後訪れたいとは思わない」(3.4%)と「訪れたことがなく、今後も訪れたいとは思わない」(6.7%)を合わせた『訪れないとは思わない(計)』(10.1%)は1割となっている。また、「関心がない」(17.5%)は2割近くとなっている。(図8-1-1)

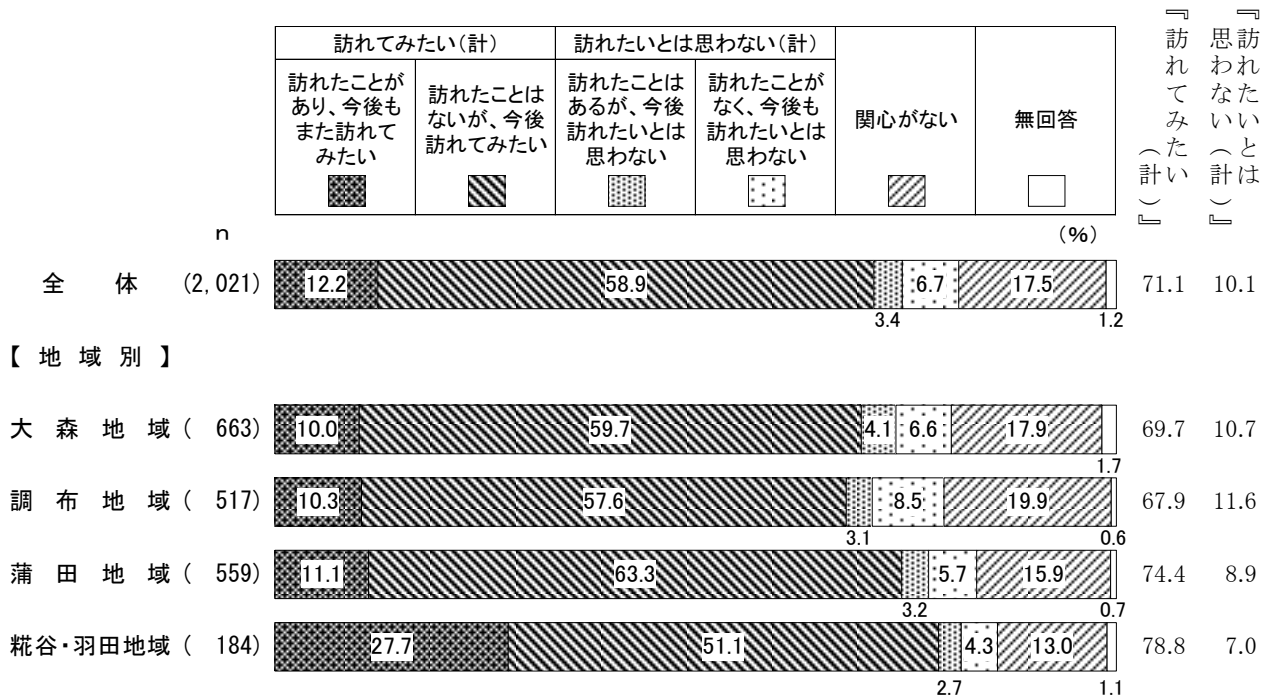
図8-1-2 羽田空港跡地について、どう感じているかー性／年代別



性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、『訪れてみたい(計)』は男性50代(79.0%)で約8割と高くなっている。「関心がない」は男性10・20代(26.6%)で3割近くと高くなっている。(図8-1-2)

図8-1-3 羽田空港跡地について、どう感じているか—地域別



地域別でみると、『訪れてみたい(計)』は糞谷・羽田地域(78.8%)で8割近くと高くなっている。「関心がない」は調布地域(19.9%)で2割となっている。(図8-1-3)

## 9. 持続可能な国際交流・多文化共生

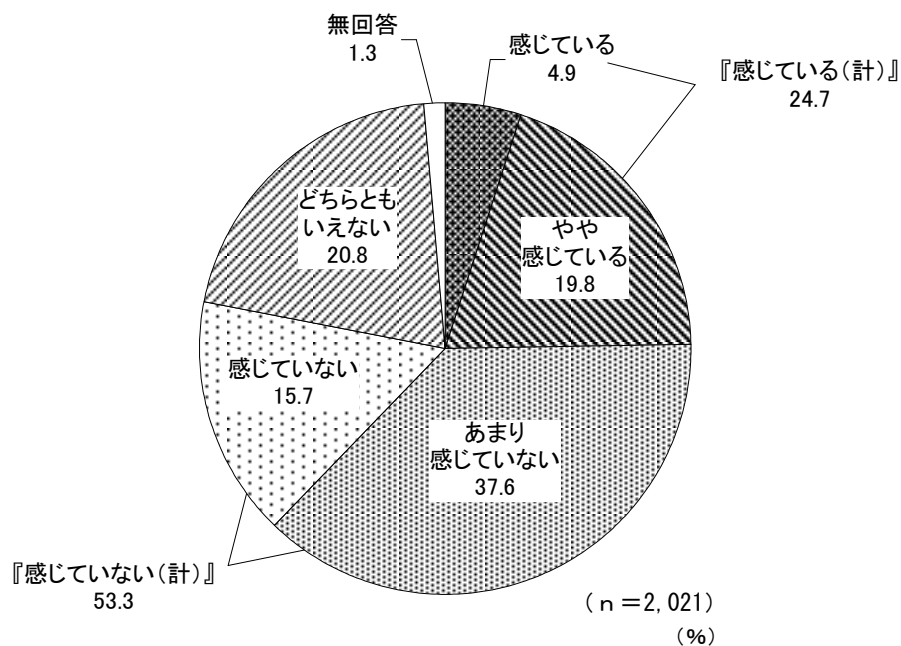
### (1) 大田区は国際交流、多文化共生が進んだまちと感じているか

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は2割半ば

問15 大田区は国際交流、多文化共生が進んだまちと感じていますか。(○は1つだけ)

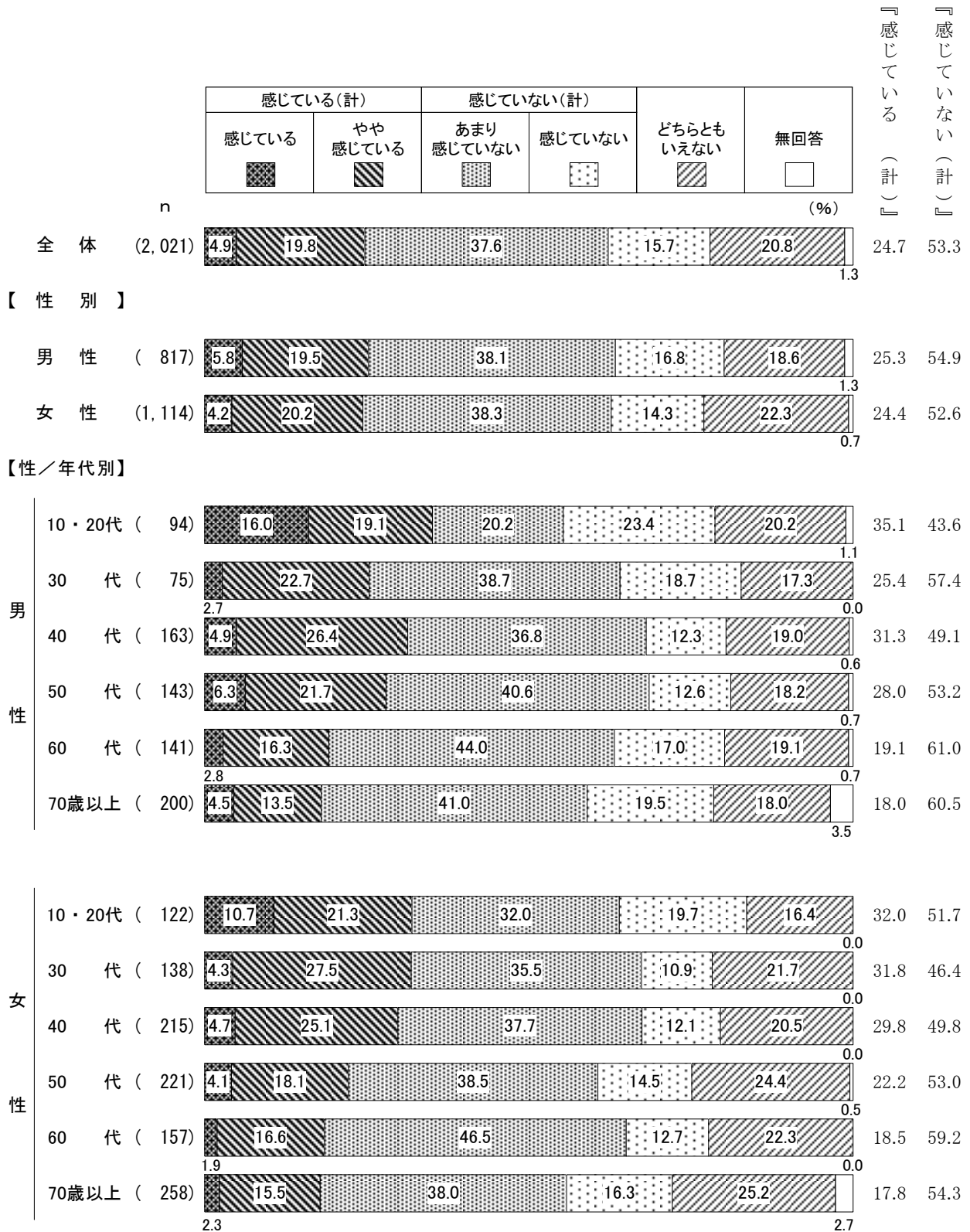
※多文化共生とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくことです。

図9-1-1



大田区は国際交流、多文化共生が進んだまちと感じているか聞いたところ、「感じている」(4.9%)と「やや感じている」(19.8%)を合わせた『感じている(計)』(24.7%)は2割半ばとなっている。一方、「あまり感じていない」(37.6%)と「感じていない」(15.7%)を合わせた『感じていない(計)』(53.3%)は5割を超えている。(図9-1-1)

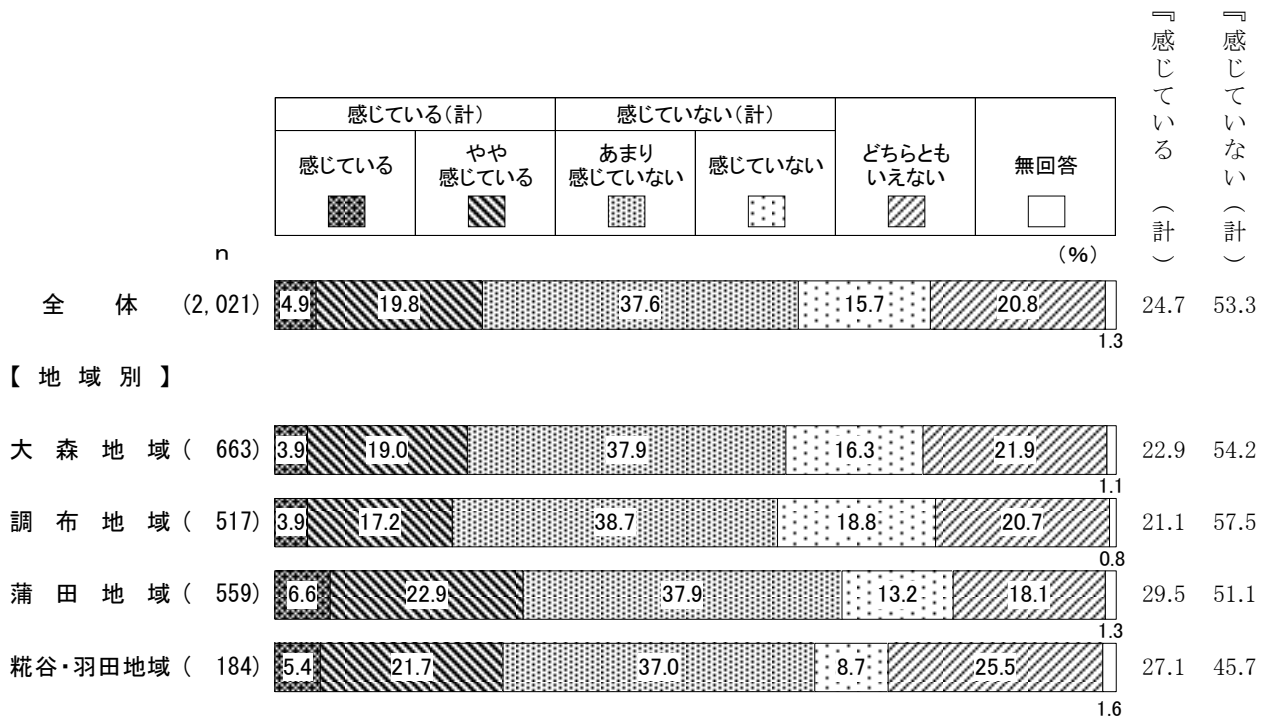
図9-1-2 大田区は国際交流、多文化共生が進んだまちと感じているかー性／年代別



性別でみると、「どちらともいえない」は女性（22.3%）が男性（18.6%）より3.7ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『感じている（計）』は男性10・20代（35.1%）で3割半ばと高くなっている。一方、『感じていない（計）』は男性60代（61.0%）と男性70歳以上（60.5%）で6割台と高くなっている。（図9-1-2）

図9-1-3 大田区は国際交流、多文化共生が進んだまちと感じているかー地域別



地域別でみると、『感じている(計)』は蒲田地域(29.5%)で3割と高くなっている。一方、『感じていない(計)』は調布地域(57.5%)で6割近くと高くなっている。(図9-1-3)

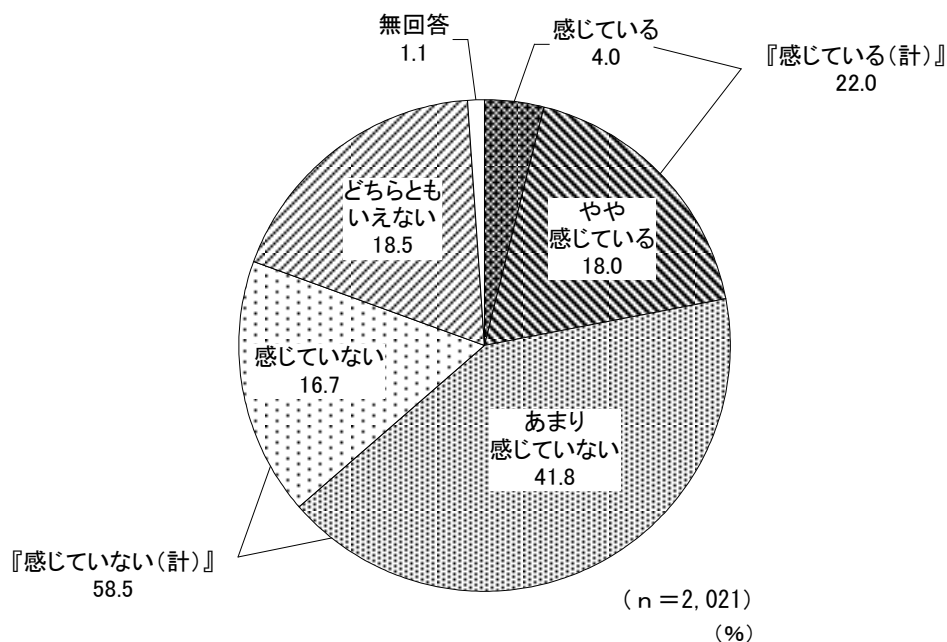


## (2) 賑わいと活力を生むまちづくりが進められていると感じているか

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は2割を超える

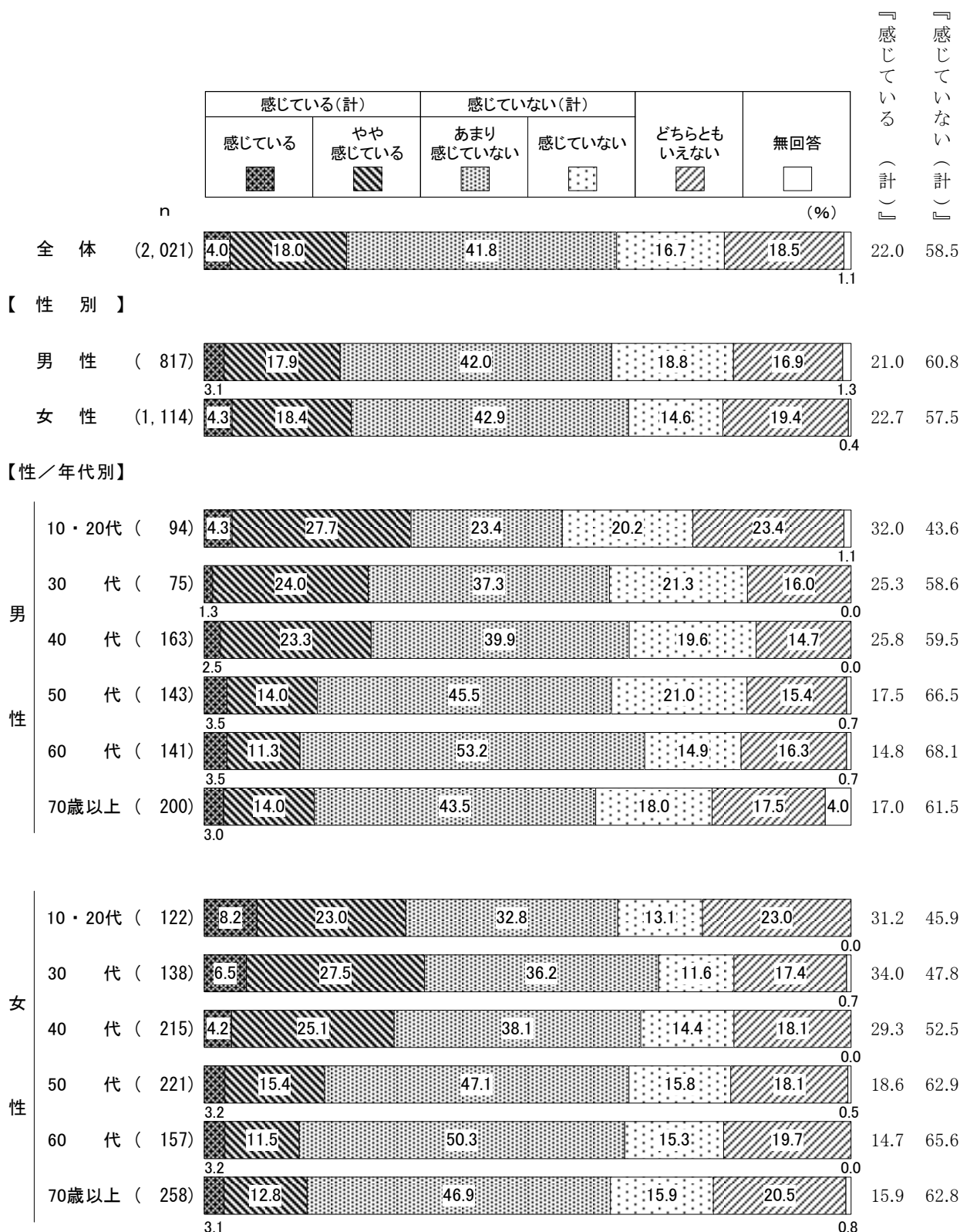
問16 あなたが住んでいるまちにおいて、地域特性に応じ、賑わいと活力を生むまちづくりが進められていると感じていますか。(○は1つだけ)

図9-2-1



住んでいるまちにおいて、賑わいと活力を生むまちづくりが進められていると感じているか聞いたところ、「感じている」(4.0%)と「やや感じている」(18.0%)を合わせた『感じている(計)』(22.0%)は2割を超えている。一方、「あまり感じていない」(41.8%)と「感じていない」(16.7%)を合わせた『感じていない(計)』(58.5%)は6割近くとなっている。(図9-2-1)

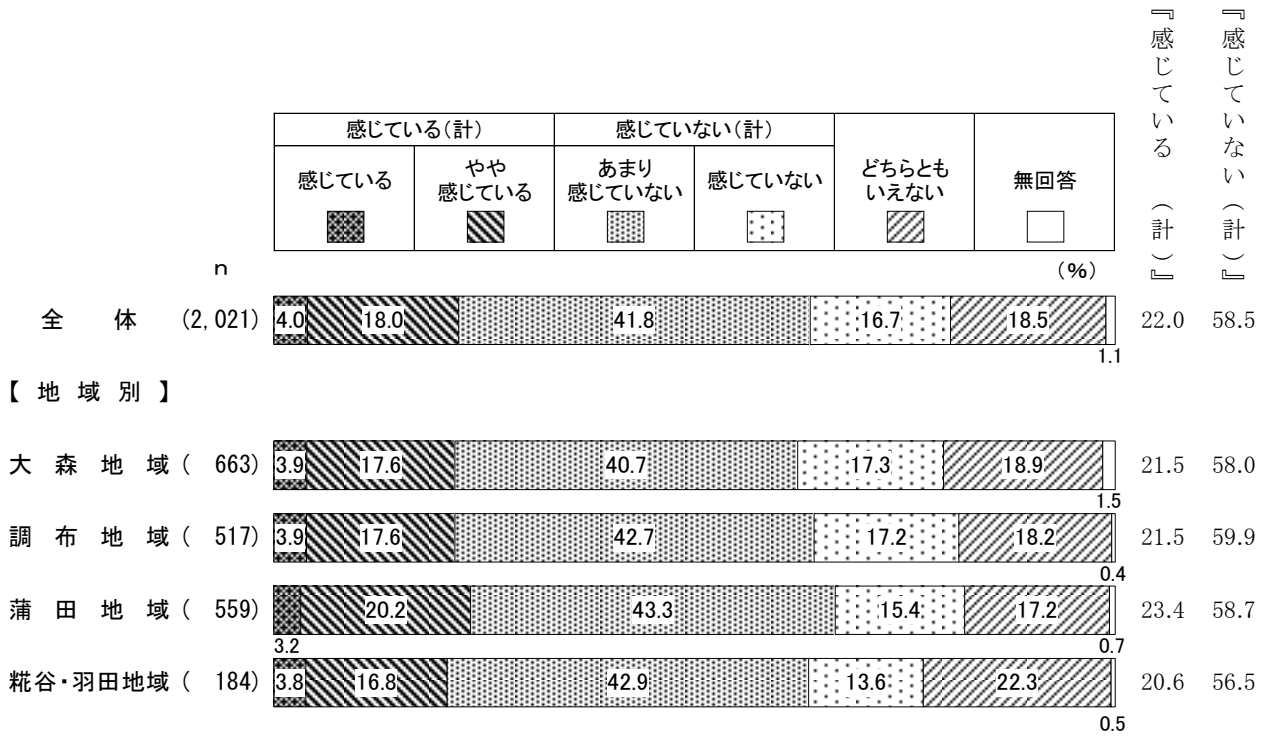
図9-2-2 賑わいと活力を生むまちづくりが進められていると感じているかー性／年代別



性別でみると、『感じていない(計)』は男性(60.8%)が女性(57.5%)より3.3ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『感じている(計)』は女性30代(34.0%)で3割半ばと高くなっている。一方、『感じていない(計)』は男性50代(66.5%)と男性60代(68.1%)で7割近くと高くなっている。(図9-2-2)

図9-2-3 賑わいと活力を生むまちづくりが進められていると感じているか—地域別



地域別でみると、『感じていない(計)』は調布地域(59.9%)で6割と高くなっている。

(図9-2-3)

## 《基本目標3 地域力と行政の連携がつくる人と地球に優しいまち》

### 10. 魅力的で住み続けたいまち

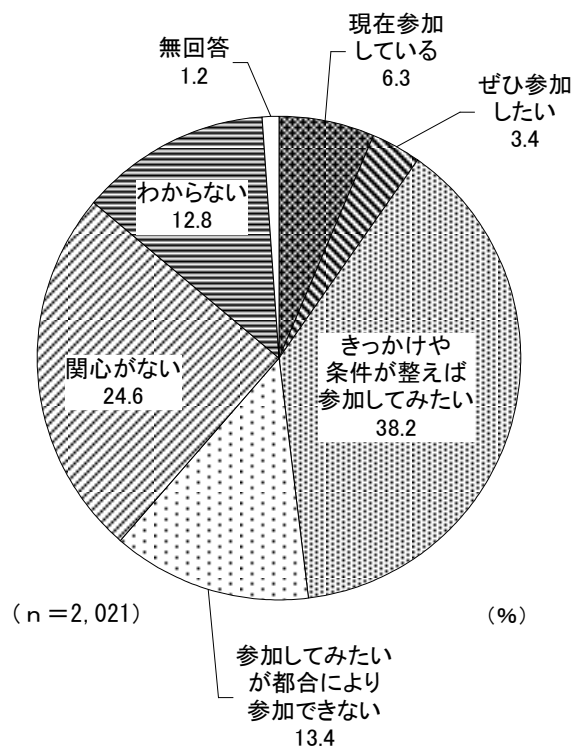
#### (1) 地域活動への参加意向

◇「きっかけや条件が整えば参加してみたい」が4割近く

問17 あなたは、現在住んでいるまちで何らかの地域活動に参加したいと思いますか。

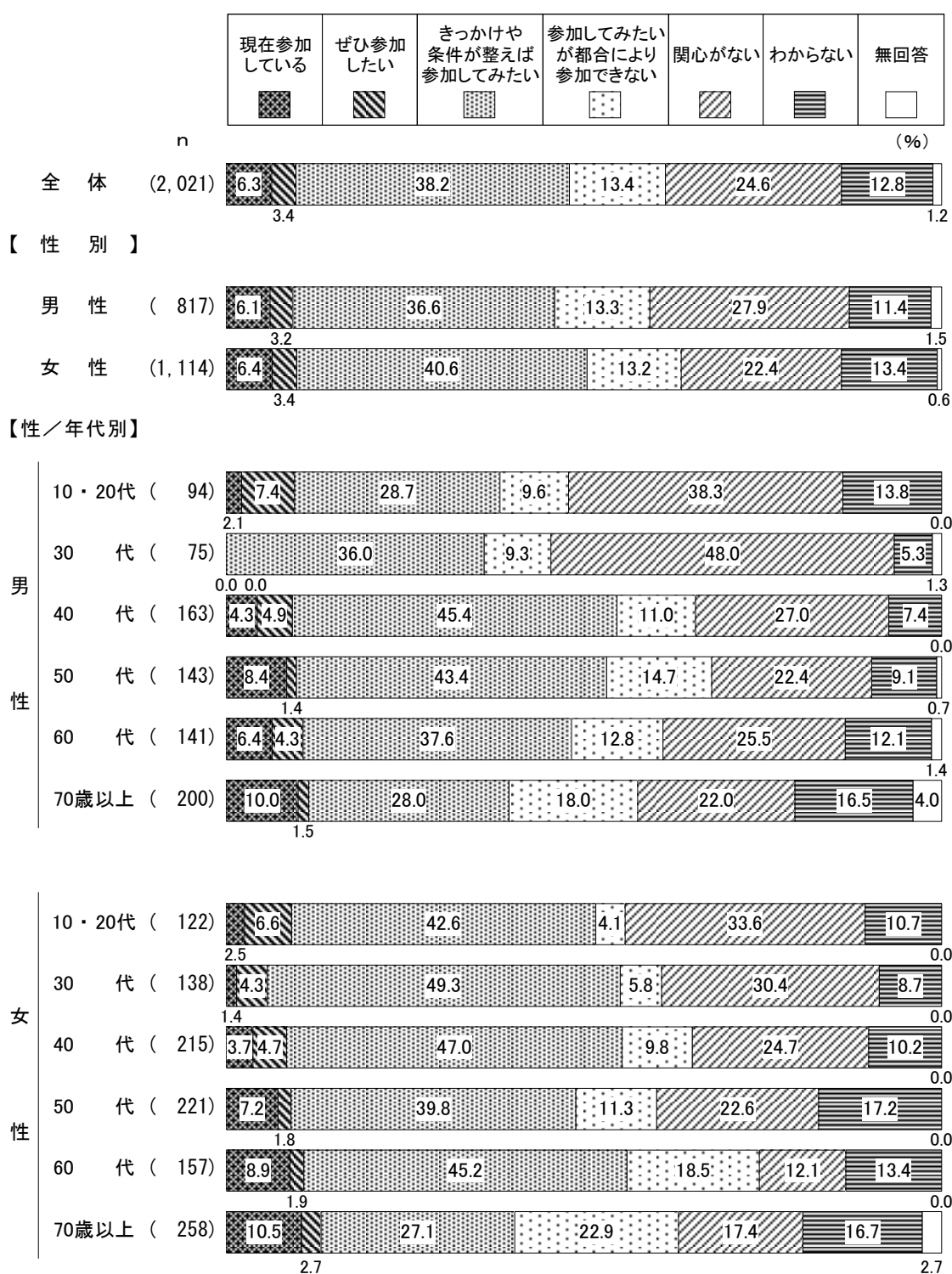
(○は1つだけ)

図10-1-1



現在住んでいるまちで何らかの地域活動に参加したいと思うか聞いたところ、「現在参加している」(6.3%)と「ぜひ参加したい」(3.4%)は1割未満、「きっかけや条件が整えば参加してみたい」(38.2%)が4割近くとなっている。一方、「参加してみたいが都合により参加できない」(13.4%)は1割を超え、「関心がない」(24.6%)は2割半ばとなっている。(図10-1-1)

図10-1-2 地域活動への参加意向－性／年代別

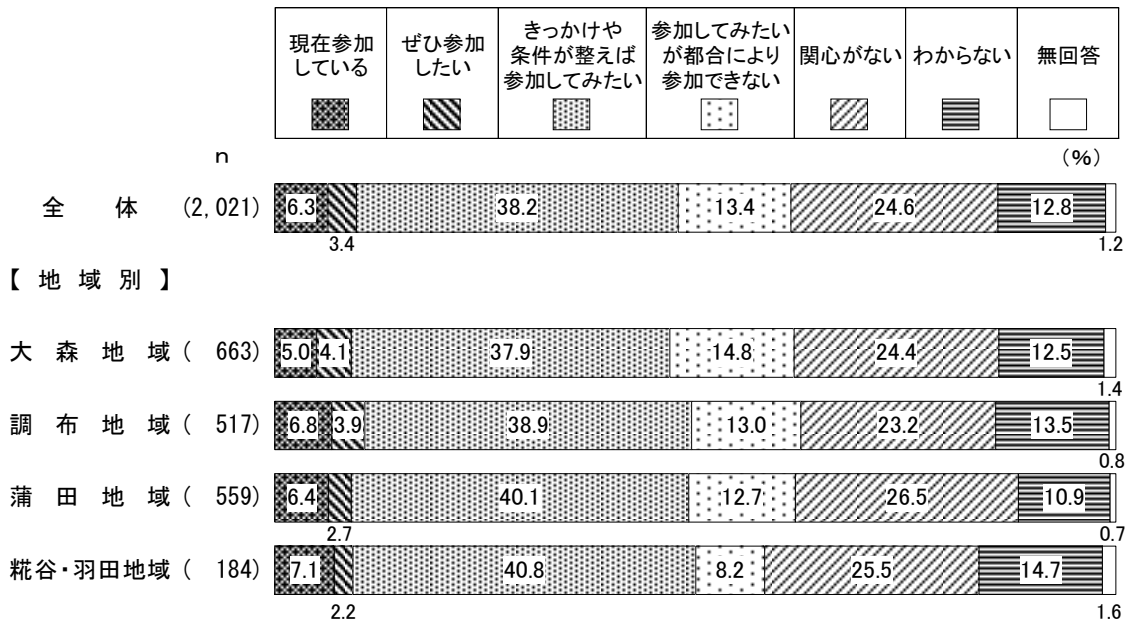


性別でみると、「関心がない」は男性（27.9%）が女性（22.4%）より5.5ポイント高くなっている。一方、「きっかけや条件が整えば参加してみたい」は女性（40.6%）が男性（36.6%）より4.0ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「きっかけや条件が整えば参加してみたい」は女性30代（49.3%）で約5割と高くなっている。「関心がない」は男性30代（48.0%）で5割近くと高くなっている。

(図10-1-2)

図10-1-3 地域活動への参加意向—地域別



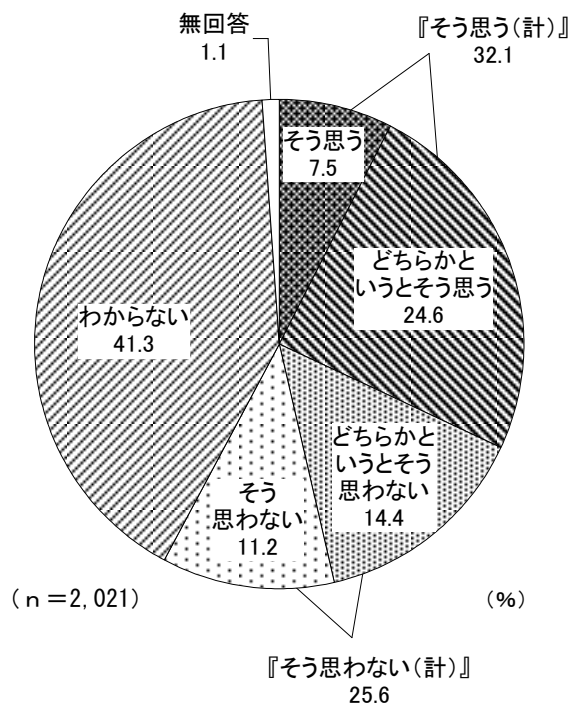
地域別でみると、「きっかけや条件が整えば参加してみたい」は糀谷・羽田地域（40.8%）と蒲田地域（40.1%）で約4割と高くなっている。「関心がない」は蒲田地域（26.5%）で3割近くと高くなっている。（図10-1-3）

(2) 区や区民、さまざまな団体の連携・協働が進められることで、住みやすい地域づくりに繋がっていると感じているか

◇「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた『そう思う(計)』は3割を超える

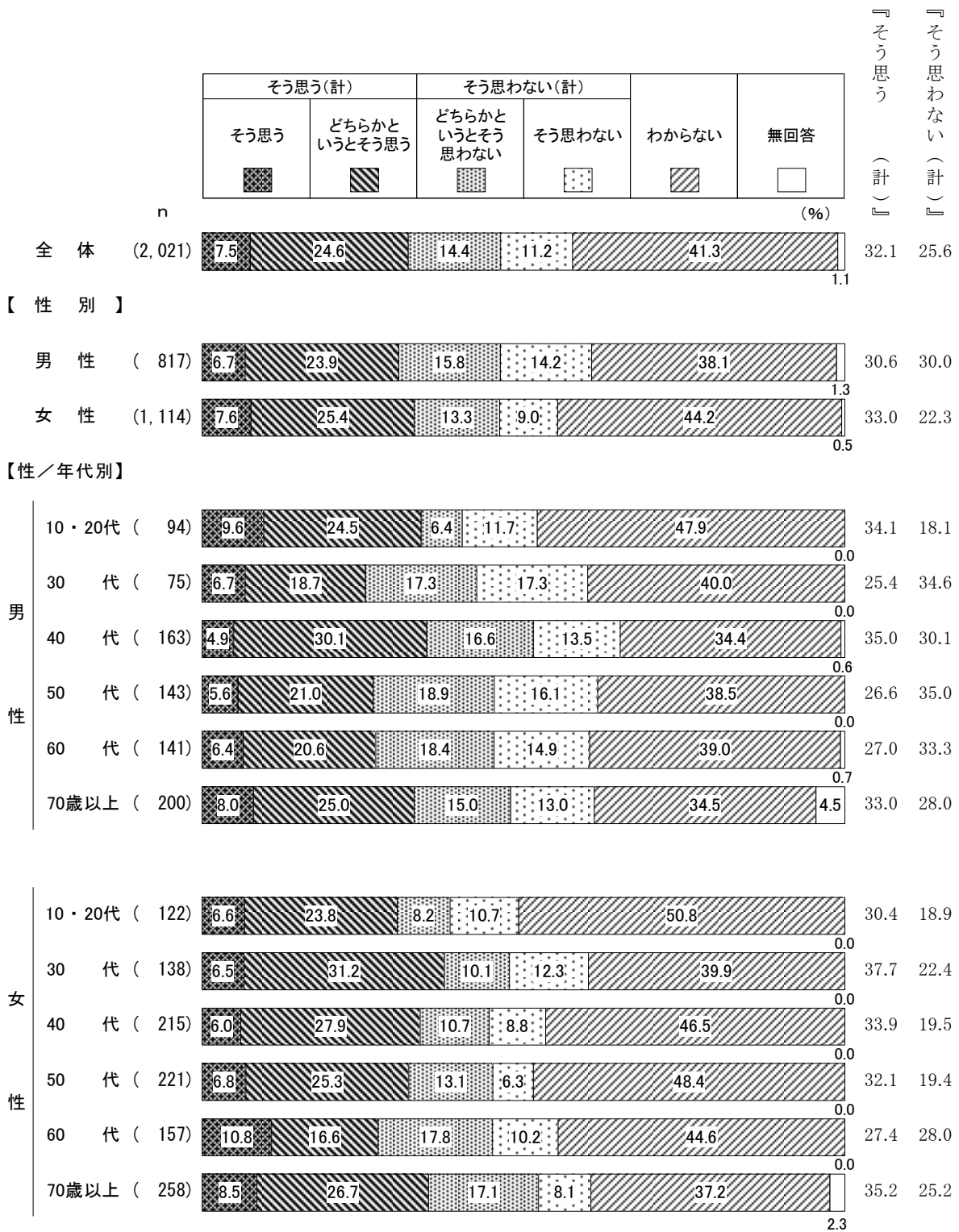
問18 あなたは、現在住んでいるまちで、区や区民、さまざまな団体（自治会・町会、ボランティアグループ、NPO、民間企業等）の連携・協働が進められることで、住みやすい地域づくりに繋がっていると感じていますか。（○は1つだけ）

図10-2-1



区や区民、さまざまな団体の連携・協働が進められることで、住みやすい地域づくりに繋がっていると感じているか聞いたところ、「そう思う」(7.5%)と「どちらかというと思う」(24.6%)を合わせた『そう思う(計)』(32.1%)は3割を超えている。一方、「どちらかというと思わない」(14.4%)と「そう思わない」(11.2%)を合わせた『そう思わない(計)』(25.6%)は2割半ばとなっている。(図10-2-1)

図10-2-2 区や区民、さまざまな団体の連携・協働が進められることで、  
住みやすい地域づくりに繋がっていると感じているかー性／年代別

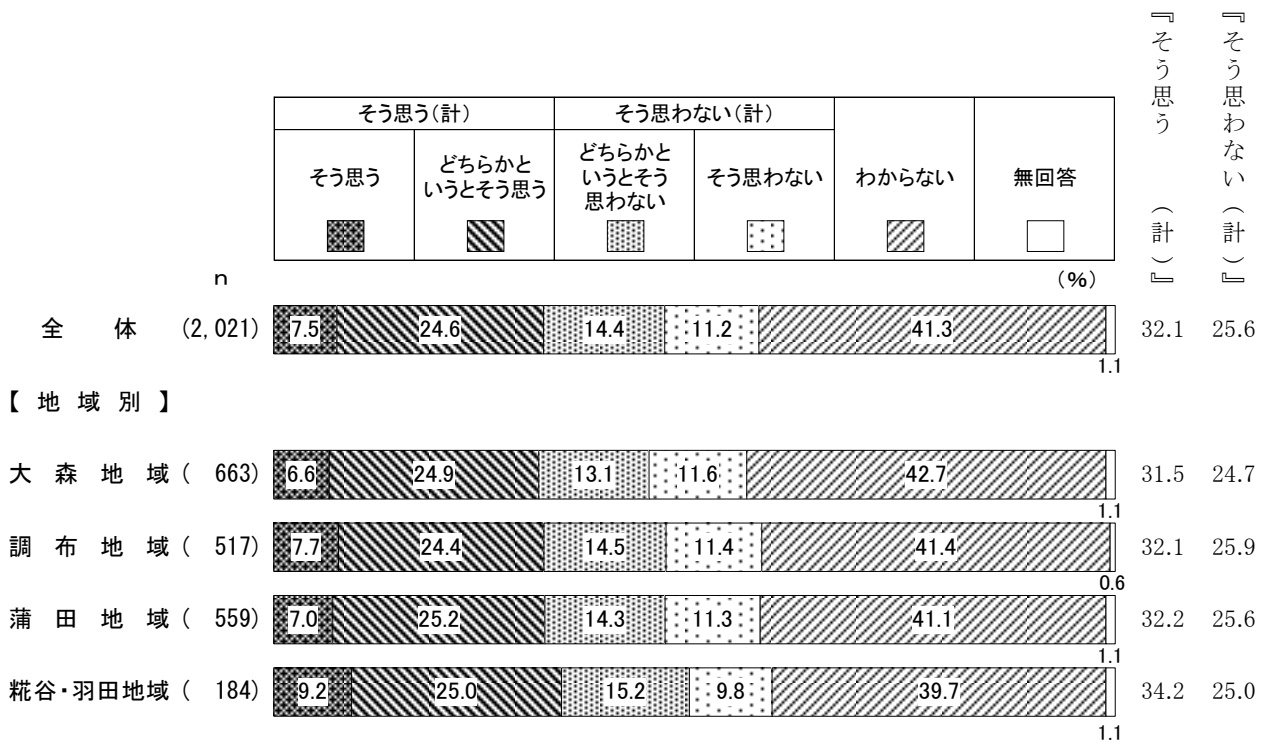


性別でみると、『そう思わない(計)』は男性(30.0%)が女性(22.3%)より7.7ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『そう思う(計)』は女性30代(37.7%)で4割近くと高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性30代(34.6%)と男性50代(35.0%)で3割半ばと高くなっている。(図10-2-2)



図10-2-3 区や区民、さまざまな団体の連携・協働が進められることで、  
住みやすい地域づくりに繋がっていると感じているかー地域別



地域別でみると、『そう思う (計)』は糀谷・羽田地域 (34.2%) で3割半ばと高くなっている。  
(図10-2-3)

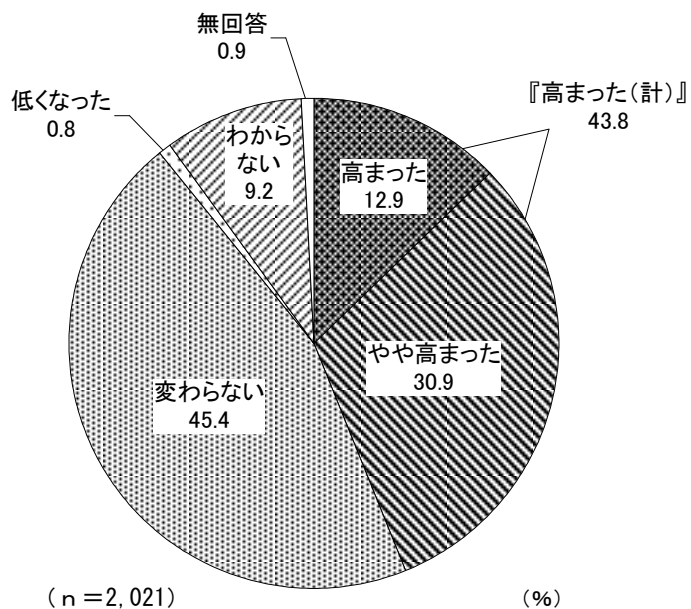
## 11. 災害に強く、防犯力の高い地域づくり

### (1) 防災に対する意識

◇「高まった」と「やや高まった」を合わせた『高まった(計)』は4割を超える

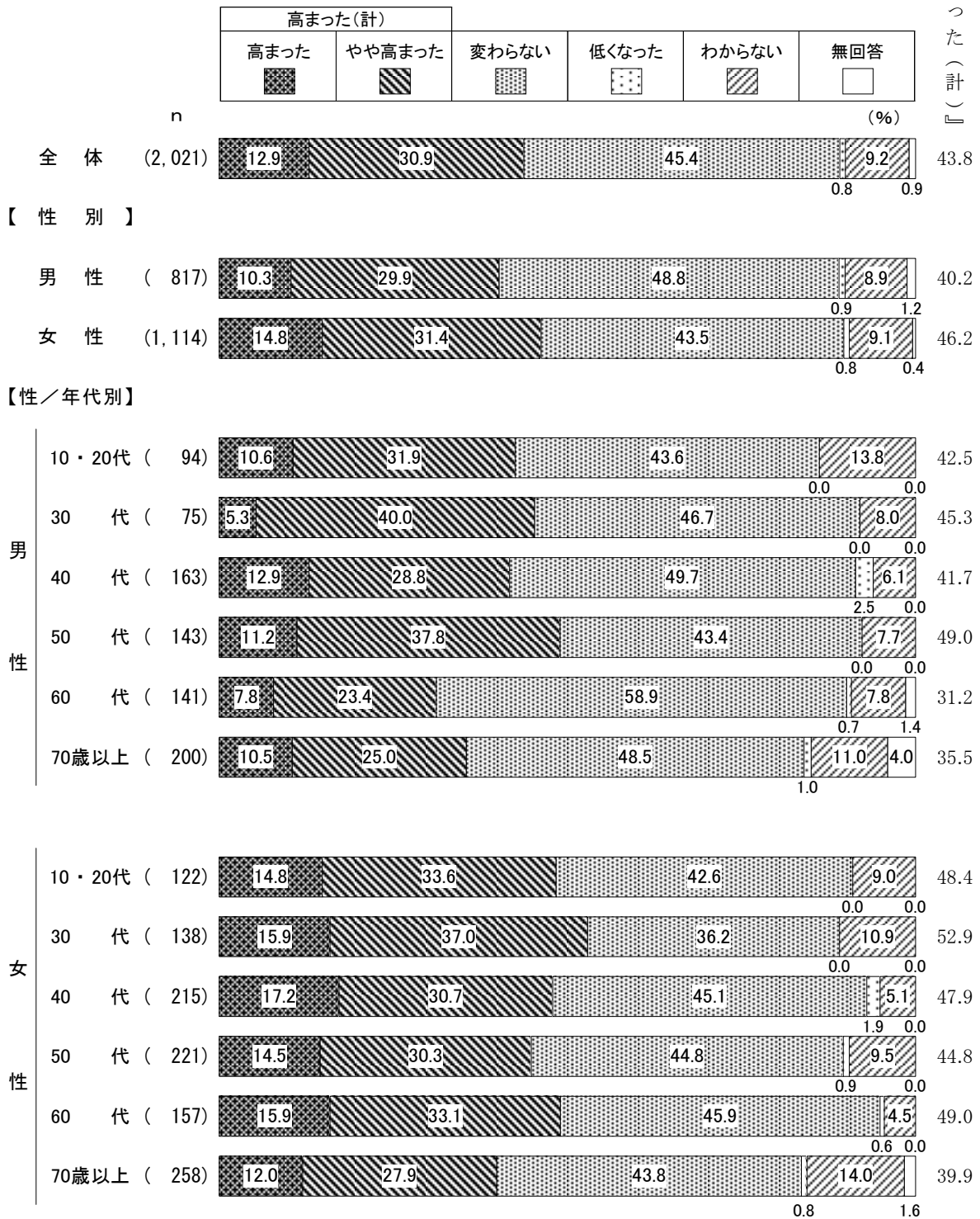
問19 あなたは、1年前に比べて防災に対する意識が高まったと思いますか。(○は1つだけ)

図11-1-1



1年前に比べて防災に対する意識が高まったと思うか聞いたところ、「高まった」(12.9%)と「やや高まった」(30.9%)を合わせた『高まった(計)』(43.8%)は4割を超えている。一方、「変わらない」(45.4%)は4割半ば、「低くなった」(0.8%)はわずかとなっている。(図11-1-1)

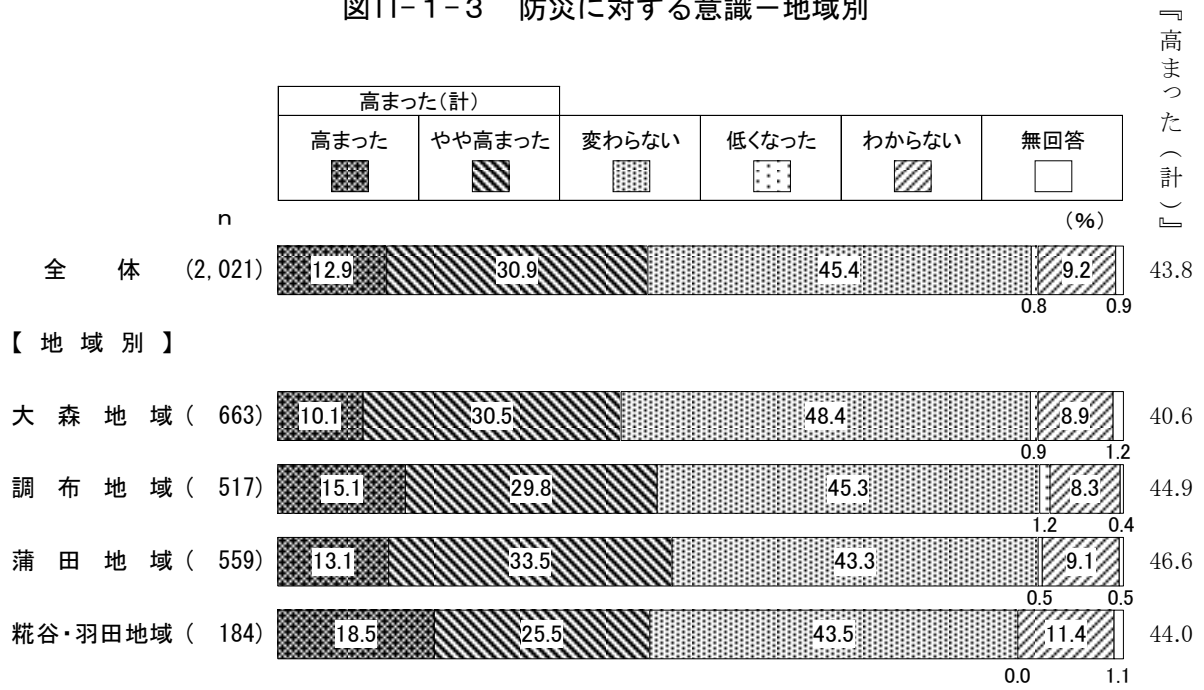
図11-1-2 防災に対する意識—性／年代別



性別でみると、『高まった(計)』は女性(46.2%)が男性(40.2%)より6.0ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『高まった(計)』は女性30代(52.9%)で5割を超えて高くなっている。「変わらない」は男性60代(58.9%)で6割近くと高くなっている。(図11-1-2)

図11-1-3 防災に対する意識－地域別



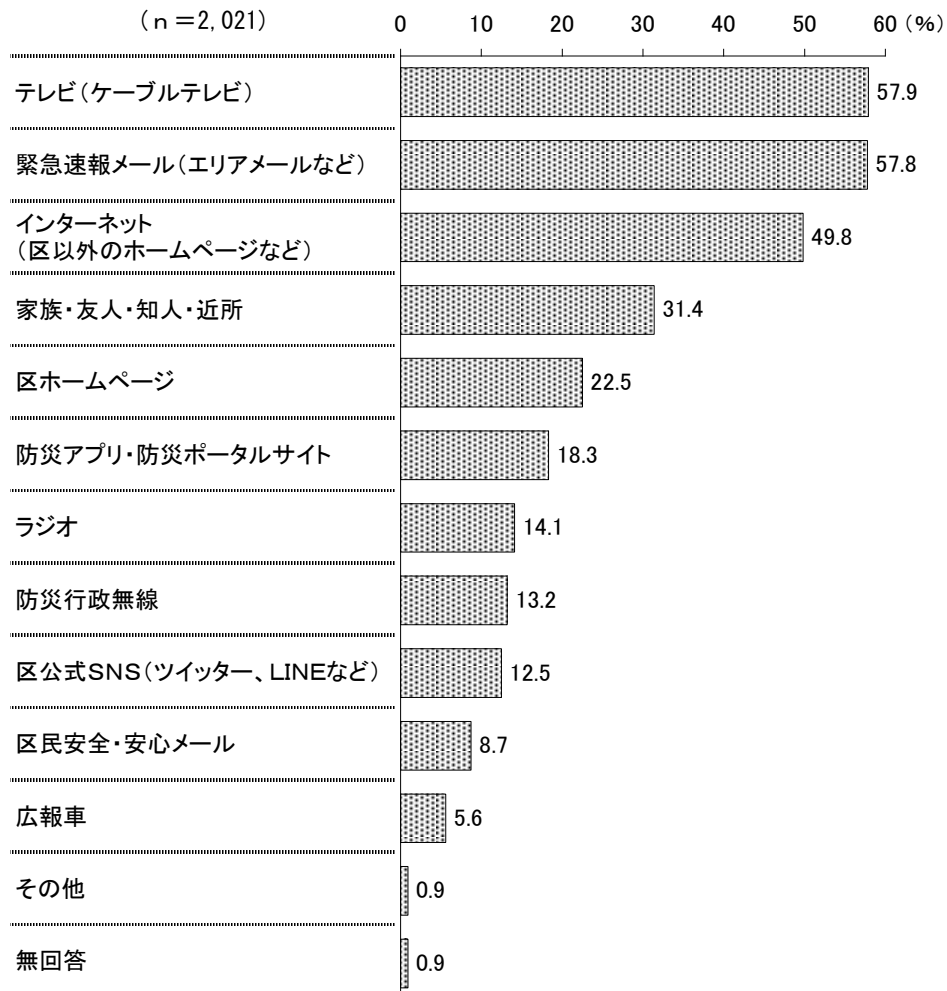
地域別でみると、『高まった(計)』は蒲田地域(46.6%)で5割近くと高くなっている。「変わらない」は大森地域(48.4%)で5割近くと高くなっている。(図11-1-3)

## (2) 災害情報の入手手段

◇「テレビ（ケーブルテレビ）」と「緊急速報メール（エリアメールなど）」が6割近く

問20 あなたは、災害時における災害情報をどの手段で入手しますか。（〇はいくつでも）

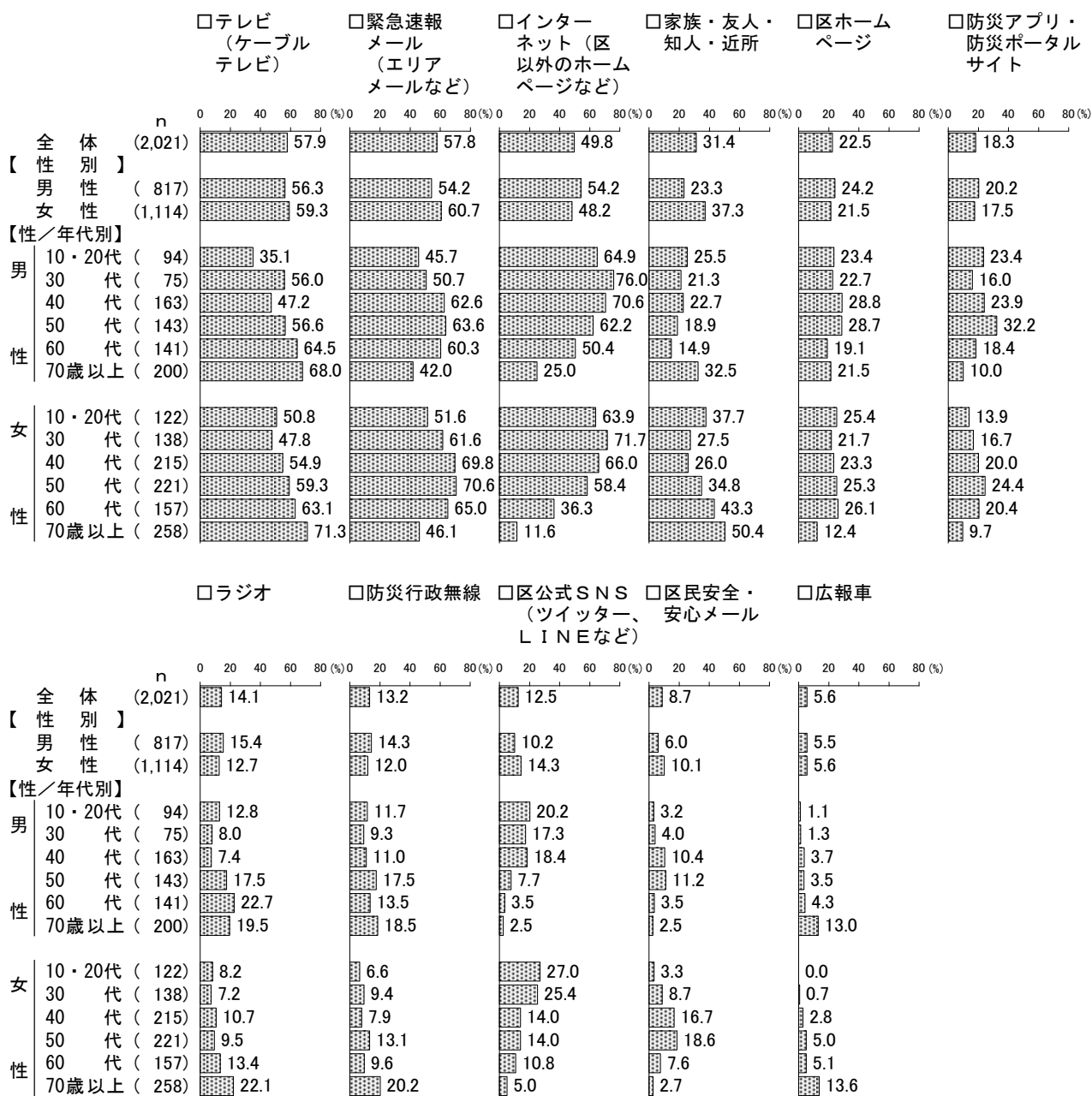
図11-2-1



災害情報の入手手段を聞いたところ、「テレビ（ケーブルテレビ）」（57.9%）と「緊急速報メール（エリアメールなど）」（57.8%）が6割近くで高く、次いで「インターネット（区以外のホームページなど）」（49.8%）、「家族・友人・知人・近所」（31.4%）などの順になっている。

「その他」への回答として、「ツイッター」、「SNS」などがあげられている。（図11-2-1）

図11-2-2 災害情報の入手手段－性／年代別



性別でみると、「家族・友人・知人・近所」は女性（37.3%）が男性（23.3%）より14.0ポイント、「緊急速報メール（エリアメールなど）」は女性（60.7%）が男性（54.2%）より6.5ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「インターネット（区以外のホームページなど）」は男性（54.2%）が女性（48.2%）より6.0ポイント高くなっている。

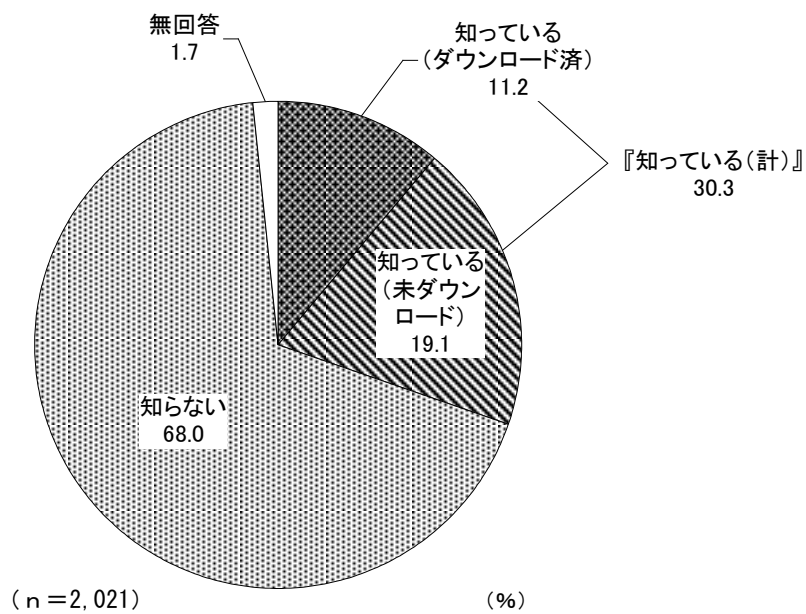
性／年代別でみると、「テレビ（ケーブルテレビ）」は女性70歳以上（71.3%）で7割を超えて高くなっている。「緊急速報メール（エリアメールなど）」は女性40代（69.8%）と女性50代（70.6%）で約7割と高くなっている。「インターネット（区以外のホームページなど）」は男性30代（76.0%）で7割半ばと高くなっている。（図11-2-2）

### (3) 大田区防災アプリの認知度

◇「知っている（ダウンロード済）」と「知っている（未ダウンロード）」を合わせた『知っている（計）』は3割

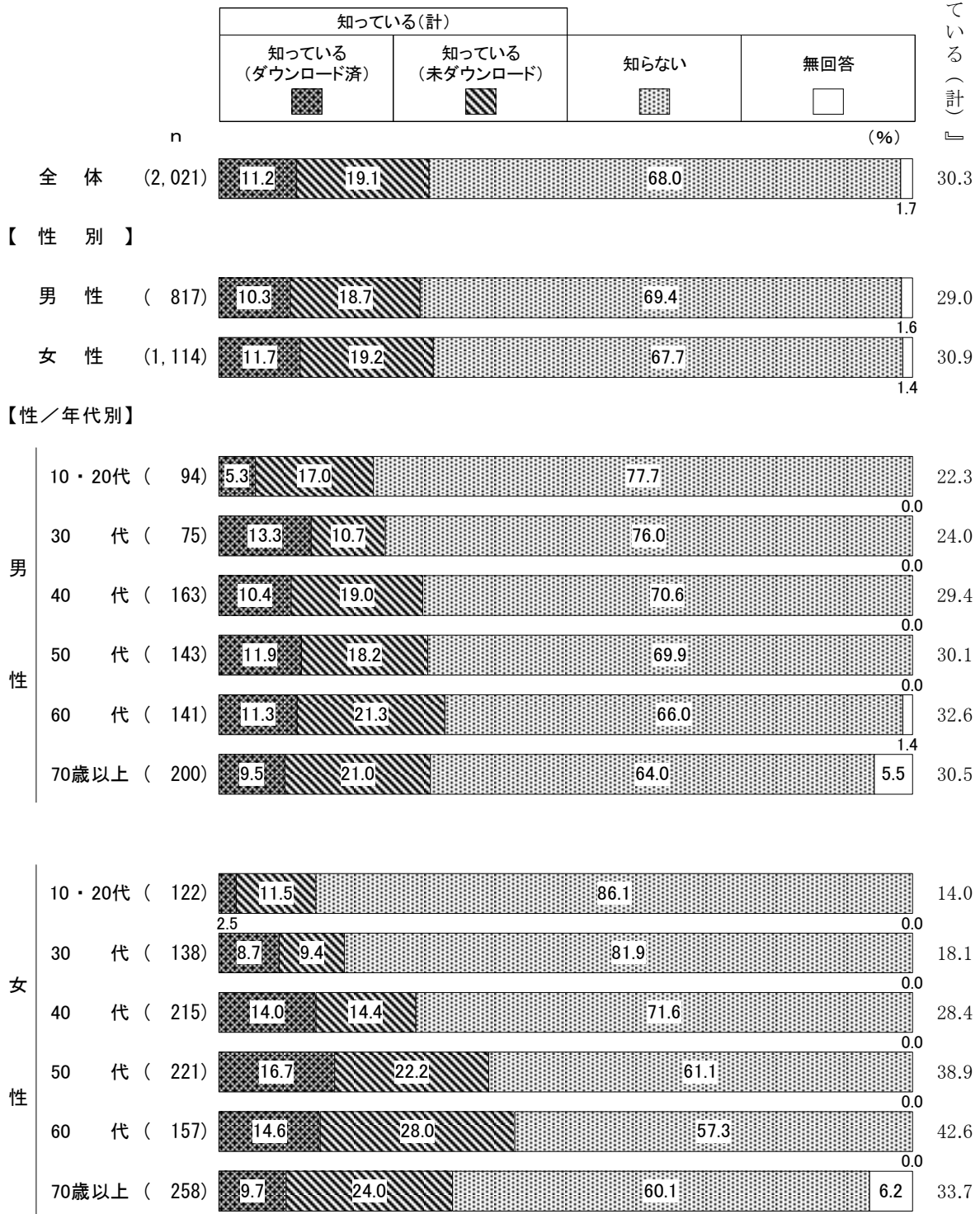
問21 あなたは、大田区防災アプリを知っていますか。（○は1つだけ）

図11-3-1



大田区防災アプリを知っているか聞いたところ、「知っている（ダウンロード済）」（11.2%）と「知っている（未ダウンロード）」（19.1%）を合わせた『知っている（計）』（30.3%）は3割となっている。一方、「知らない」（68.0%）は7割近くとなっている。（図11-3-1）

図11-3-2 大田区防災アプリの認知度－性／年代別

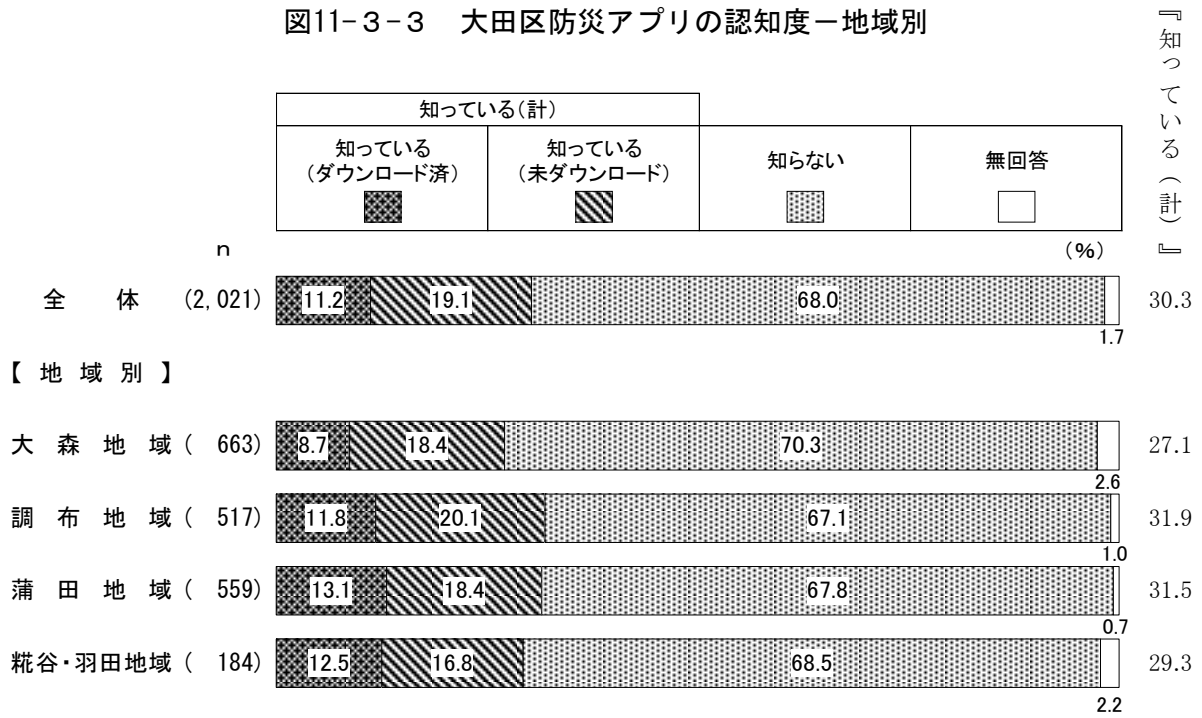


性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、『知っている(計)』は女性60代(42.6%)で4割を超えて高くなっている。一方、「知らない」は女性10・20代(86.1%)で8割半ばと高くなっている。(図11-3-2)



図11-3-3 大田区防災アプリの認知度—地域別



地域別でみると、『知っている（計）』は調布地域（31.9%）と蒲田地域（31.5%）で3割を超えて高くなっている。一方、「知らない」は大森地域（70.3%）で7割と高くなっている。

(図11-3-3)

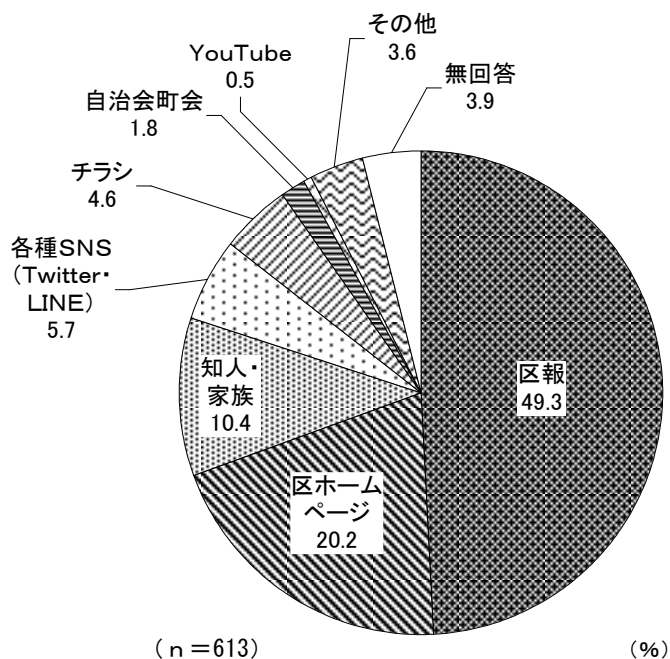
#### (4) 大田区防災アプリの認知方法

◇「区報」が約5割

(問21で、「知っている(ダウンロード済)」または「知っている(未ダウンロード)」と回答した方に)

問21-1 大田区防災アプリをどこで知りましたか。(〇は1つだけ)

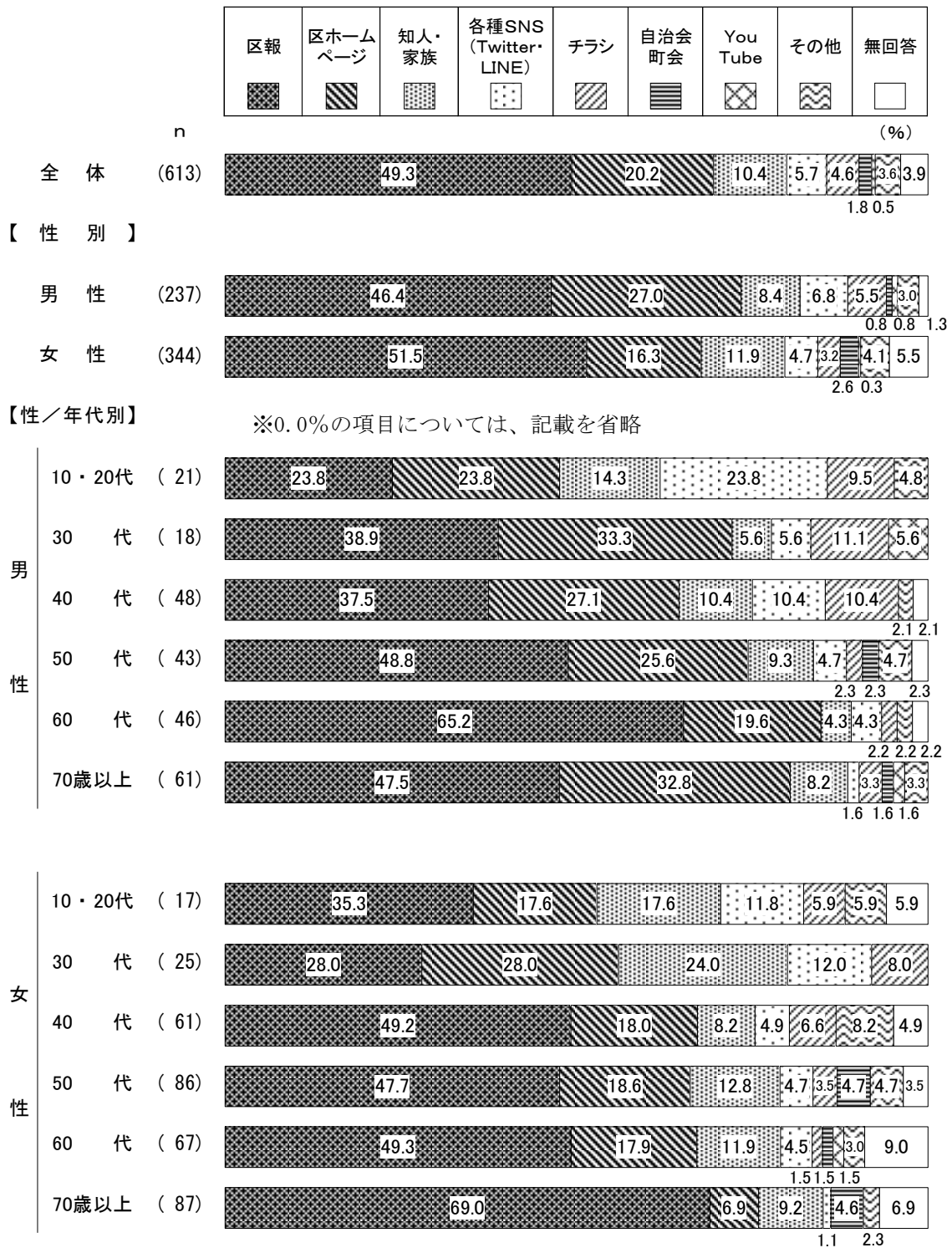
図11-4-1



大田区防災アプリを知っていると答えた人(613人)に、大田区防災アプリをどこで知ったか聞いたところ、「区報」(49.3%)が約5割で最も高く、次いで「区ホームページ」(20.2%)、「知人・家族」(10.4%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「子どもの学校」、「職場」などがあげられている。(図11-4-1)

図11-4-2 大田区防災アプリの認知方法－性／年代別



性別でみると、「区ホームページ」は男性（27.0%）が女性（16.3%）より10.7ポイント高くなっている。一方、「区報」は女性（51.5%）が男性（46.4%）より5.1ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「区報」は女性70歳以上（69.0%）で約7割と高くなっている。「区ホームページ」は男性30代（33.3%）と男性70歳以上（32.8%）で3割を超えて高くなっている。

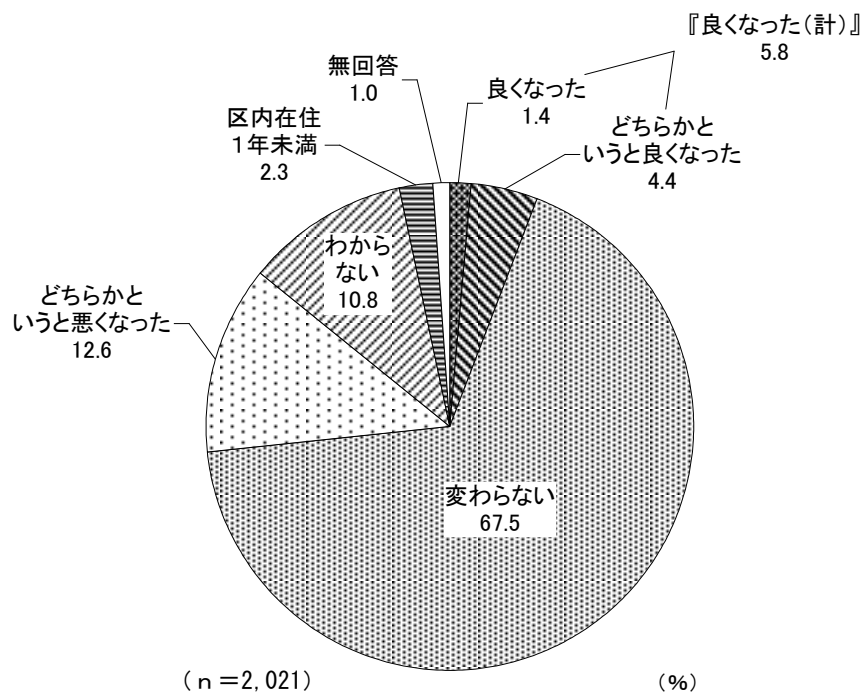
(図11-4-2)

### (5) 住んでいるまちの治安の変化

◇「変わらない」が7割近く

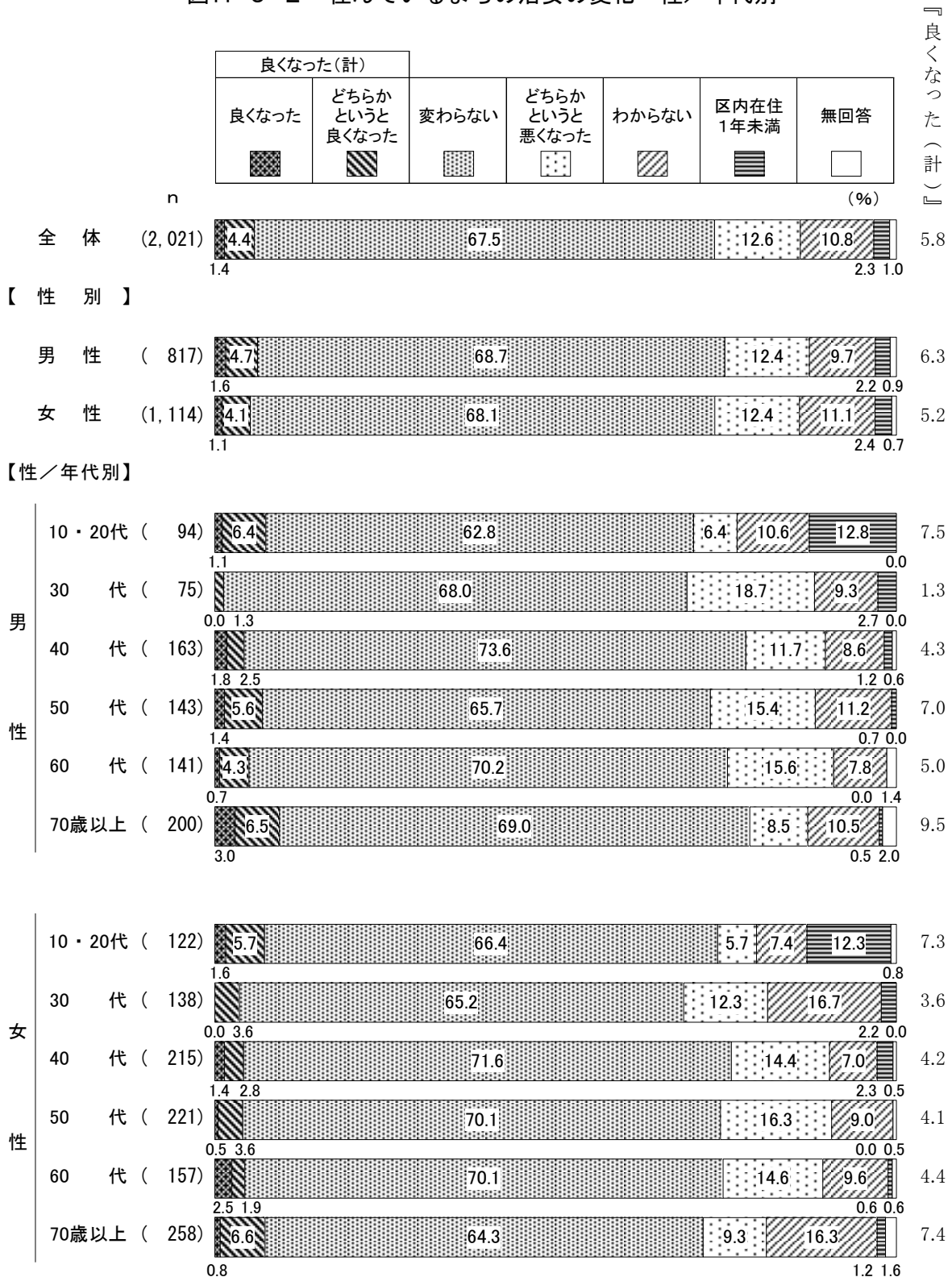
問22 あなたは、1年前に比べて現在住んでいるまちの治安はどのように変化したと感じていますか。(○は1つだけ)

図11-5-1



1年前に比べて現在住んでいるまちの治安はどのように変化したと感じているか聞いたところ、「良くなった」(1.4%)と「どちらかという良くなった」(4.4%)を合わせた『良くなった(計)』(5.8%)は1割未満となっている。一方、「変わらない」(67.5%)は7割近く、「どちらかという悪くなった」(12.6%)は1割を超えている。(図11-5-1)

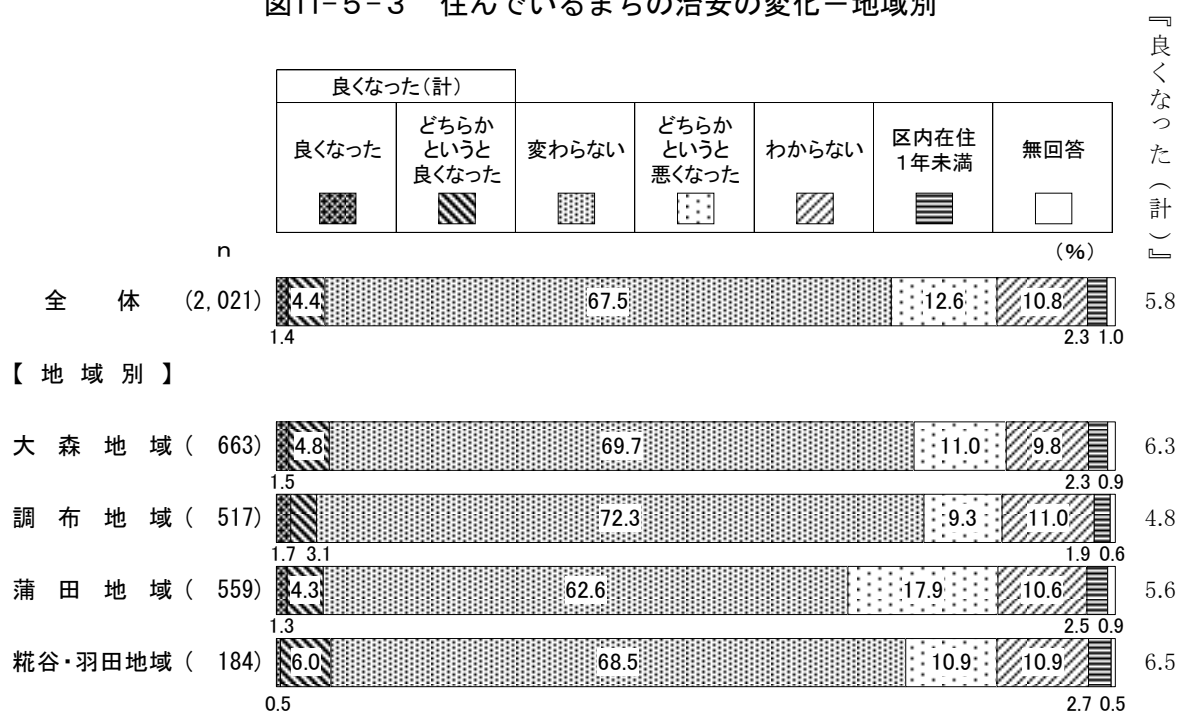
図11-5-2 住んでいるまちの治安の変化－性／年代別



性別で見ると、大きな違いはみられない。

性／年代別で見ると、『良くなった（計）』は男性70歳以上（9.5%）で1割となっている。「変わらない」は男性40代（73.6%）と女性40代（71.6%）で7割を超えて高くなっている。一方、「どちらかという悪くなった」は男性30代（18.7%）で2割近くとなっている。（図11-5-2）

図11-5-3 住んでいるまちの治安の変化—地域別



地域別で見ると、「変わらない」は調布地域（72.3%）で7割を超えて高くなっている。「どちらかという悪くなった」は蒲田地域（17.9%）で2割近くとなっている。（図11-5-3）

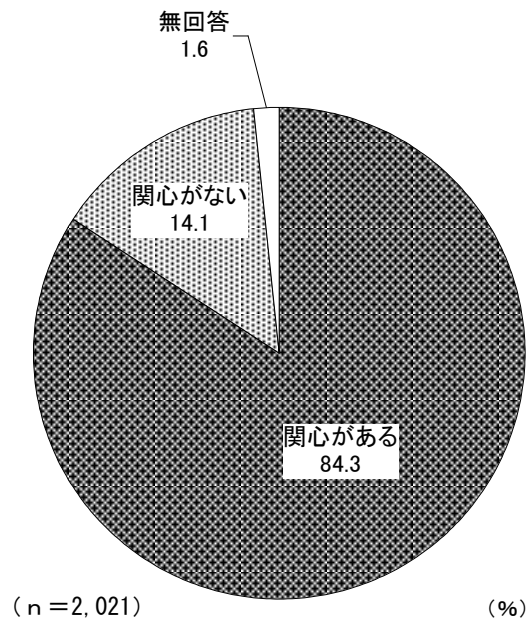
## 12. 持続可能な地球環境

### (1) 地球温暖化防止への関心度

◇「関心がある」が8割半ば

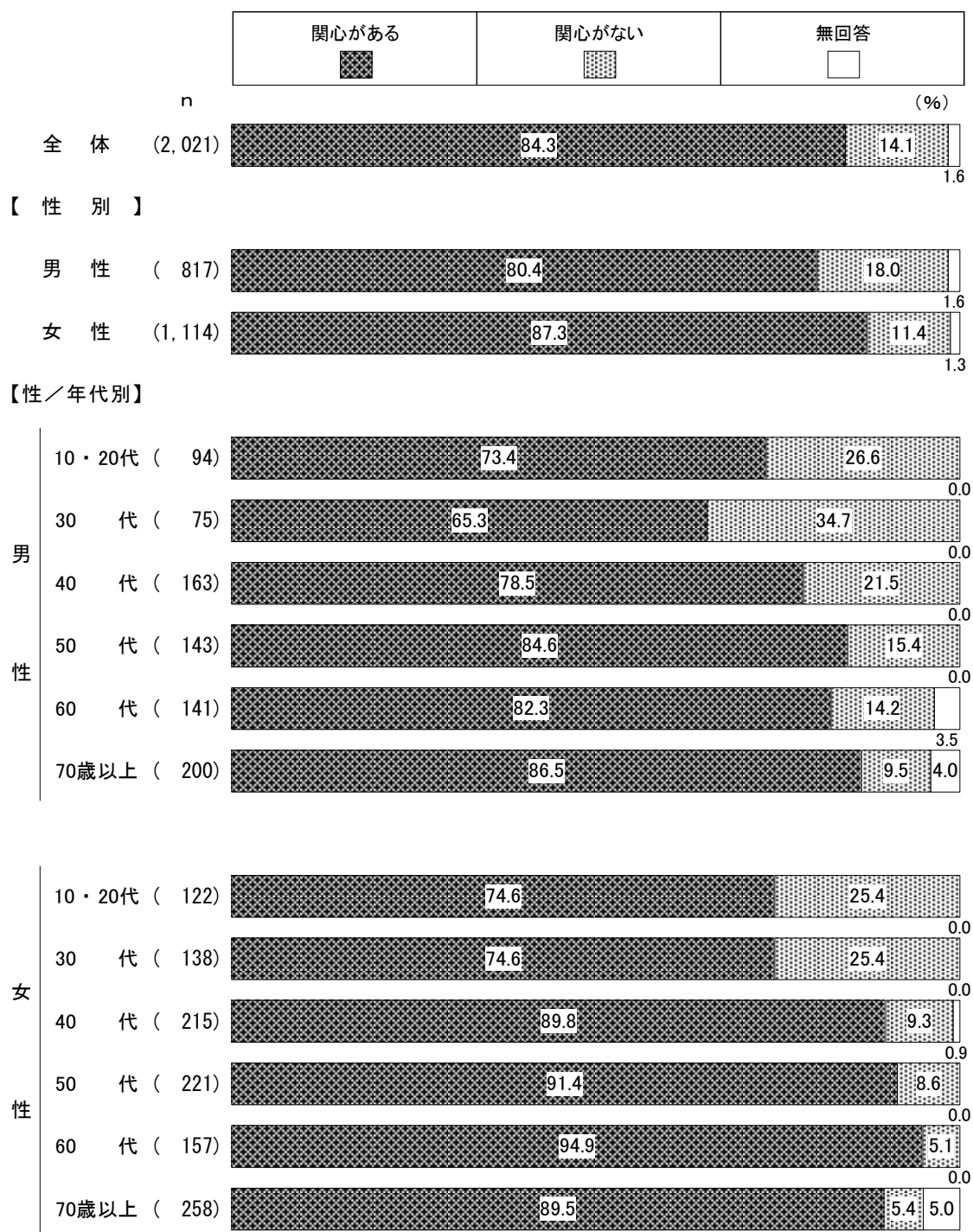
問23 あなたは、地球温暖化防止に関心がありますか。(○は1つだけ)

図12-1-1



地球温暖化防止に関心があるか聞いたところ、「関心がある」(84.3%)が8割半ば、「関心がない」(14.1%)は1割半ばとなっている。(図12-1-1)

図12-1-2 地球温暖化防止への関心度－性／年代別

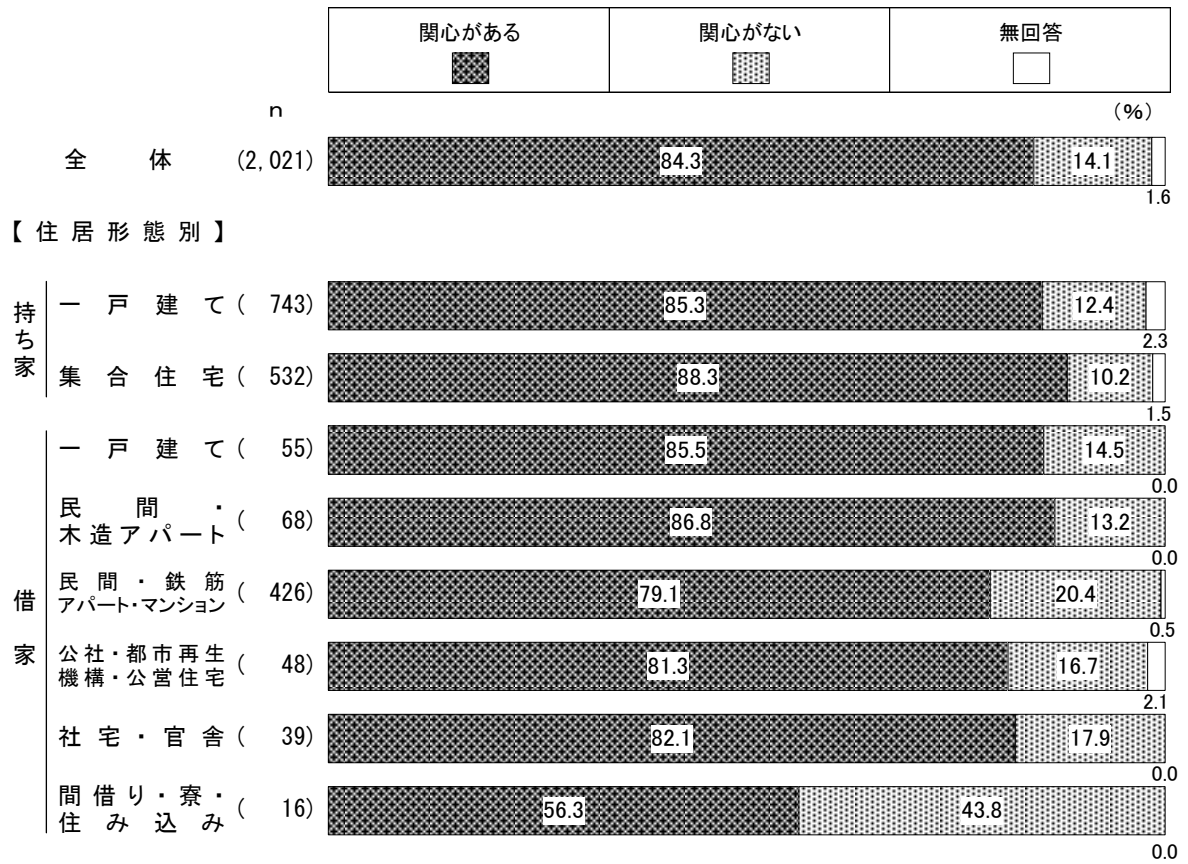


性別でみると、「関心がある」は女性（87.3%）が男性（80.4%）より6.9ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「関心がある」は女性60代（94.9%）で9割半ばと高くなっている。一方、「関心がない」は男性30代（34.7%）で3割半ばと高くなっている。（図12-1-2）

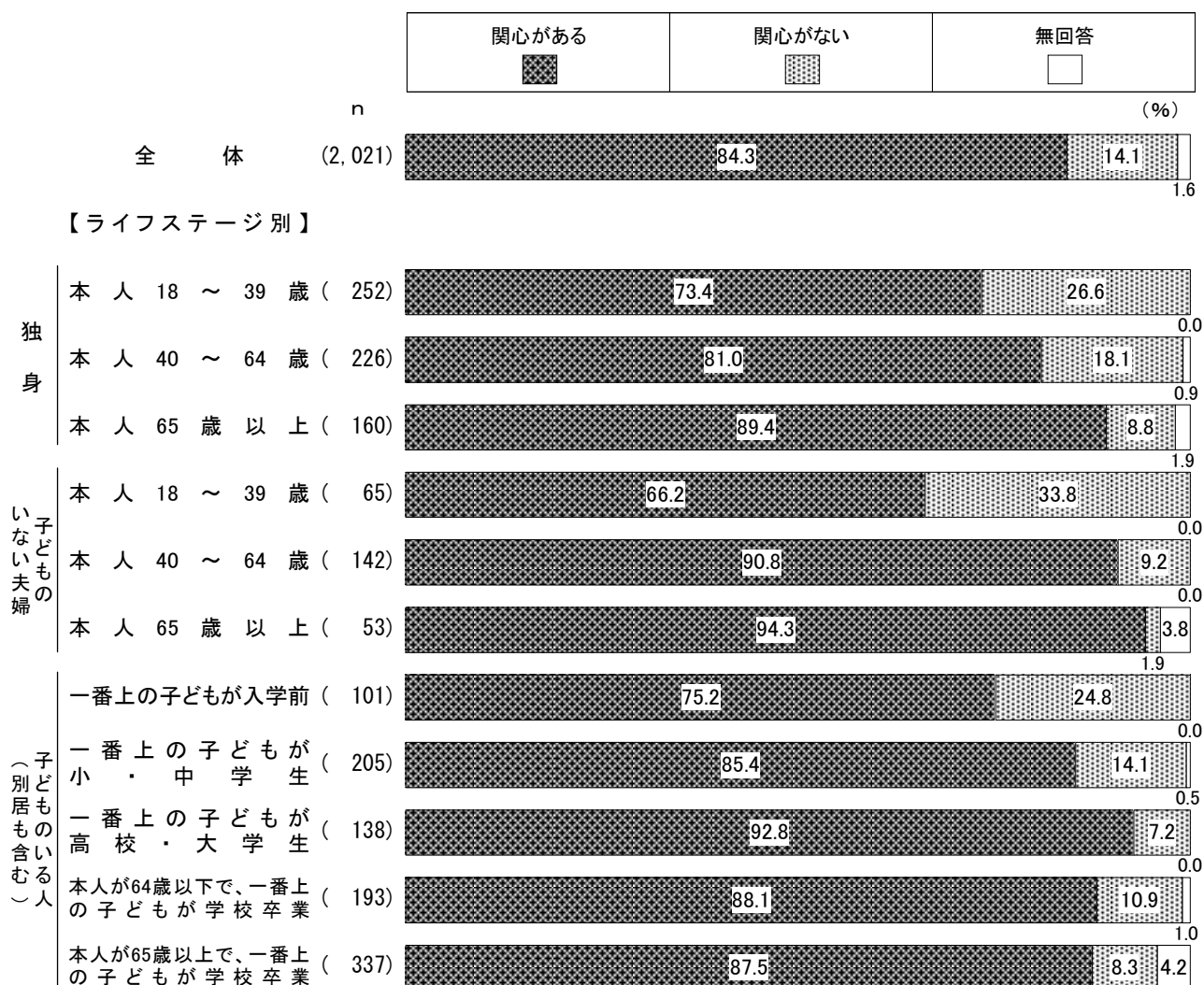


図12-1-3 地球温暖化防止への関心度－住居形態別



住居形態別でみると、「関心がある」は“持ち家、集合住宅”（88.3%）と“借家、民間・木造アパート”（86.8%）で9割近くと高くなっている。（図12-1-3）

図12-1-4 地球温暖化防止への関心度－ライフステージ別



ライフステージ別で見ると、「興味がある」は“本人が65歳以上で、子どものいない夫婦” (94.3%) で9割半ばと高くなっている。一方、「興味がない」は“本人が18～39歳で、子どものいない夫婦” (33.8%) で3割を超えて高くなっている。(図12-1-4)

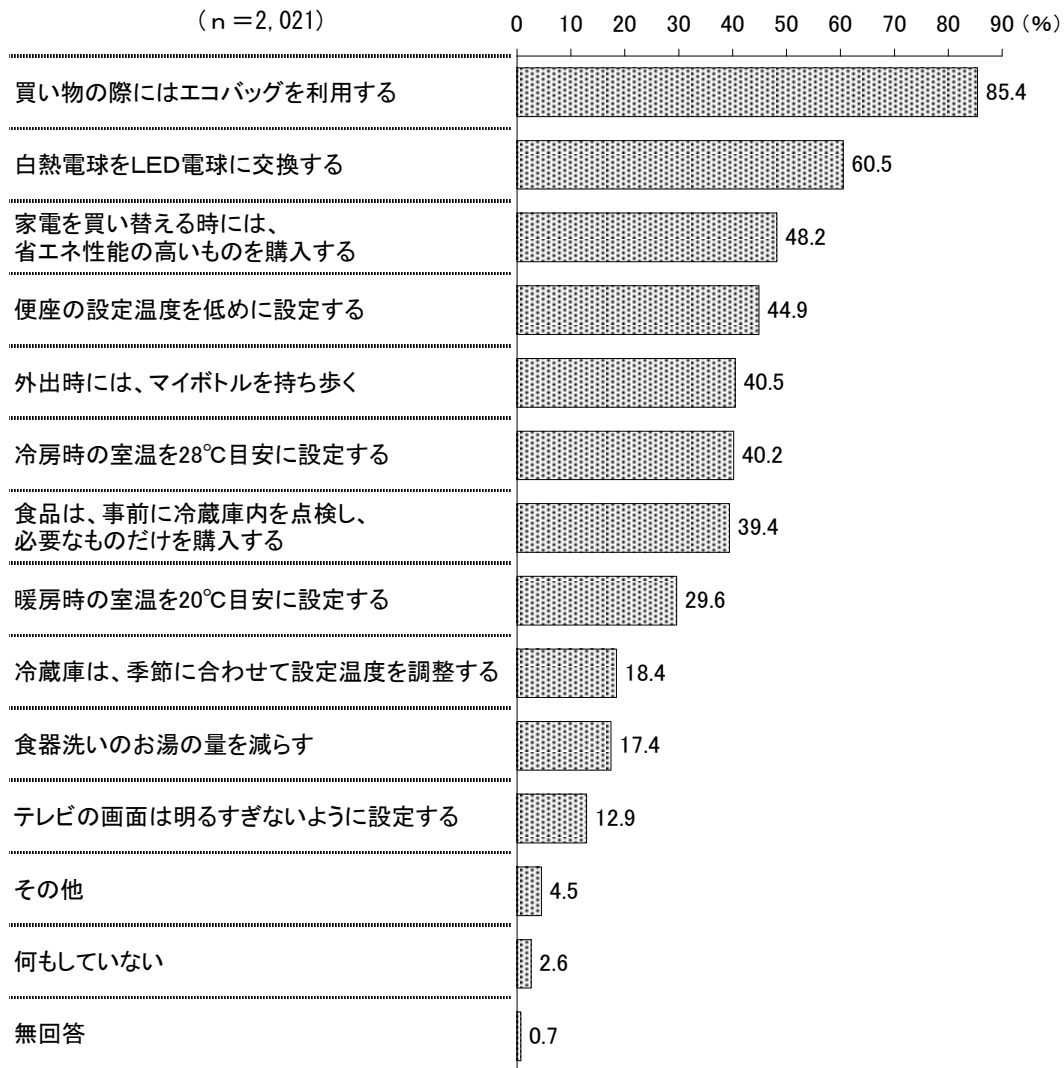
(2) 家庭で取り組んでいる省エネ行動

◇「買い物の際にはエコバッグを利用する」が8割半ば

問24 あなたのご家庭で実践している省エネ等の環境配慮行動を教えてください。

(〇はいくつでも)

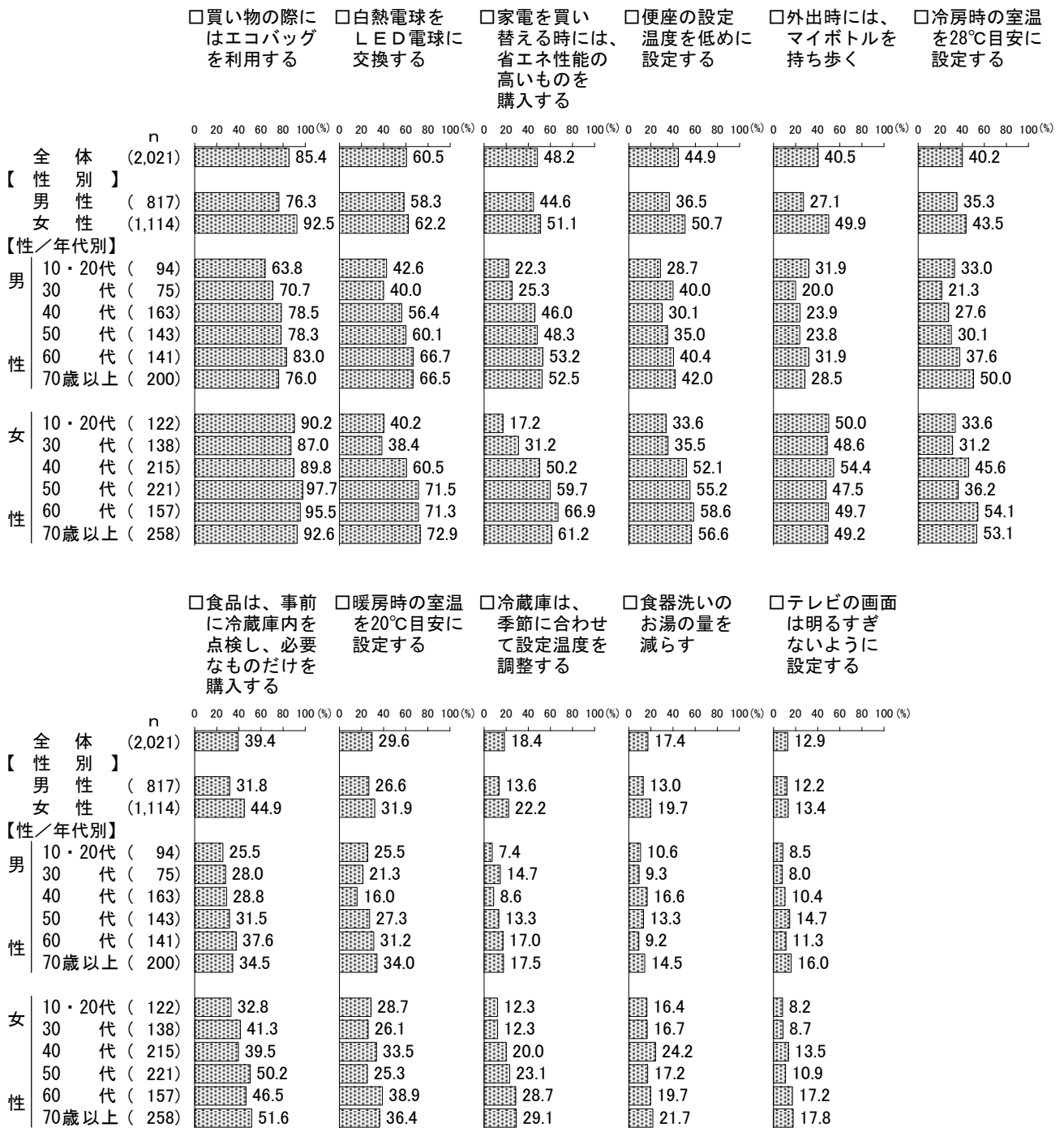
図12-2-1



家庭で取り組んでいる省エネ行動を聞いたところ、「買い物の際にはエコバッグを利用する」(85.4%)が8割半ばで最も高く、次いで「白熱電球をLED電球に交換する」(60.5%)、「家電を買い替える時には、省エネ性能の高いものを購入する」(48.2%)、「便座の設定温度を低めに設定する」(44.9%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「電気をこまめに消す」、「ごみを減らす」、「ごみの分別」、「エアコンをなるべく使用しない」などがあげられている。(図12-2-1)

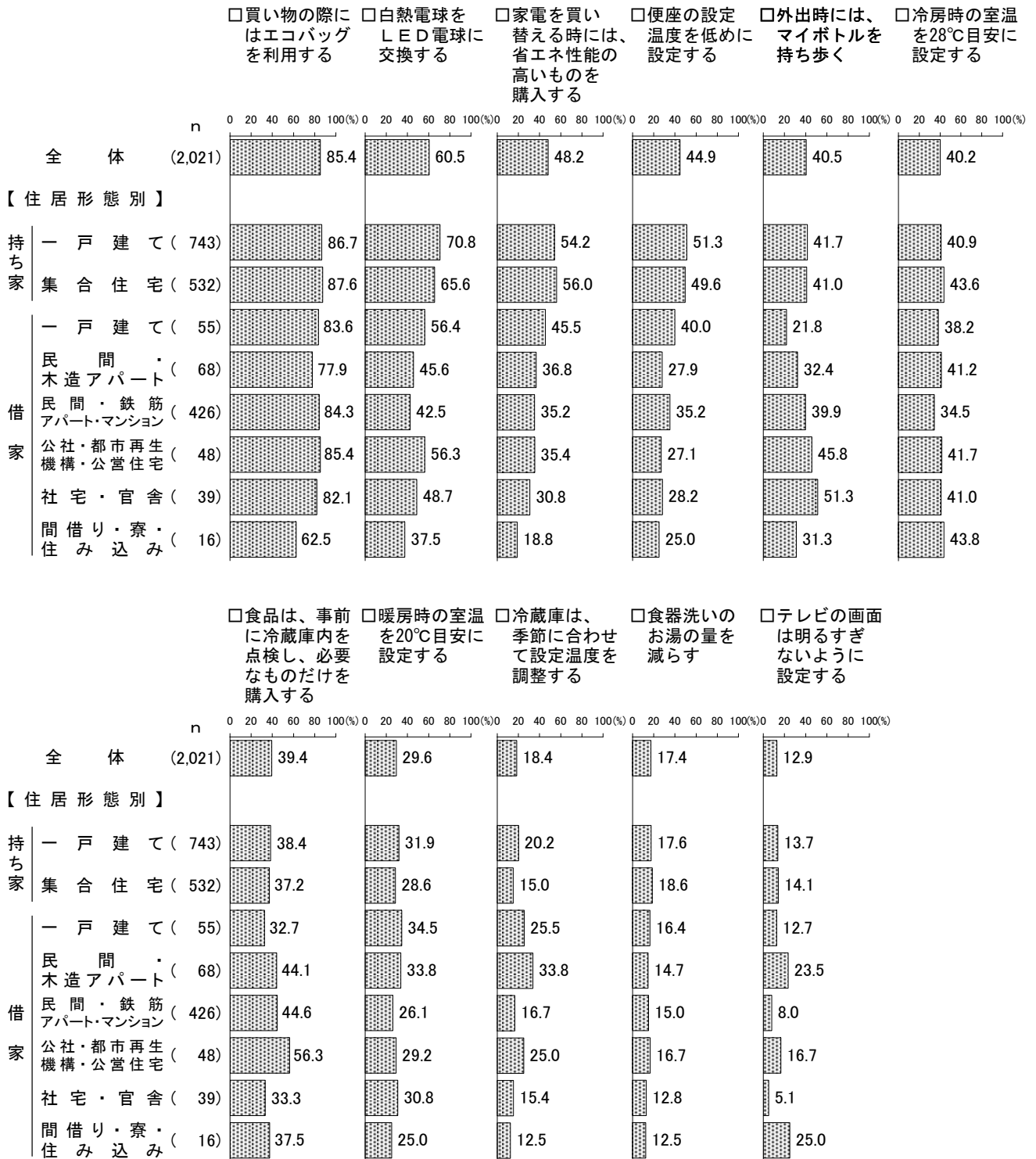
図12-2-2 家庭で取り組んでいる省エネ行動一性／年代別（上位11項目）



上位11項目を性別で見ると、全ての項目で女性が男性を上回っており、「外出時には、マイボトルを持ち歩く」は女性（49.9%）が男性（27.1%）より22.8ポイント、「買い物の際にはエコバッグを利用する」は女性（92.5%）が男性（76.3%）より16.2ポイント、それぞれ高くなっている。

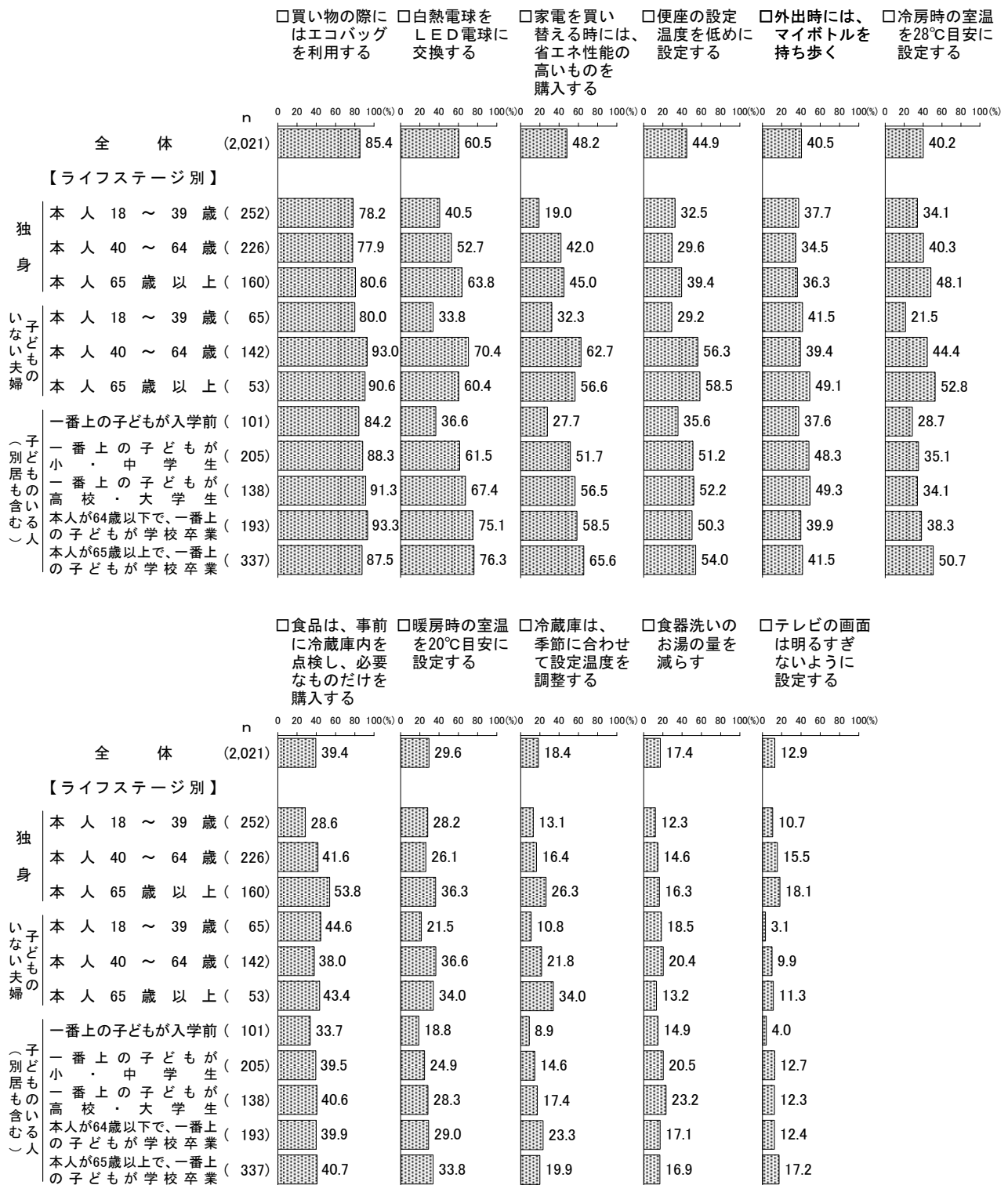
性／年代別で見ると、「買い物の際にはエコバッグを利用する」は女性50代（97.7%）で10割近くと高くなっている。「白熱電球をLED電球に交換する」は女性50代以上の年代で7割を超えて高くなっている。（図12-2-2）

図12-2-3 家庭で取り組んでいる省エネ行動－住居形態別（上位11項目）



上位11項目を住居形態別で見ると、「買い物の際にはエコバッグを利用する」は「持ち家、集合住宅」（87.6%）と「持ち家、一戸建て」（86.7%）で9割近くと高くなっている。「白熱電球をLED電球に交換する」は「持ち家、一戸建て」（70.8%）で約7割と高くなっている。「食品は、事前に冷蔵庫内を点検し、必要なものだけを購入する」は「借家、公社・都市再生機構（旧公団）・公営住宅」（56.3%）で5割半ばと高くなっている。（図12-2-3）

図12-2-4 家庭で取り組んでいる省エネ行動－ライフステージ別（上位11項目）



上位11項目をライフステージ別で見ると、「白熱電球をLED電球に交換する」は「本人が65歳以上で、一番上の子どもが学校卒業」(76.3%)と「本人が64歳以下で、一番上の子どもが学校卒業」(75.1%)で7割半ばと高くなっている。「家電を買い替える時には、省エネ性能の高いものを購入する」は「本人が65歳以上で、一番上の子どもが学校卒業」(65.6%)で6割半ばと高くなっている。(図12-2-4)

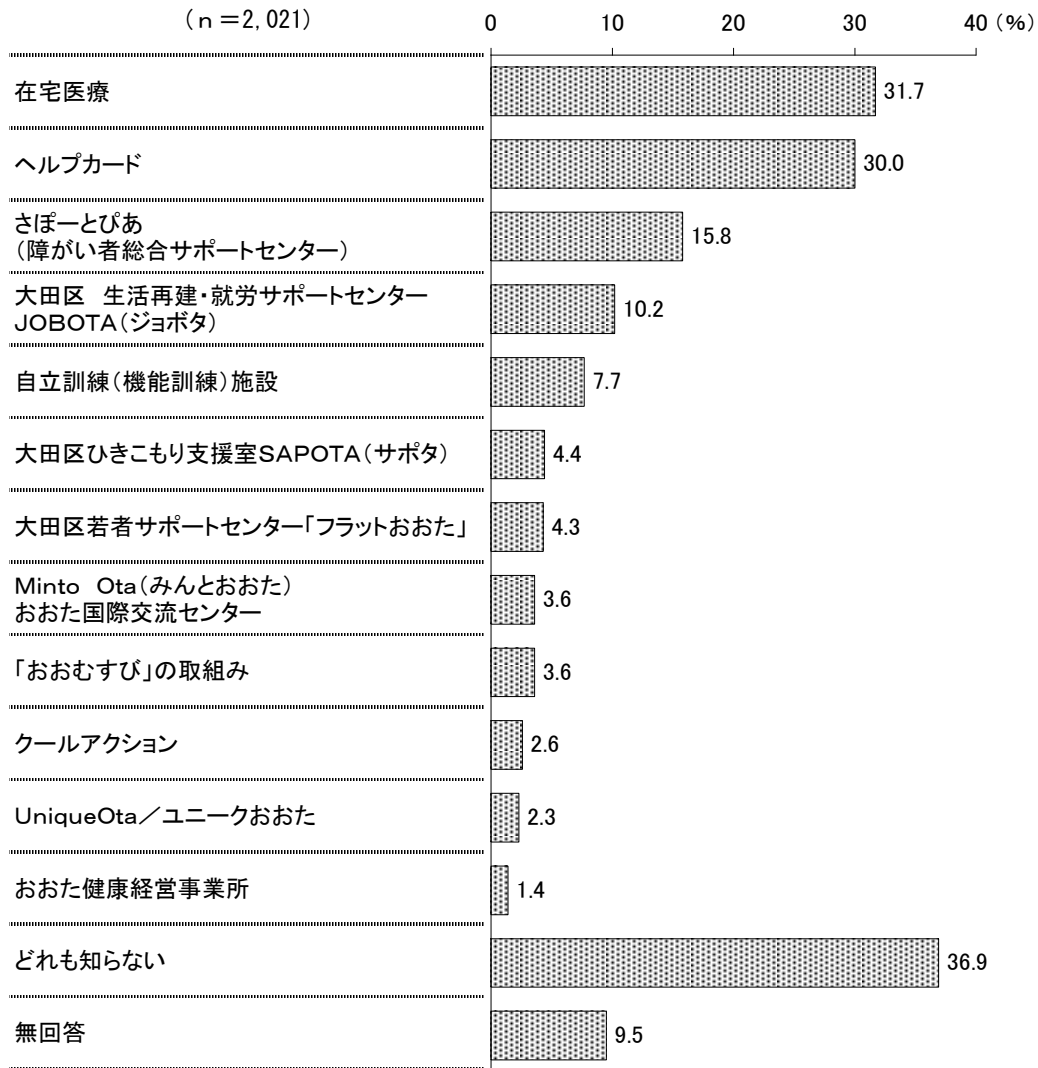
### 13. 区政への関心と要望

#### (1) 大田区等の制度・施策・施設の認知度

◇「在宅医療」が3割を超える

問25 以下の大田区等の制度、施策、施設のうち、あなたをご存知のものをすべて挙げてください。(〇はいくつでも)

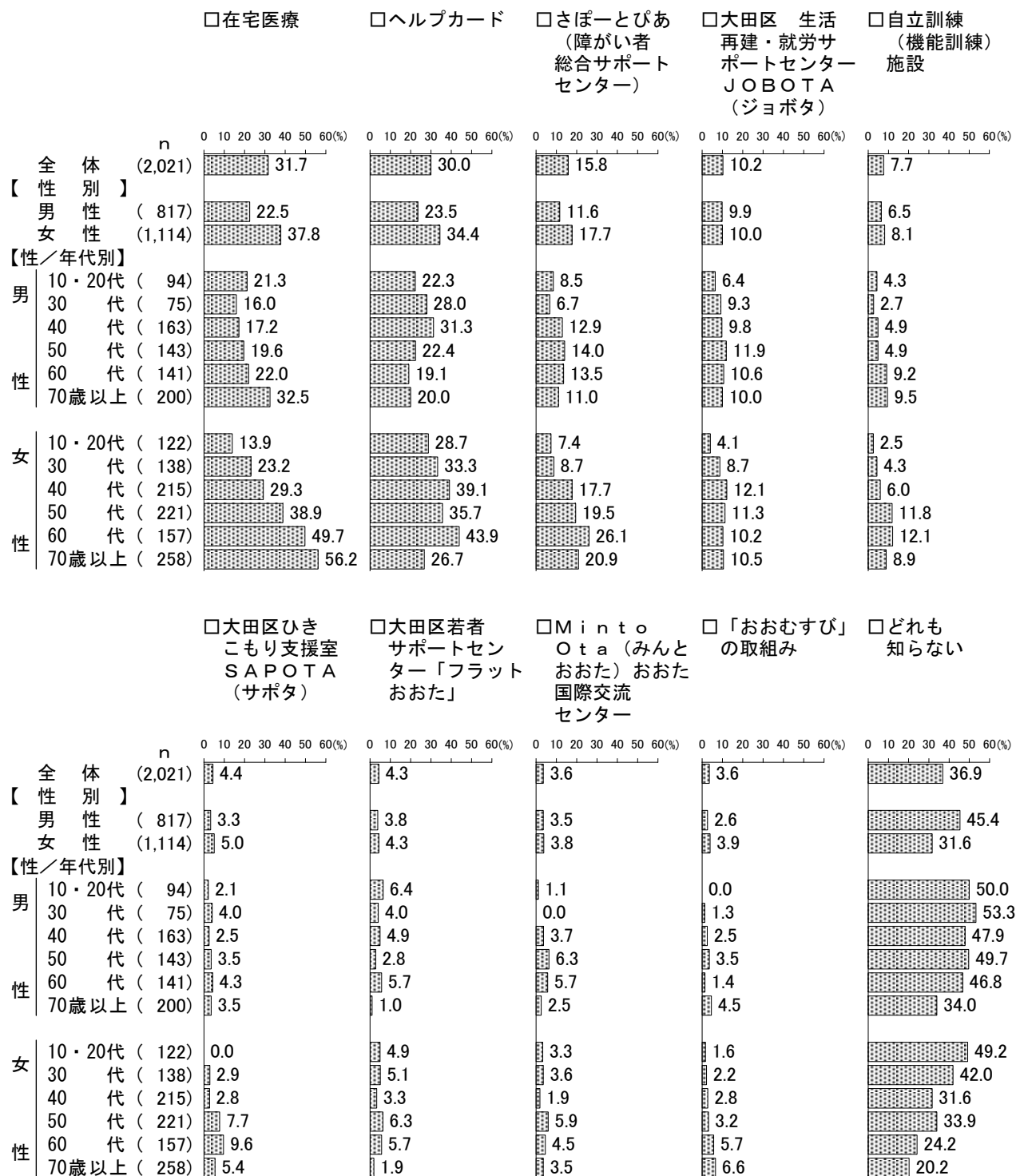
図13-1-1



区等の制度、施策、施設について知っているものを聞いたところ、「在宅医療」(31.7%)が3割を超えて最も高く、次いで「ヘルプカード」(30.0%)、「さぼーとぴあ(障がい者総合サポートセンター)」(15.8%)、「大田区 生活再建・就労サポートセンター JOBOTA(ジョボタ)」(10.2%)などの順になっている。一方、「どれも知らない」(36.9%)は4割近くとなっている。

(図13-1-1)

図13-1-2 大田区等の制度・施策・施設の認知度－性／年代別（上位10項目）

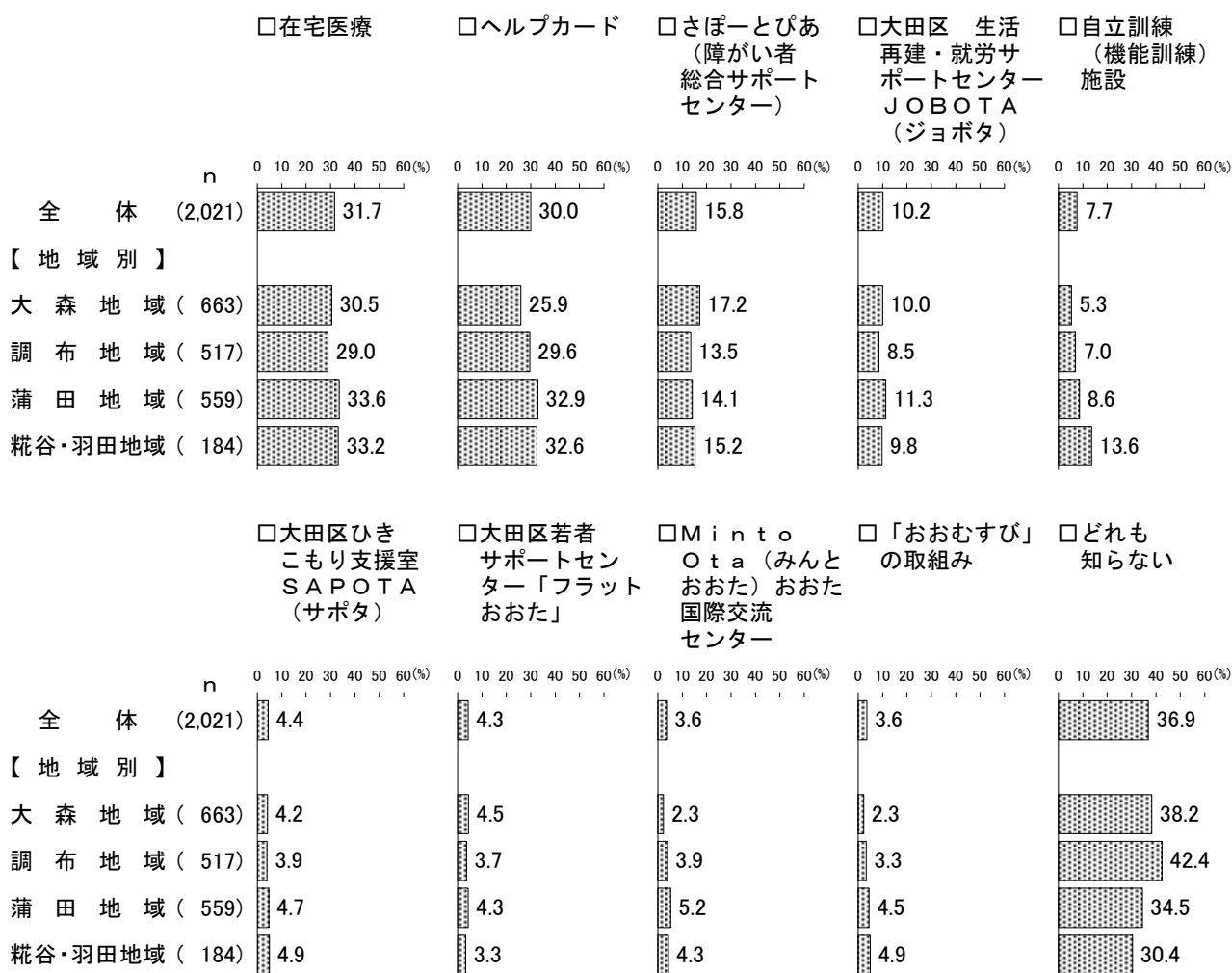


上位10項目を性別で見ると、多くの項目で女性が男性を上回っており、「在宅医療」は女性（37.8%）が男性（22.5%）より15.3ポイント、「ヘルプカード」は女性（34.4%）が男性（23.5%）より10.9ポイント、それぞれ高くなっている。

性／年代別で見ると、「在宅医療」は男女ともにおおむね年代が高くなるほど割合が高く、女性70歳以上（56.2%）で5割半ばとなっている。「ヘルプカード」は女性60代（43.9%）で4割を超えて高くなっている。「さぽーとぴあ（障がい者総合サポートセンター）」は女性60代（26.1%）で2割半ばと高くなっている。（図13-1-2）



図13-1-3 大田区等の制度・施策・施設の認知度—地域別（上位10項目）



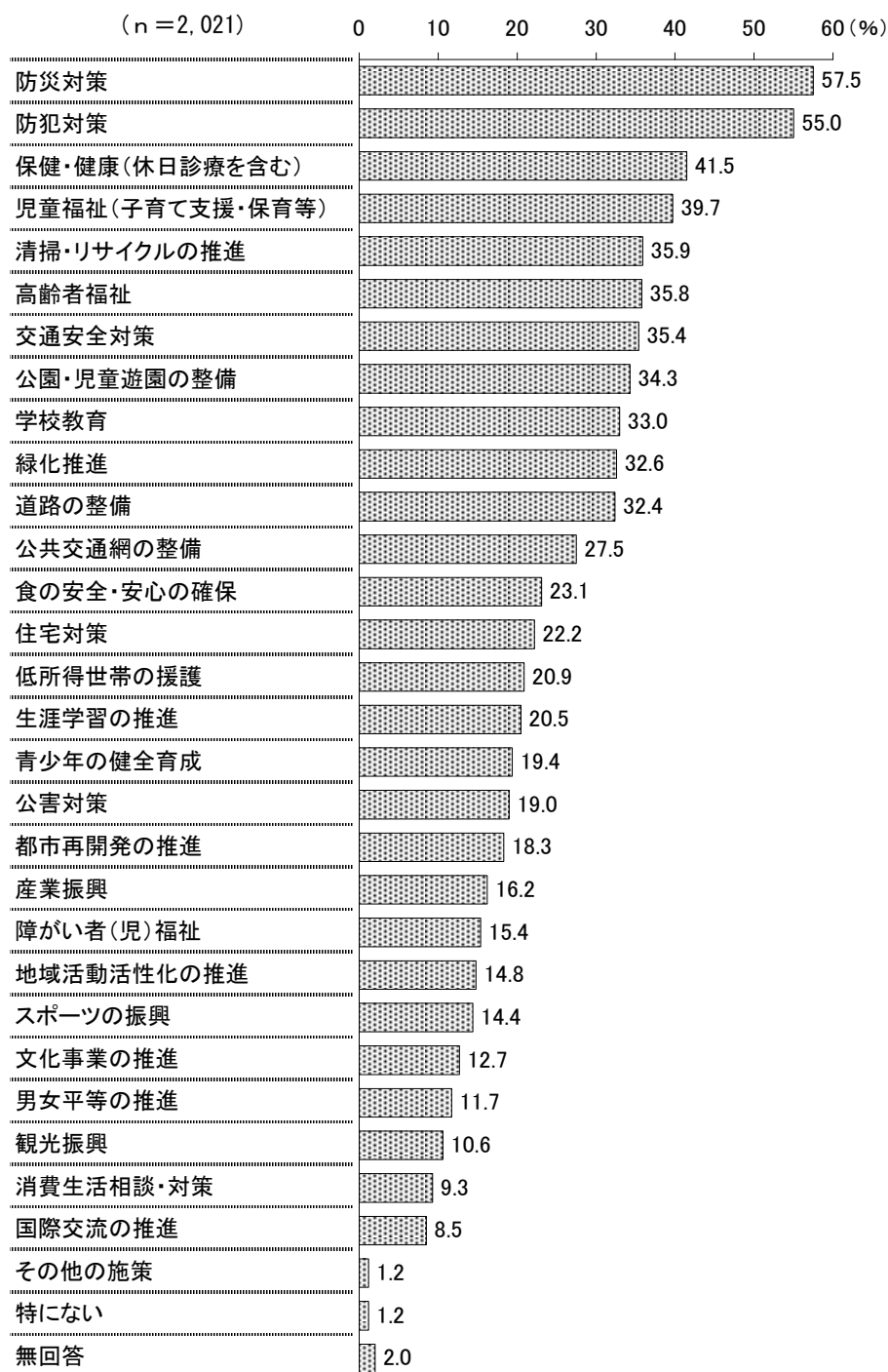
上位10項目を地域別で見ると、「在宅医療」は蒲田地域（33.6%）と糎谷・羽田地域（33.2%）で3割超えて高くなっている。「ヘルプカード」は蒲田地域（32.9%）と糎谷・羽田地域（32.6%）で3割超えて高くなっている。（図13-1-3）

## (2) 施策要望

◇「防災対策」が6割近く

問26 大田区の施策の中で、特に何に力を入れてほしいと思いますか。(〇はいくつでも)

図13-2-1

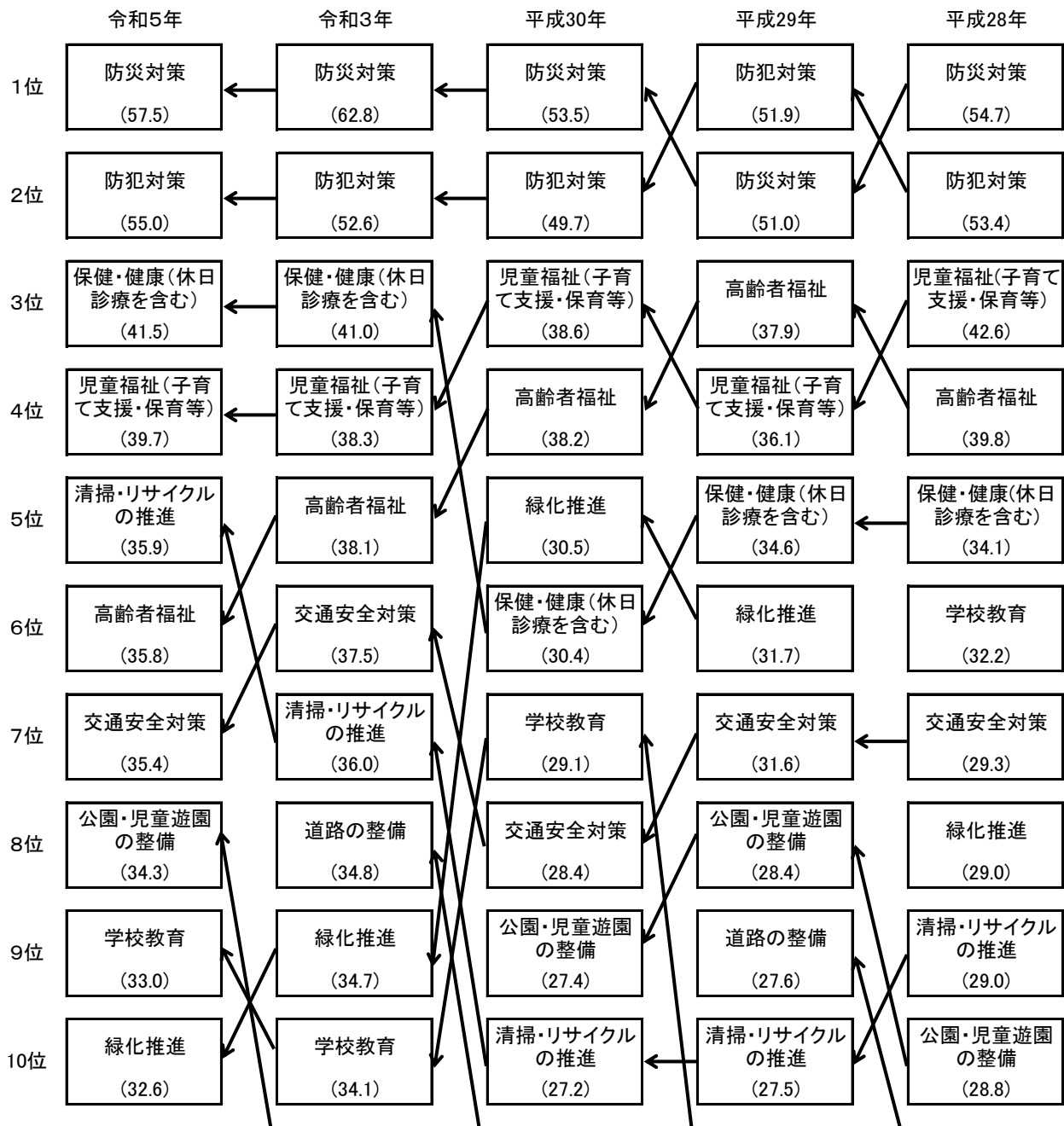


区の施策の中で、特に力を入れてほしいことを聞いたところ、「防災対策」(57.5%)が6割近くで最も高く、次いで「防犯対策」(55.0%)、「保健・健康(休日診療を含む)」(41.5%)、「児童福祉(子育て支援・保育等)」(39.7%)などの順になっている。

「その他の施策」への回答として、「路上喫煙対策」、「駐輪場の増設」などがあげられている。

(図13-2-1)

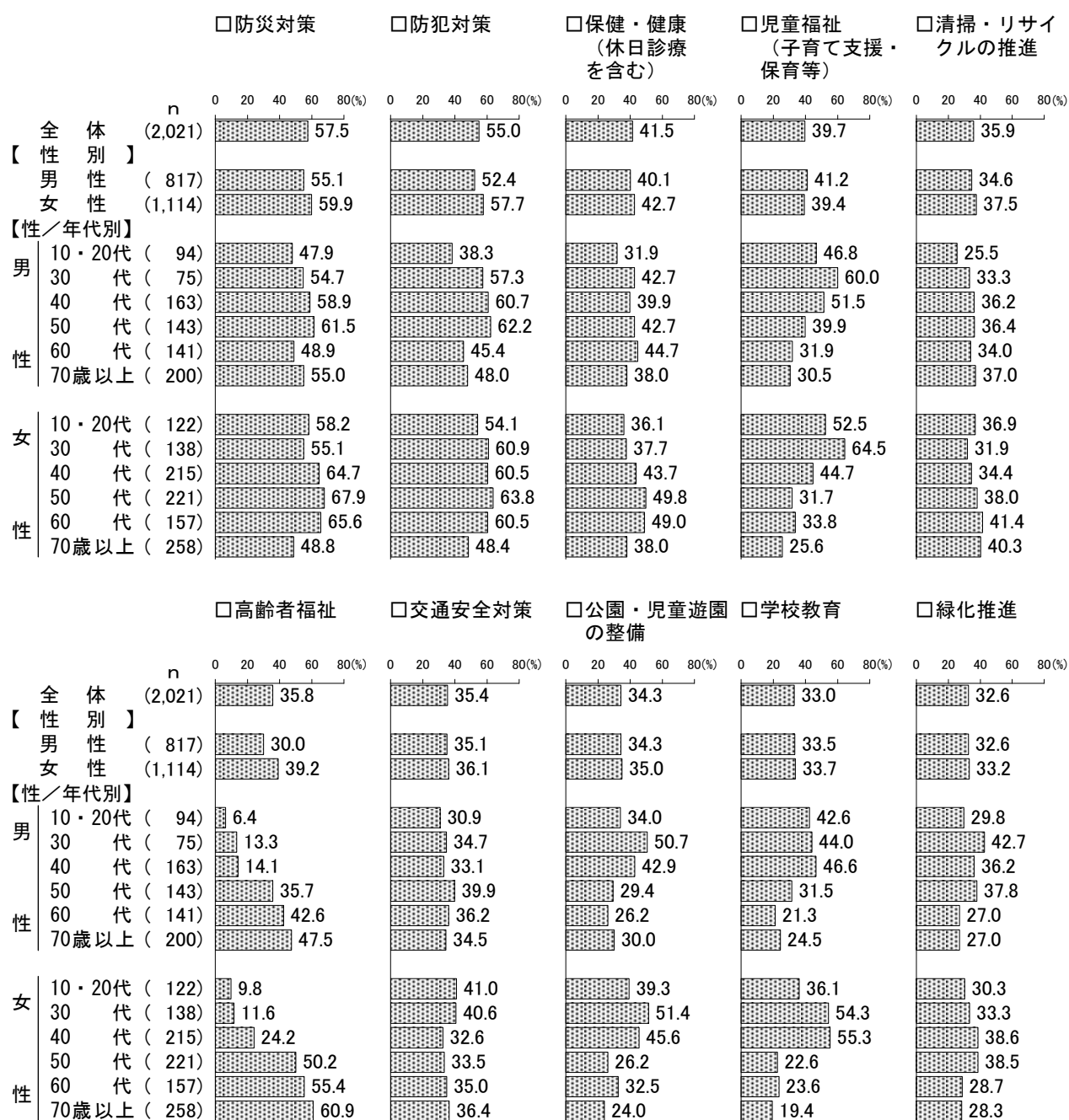
表13-2-1 施策要望一経年比較（上位10項目）



※同ポイントの項目は選択肢の順に記載している。

上位10項目の経年比較をみると、前回調査に引き続き「防災対策」は1位、「防犯対策」は2位、「保健・健康（休日診療を含む）」は3位、「児童福祉（子育て支援・保育等）」は4位となっている。また、「清掃・リサイクルの推進」は前回調査では7位であったが、今回調査では5位となっている。（表13-2-1）

図13-2-2 施策要望一性／年代別（上位10項目）



上位10項目を性別で見ると、多くの項目で女性が男性を上回っており、「高齢者福祉」は女性（39.2%）が男性（30.0%）より9.2ポイント、「防犯対策」は女性（57.7%）が男性（52.4%）より5.3ポイント、それぞれ高くなっている。

性／年代別で見ると、「防災対策」は女性50代（67.9%）で7割近くと高くなっている。「児童福祉（子育て支援・保育等）」は女性30代（64.5%）で6割半ばと高くなっている。「高齢者福祉」は男女ともに年代が高くなるほど割合が高く、女性70歳以上（60.9%）で約6割となっている。

（図13-2-2）

表13-2-2 施策要望—地域別（上位5項目）

(%)

	n	1位	2位	3位	4位	5位
全 体	2,021	防災対策 (57.5)	防犯対策 (55.0)	保健・健康(休日 診療を含む) (41.5)	児童福祉(子育て 支援・保育等) (39.7)	清掃・リサイクル の推進 (35.9)
大 森 地 域	663	防災対策 (56.4)	防犯対策 (52.8)	保健・健康(休日 診療を含む) (40.1)	児童福祉(子育て 支援・保育等) (39.4)	公園・児童遊園 の整備 (37.3)
調 布 地 域	517	防災対策 (56.1)	防犯対策 (55.1)	児童福祉(子育て支援・保育等) ／保健・健康(休日診療を含む) (41.0)		高齢者福祉 (38.1)
蒲 田 地 域	559	防災対策 (60.5)	防犯対策 (58.9)	保健・健康(休日 診療を含む) (42.4)	児童福祉(子育て 支援・保育等) (39.4)	清掃・リサイクル の推進 (37.7)
糀谷・羽田地域	184	防災対策 (59.8)	防犯対策 (55.4)	児童福祉(子育て支援・保育等) ／保健・健康(休日診療を含む) (45.1)		清掃・リサイクル の推進 (40.2)

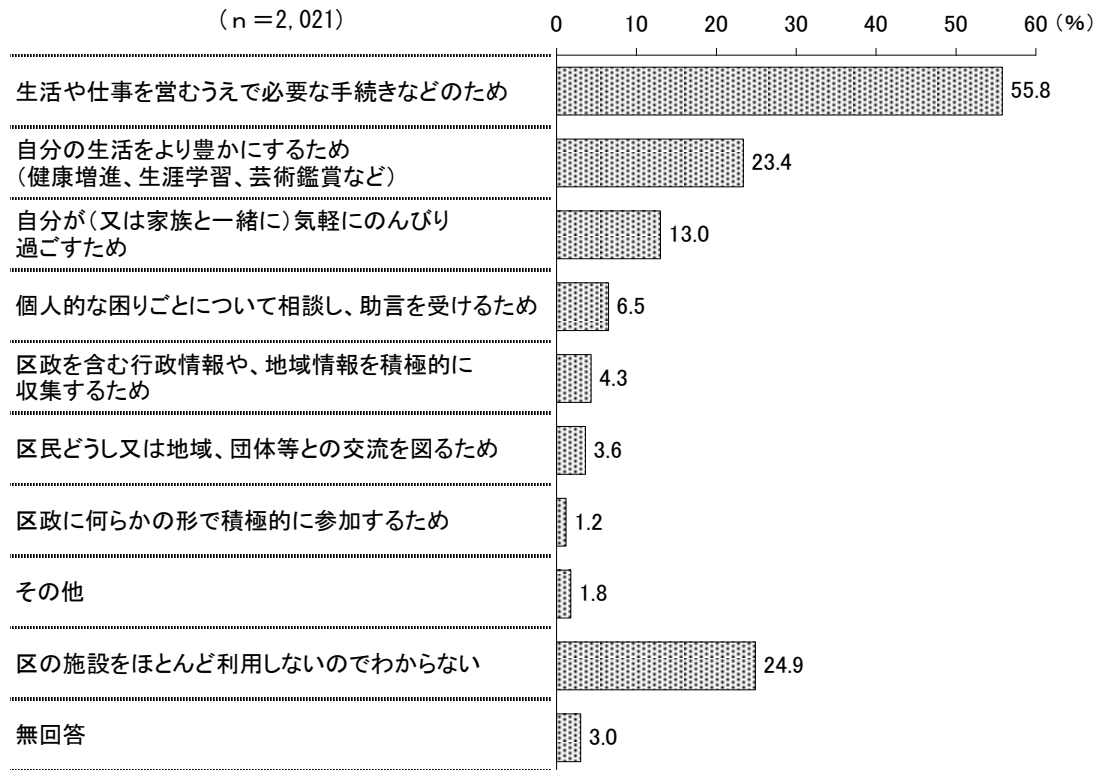
上位5項目を地域別で見ると、全ての地域で「防災対策」が1位、「防犯対策」が2位となっている。(表13-2-2)

### (3) 区内施設の利用目的

◇「生活や仕事を営むうえで必要な手続きなどのため」が5割半ば

問27 あなたは、どんな目的で大田区の施設を利用することが多いですか。(○は3つまで)

図13-3-1

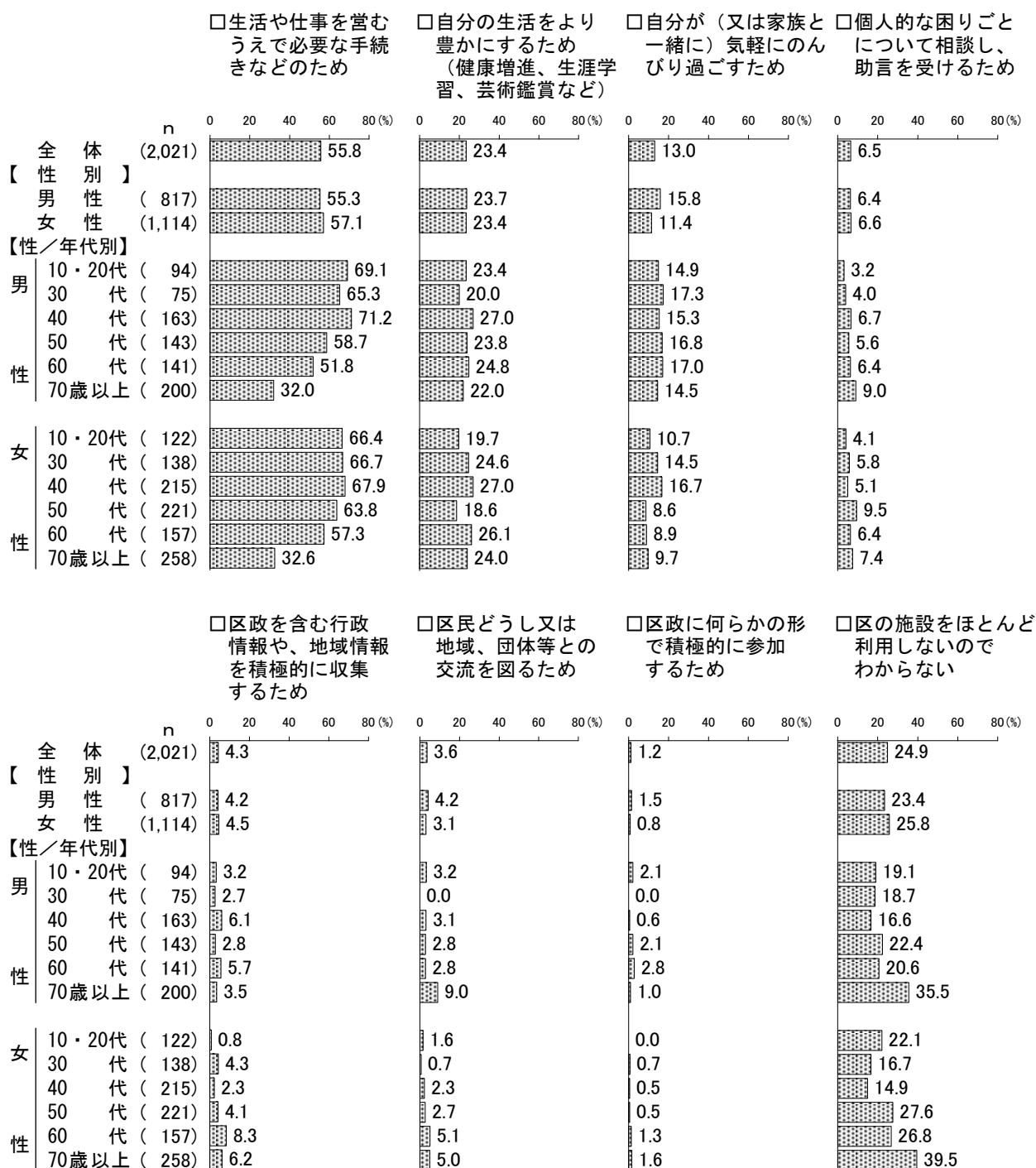


どんな目的で大田区の施設を利用することが多いか聞いたところ、「生活や仕事を営むうえで必要な手続きなどのため」(55.8%)が5割半ばで最も高く、次いで「自分の生活をより豊かにするため(健康増進、生涯学習、芸術鑑賞など)」(23.4%)、「自分が(又は家族と一緒に)気軽にのんびり過ごすため」(13.0%)などの順になっている。一方、「区の施設をほとんど利用しないのでわからない」(24.9%)は2割半ばとなっている。

「その他」への回答として、「図書館」、「プール」、「トイレ」などがあげられている。

(図13-3-1)

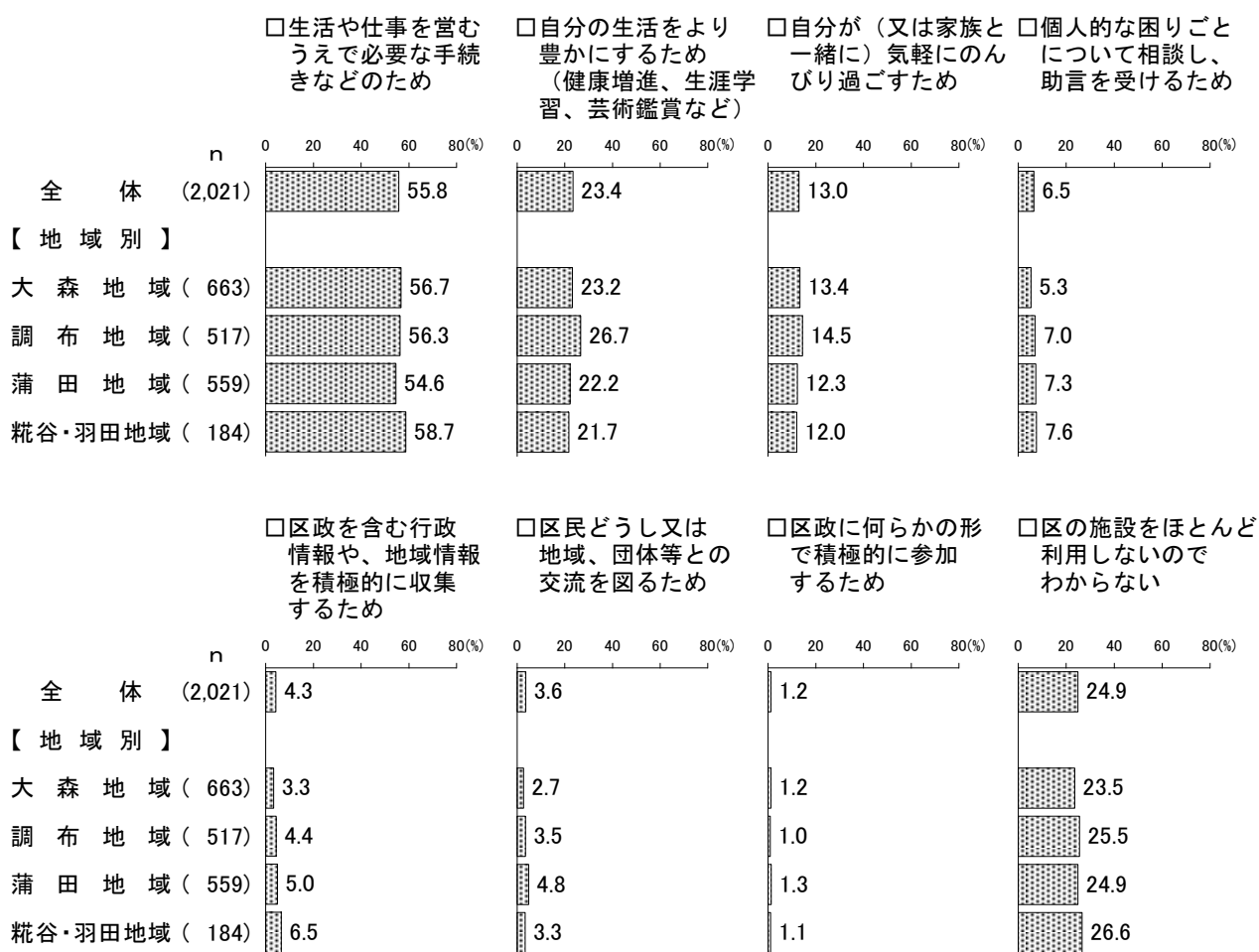
図13-3-2 区内施設の利用目的一性／年代別



性別で見ると、「自分が(又は家族と一緒に)気軽にのんびり過ごすため」は男性(15.8%)が女性(11.4%)より4.4ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「生活や仕事を営むうえで必要な手続きなどのため」は男性40代(71.2%)で7割を超えて高くなっている。「自分の生活をより豊かにするため」は男性40代(27.0%)と女性40代(27.0%)で3割近くと高くなっている。(図13-3-2)

図13-3-3 区内施設の利用目的—地域別



地域別でみると、「自分の生活をより豊かにするため」は調布地域 (26.7%) で3割近くと高くなっている。(図13-3-3)

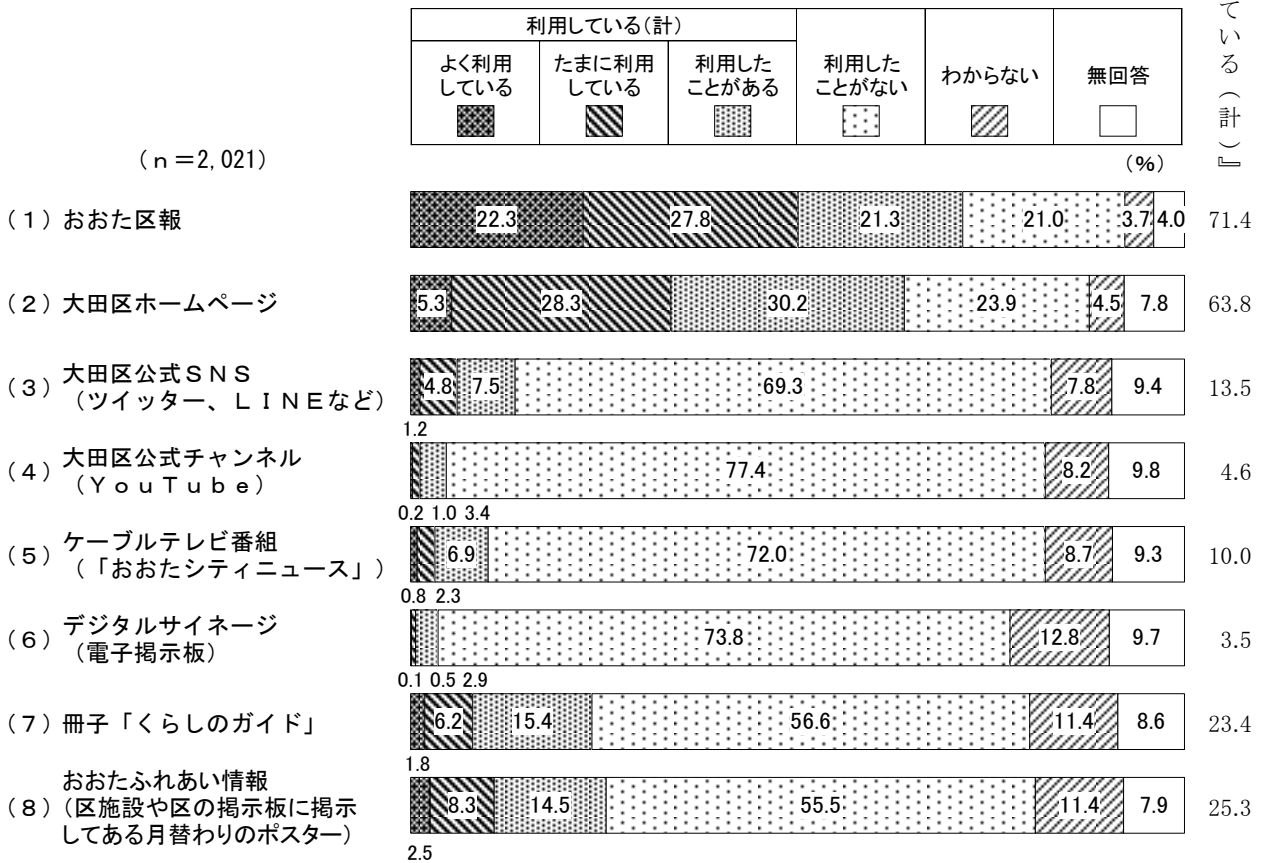


#### (4) 区の媒体の利用頻度

◇「よく利用している」、「たまに利用している」、「利用したことがある」を合わせた『利用している（計）』は“おおた区報”で7割を超える

問28 あなたは区政に関する情報を知りたいとき、それぞれの媒体をどの程度利用して（見て）いますか。（○はそれぞれ1つ）

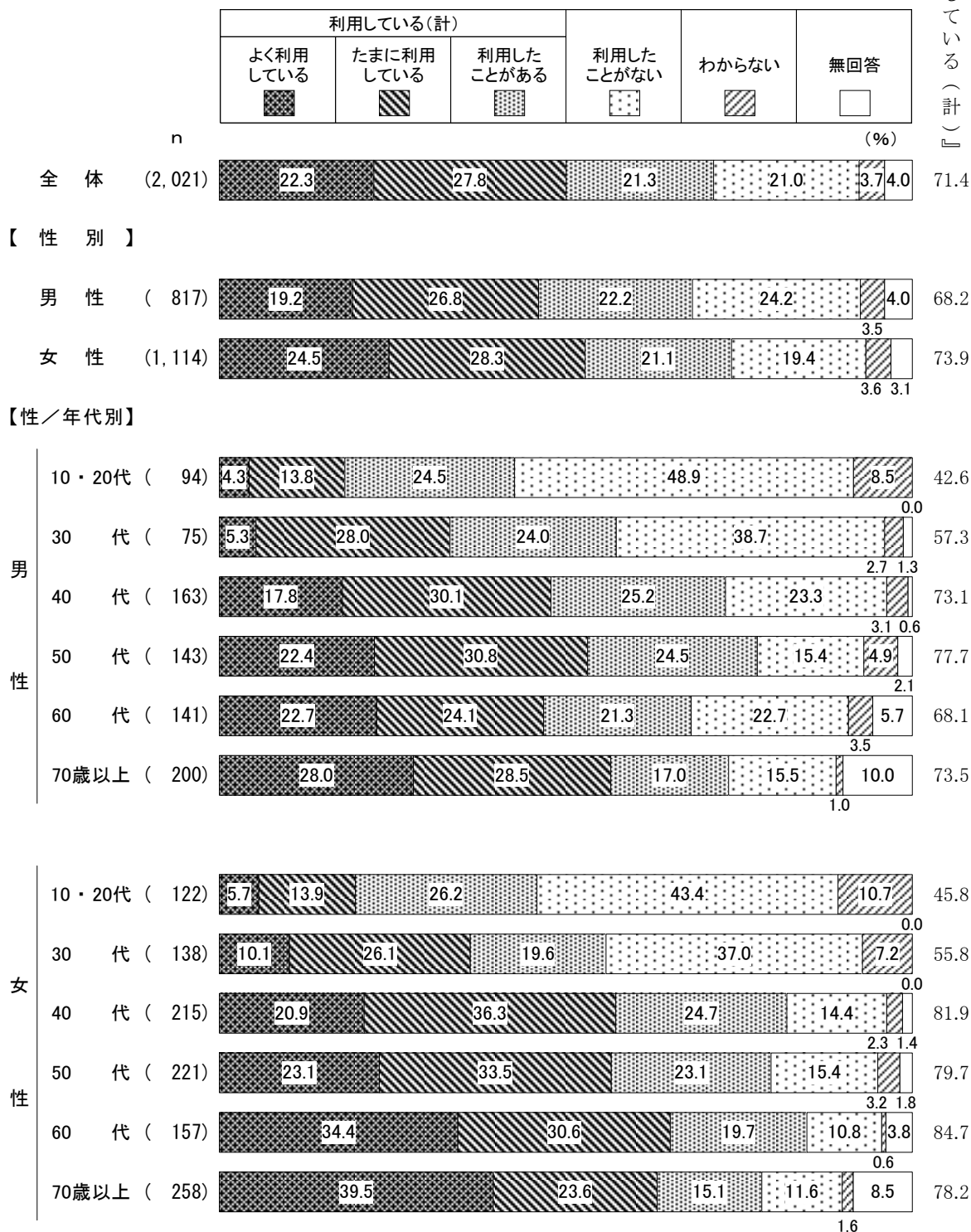
図13-4-1



区政に関する情報を知りたいとき、それぞれの媒体をどの程度利用しているか聞いたところ、「よく利用している」、「たまに利用している」、「利用したことがある」を合わせた『利用している（計）』は“おおた区報”（71.4%）で7割を超え、“大田区ホームページ”（63.8%）で6割を超えて高くなっている。（図13-4-1）

図13-4-2 区の媒体の利用頻度－性／年代別【(1) おおた区報】

『利用している(計)』

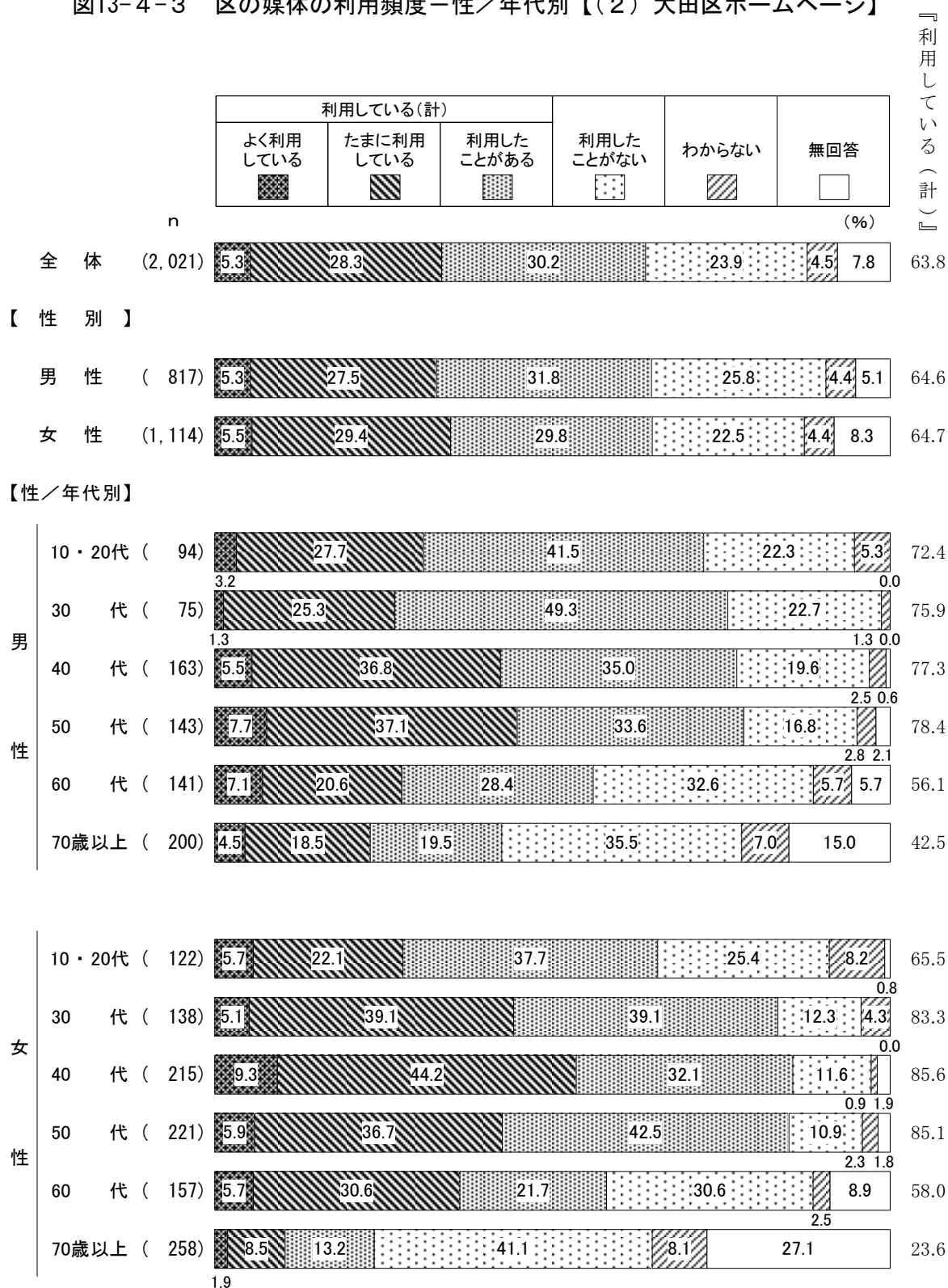


“おおた区報”を性別で見ると、『利用している(計)』は女性(73.9%)が男性(68.2%)より5.7ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『利用している(計)』は女性60代(84.7%)で8割半ばと高くなっている。一方、「利用したことがない」は男性10・20代(48.9%)で5割近くと高くなっている。

(図13-4-2)

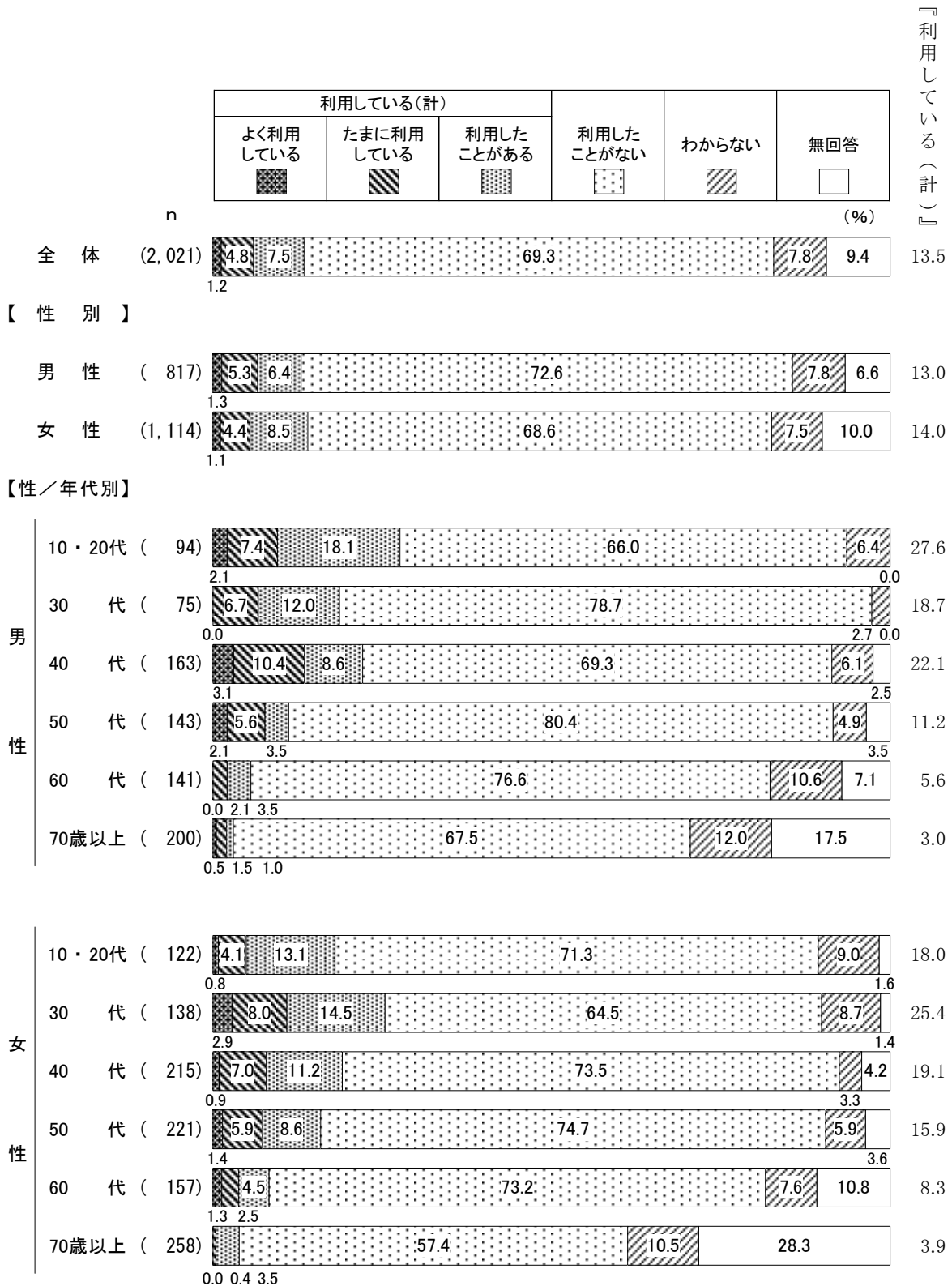
図13-4-3 区の媒体の利用頻度－性／年代別【(2) 大田区ホームページ】



“大田区ホームページ”を性別で見ると、「利用したことがない」は男性(25.8%)が女性(22.5%)より3.3ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『利用している(計)』は女性40代(85.6%)と女性50代(85.1%)で8割半ばと高くなっている。一方、「利用したことがない」は女性70歳以上(41.1%)で4割を超えて高くなっている。(図13-4-3)

図13-4-4 区の媒体の利用頻度－性／年代別【(3) 大田区公式SNS（ツイッター、LINEなど）】

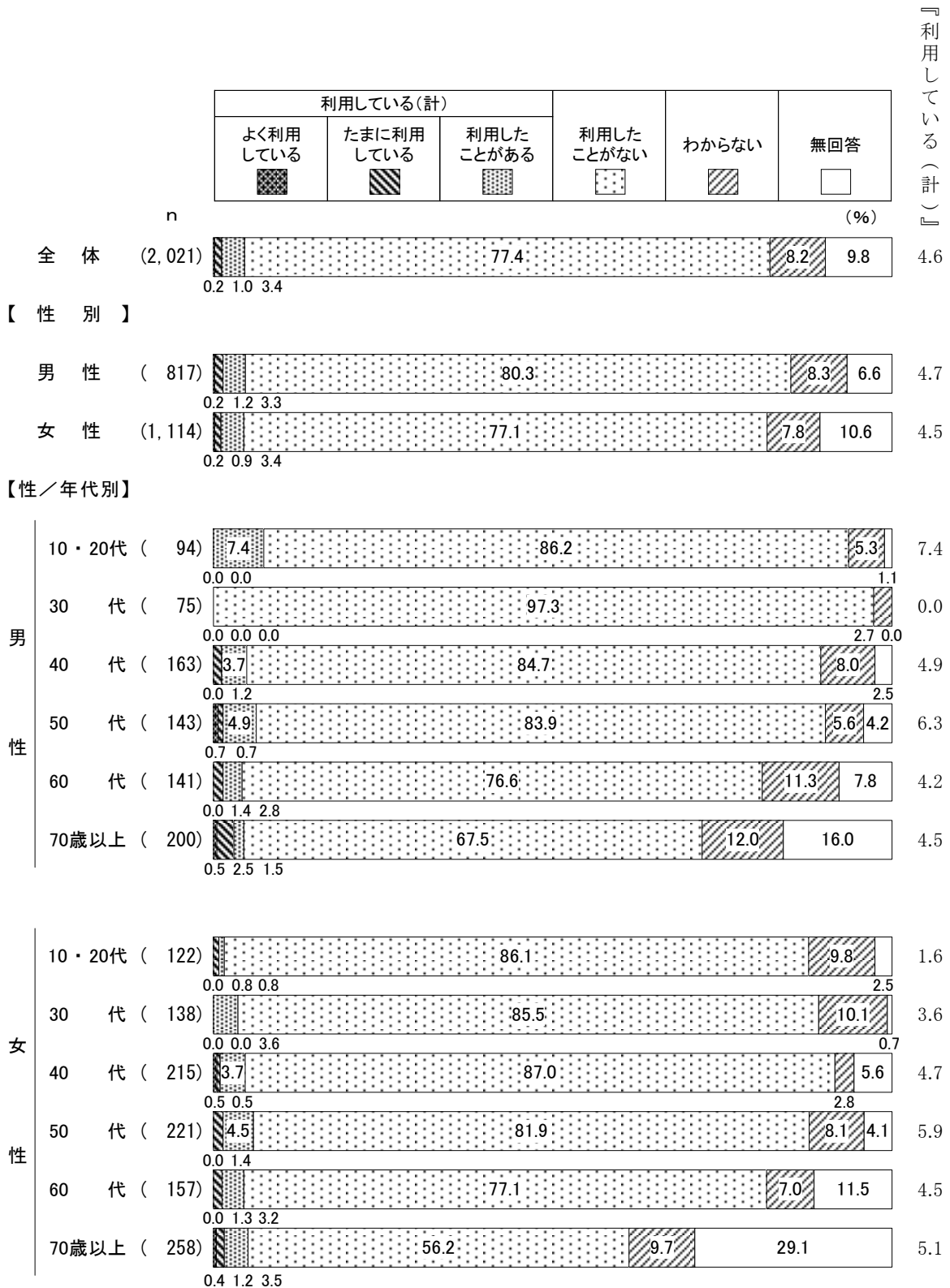


“大田区公式SNS（ツイッター、LINEなど）”を性別で見ると、「利用したことがない」は男性（72.6%）が女性（68.6%）より4.0ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『利用している（計）』は男性10・20代（27.6%）で3割近くと高くなっている。一方、「利用したことがない」は男性50代（80.4%）で8割と高くなっている。

(図13-4-4)

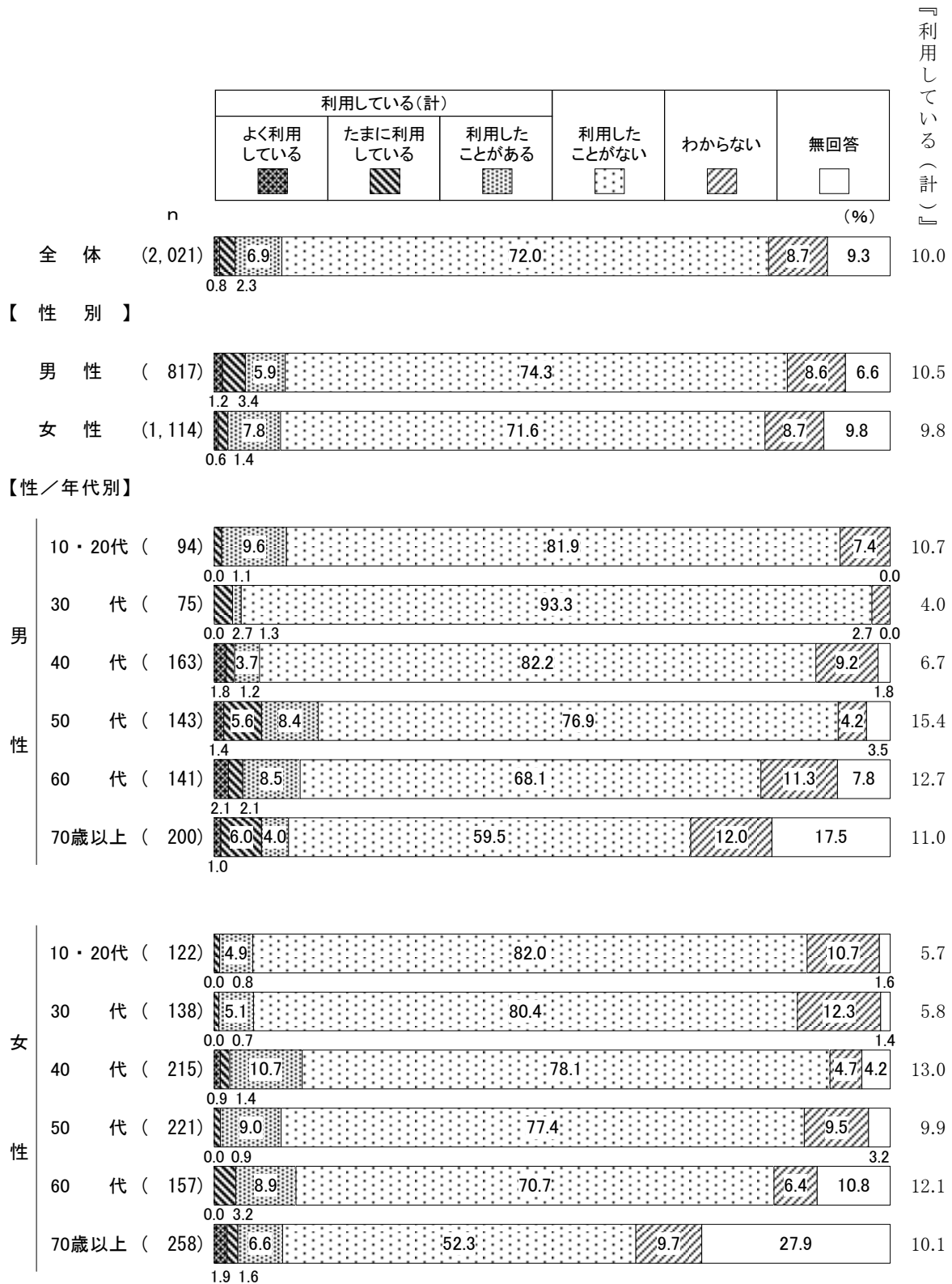
図13-4-5 区の媒体の利用頻度－性／年代別【(4) 大田区公式チャンネル (YouTube)】



“大田区公式チャンネル (YouTube)” を性別で見ると、「利用したことがない」は男性 (80.3%) が女性 (77.1%) より3.2ポイント高くなっている。

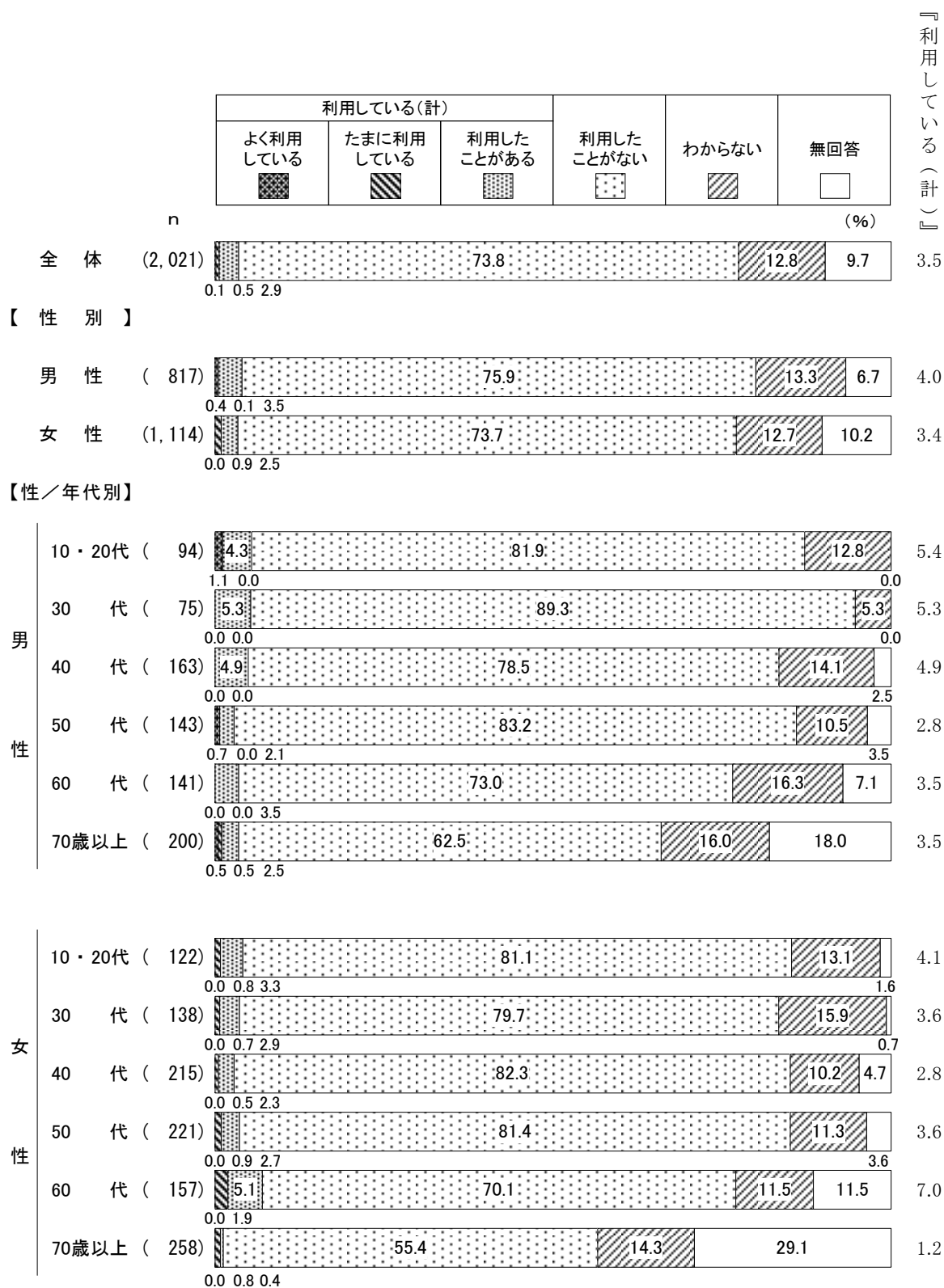
性／年代別で見ると、「利用したことがない」は男性30代 (97.3%) で10割近くと高くなっている。(図13-4-5)

図13-4-6 区の媒体の利用頻度－性／年代別【(5) ケーブルテレビ番組(「おおたシティニュース」)】



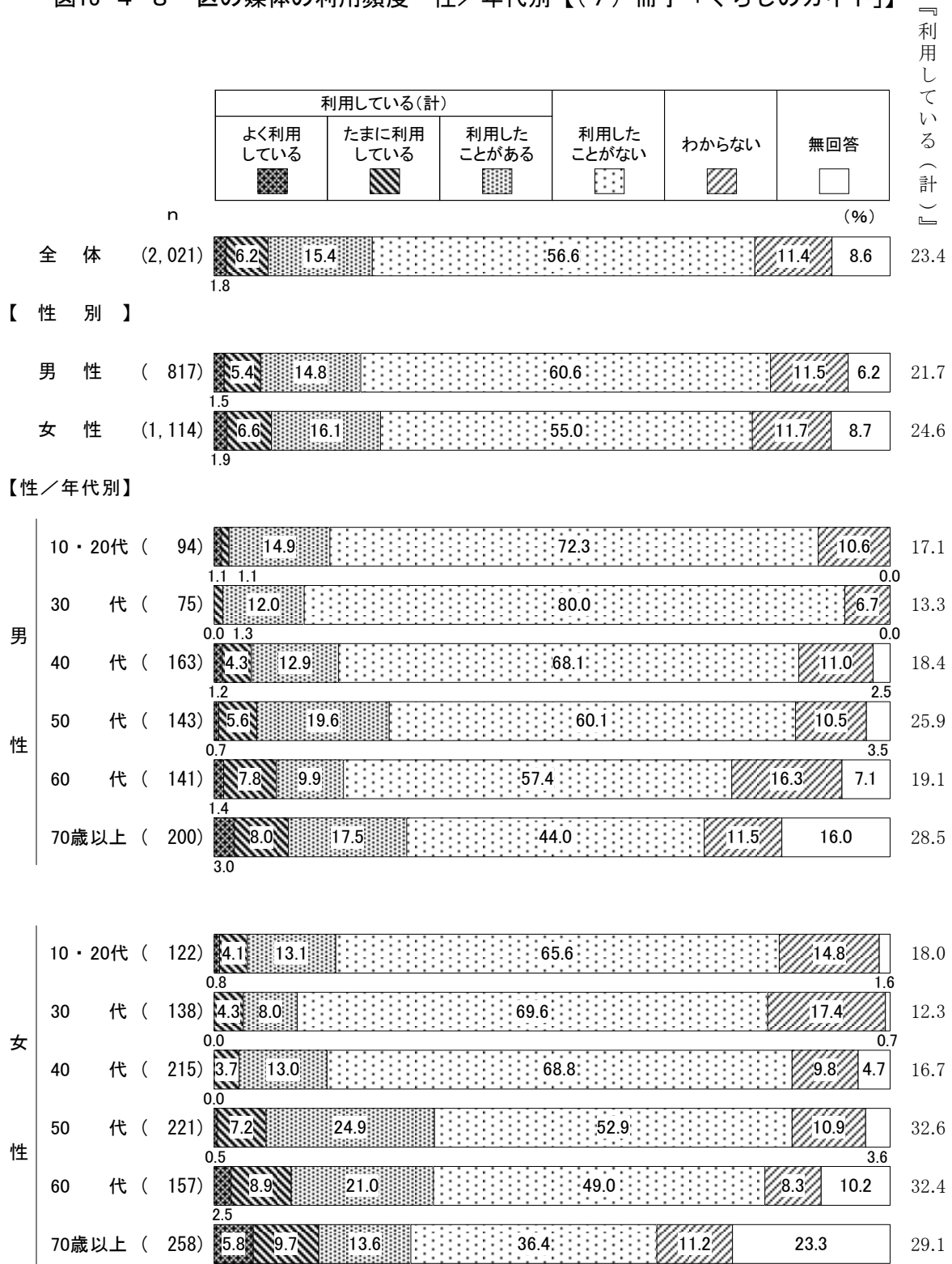
“ケーブルテレビ番組(「おおたシティニュース」)”を性別で見ると、大きな違いはみられない。性／年代別で見ると、「利用したことがない」は男性30代(93.3%)で9割を超えて高くなっている。(図13-4-6)

図13-4-7 区の媒体の利用頻度－性／年代別【(6) デジタルサイネージ（電子掲示板）】



“デジタルサイネージ（電子掲示板）”を性別で見ると、大きな違いはみられない。  
 性／年代別で見ると、「利用したことがない」は男性30代（89.3%）で約9割と高くなっている。  
 （図13-4-7）

図13-4-8 区の媒体の利用頻度－性／年代別【(7) 冊子「くらしのガイド」】



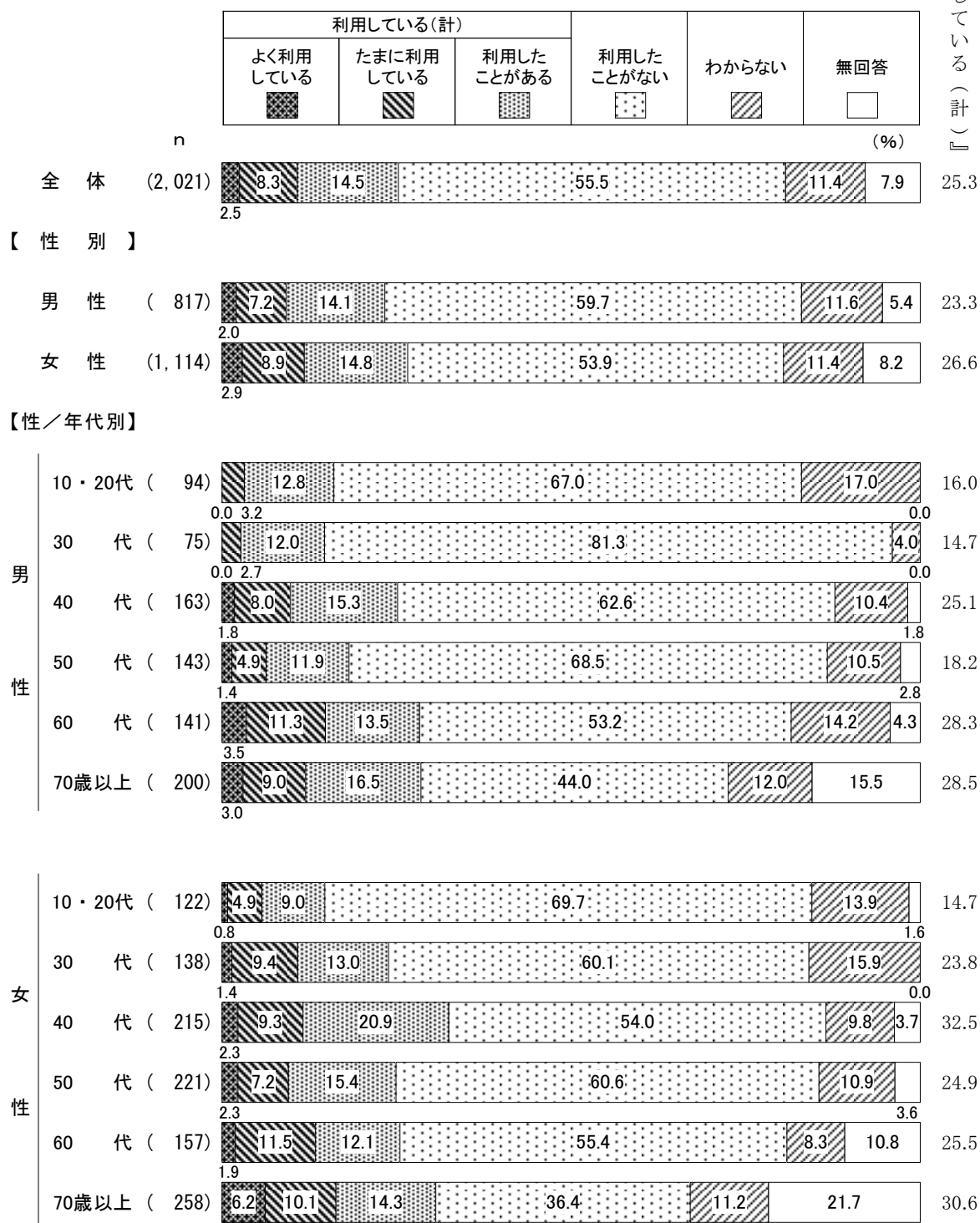
“冊子「くらしのガイド」”を性別で見ると、「利用したことがない」は男性（60.6%）が女性（55.0%）より5.6ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『利用している（計）』は女性50代（32.6%）と女性60代（32.4%）で3割を超えて高くなっている。一方、「利用したことがない」は男性30代（80.0%）で8割と高くなっている。（図13-4-8）



図13-4-9 区の媒体の利用頻度－性／年代別【(8) おおたふれあい情報】

『利用している(計)』



“おおたふれあい情報”を性別で見ると、『利用している(計)』は女性(26.6%)が男性(23.3%)より3.3ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『利用している(計)』は女性40代(32.5%)で3割を超えて高くなっている。一方、「利用したことがない」は男性30代(81.3%)で8割を超えて高くなっている。

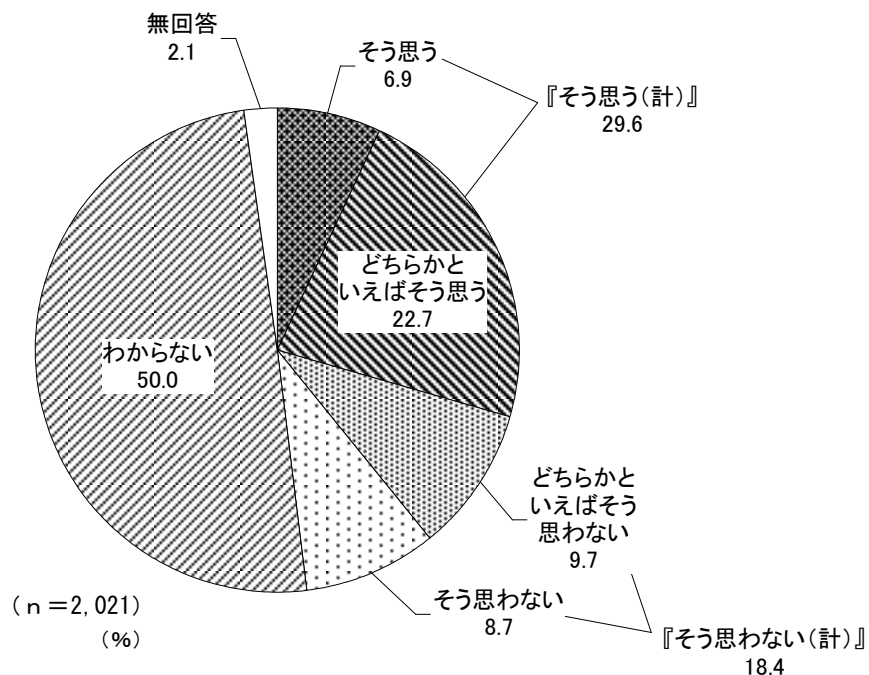
(図13-4-9)

### (5) 区の行政サービスや窓口への印象

◇「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は3割

問29 あなたは、大田区の行政サービスや窓口は以前に比べて使いやすくなった、便利になったと思いますか。(〇は1つだけ)

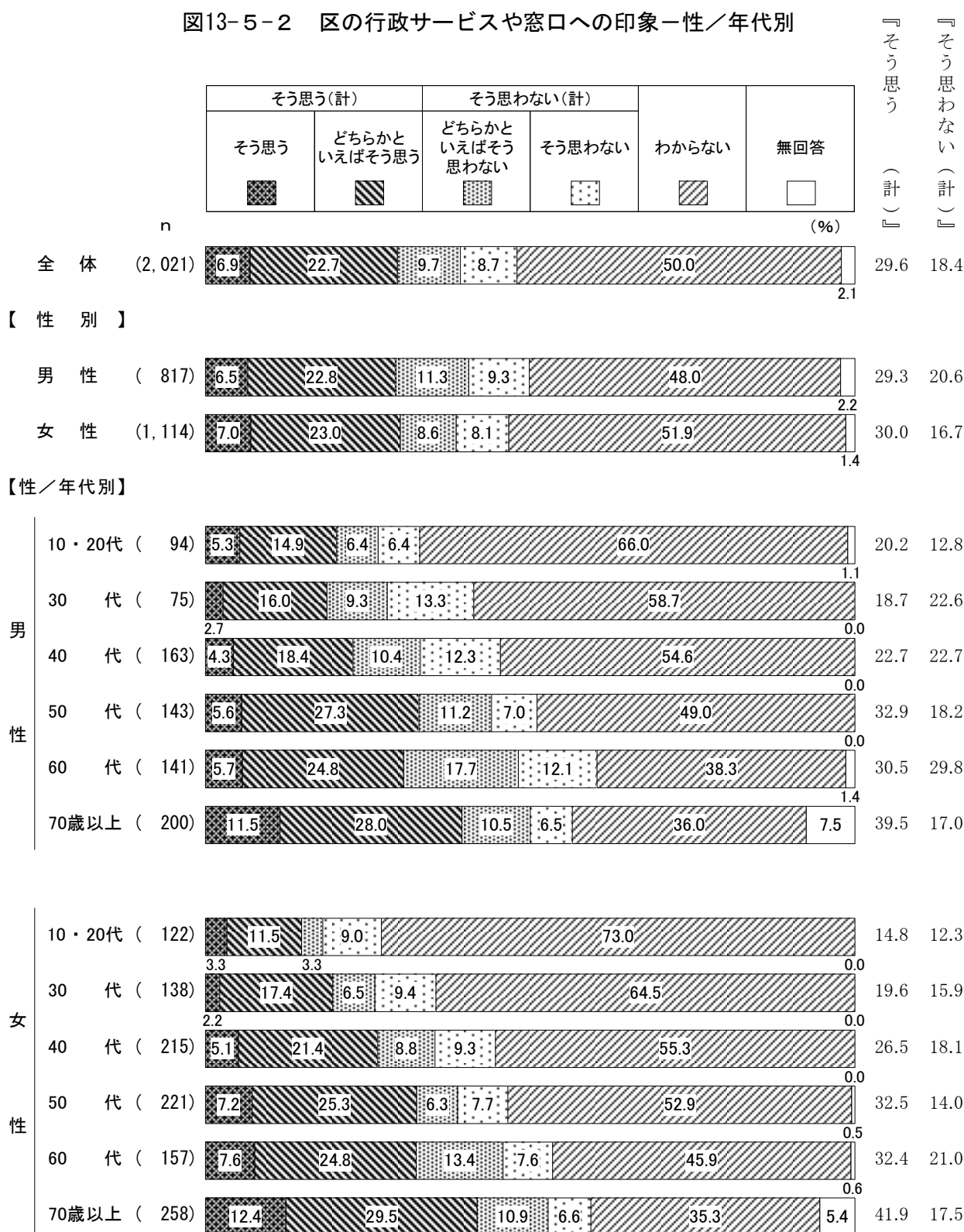
図13-5-1



大田区の行政サービスや窓口は以前に比べて使いやすくなった、便利になったと思うか聞いたところ、「そう思う」(6.9%)と「どちらかといえばそう思う」(22.7%)を合わせた『そう思う(計)』(29.6%)は3割となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(9.7%)と「そう思わない」(8.7%)を合わせた『そう思わない(計)』(18.4%)は2割近くとなっている。

(図13-5-1)

図13-5-2 区の行政サービスや窓口への印象－性／年代別



性別で見ると、『そう思わない(計)』は男性(20.6%)が女性(16.7%)より3.9ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『そう思う(計)』は女性70歳以上(41.9%)で4割を超えて高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は男性60代(29.8%)で3割と高くなっている。(図13-5-2)

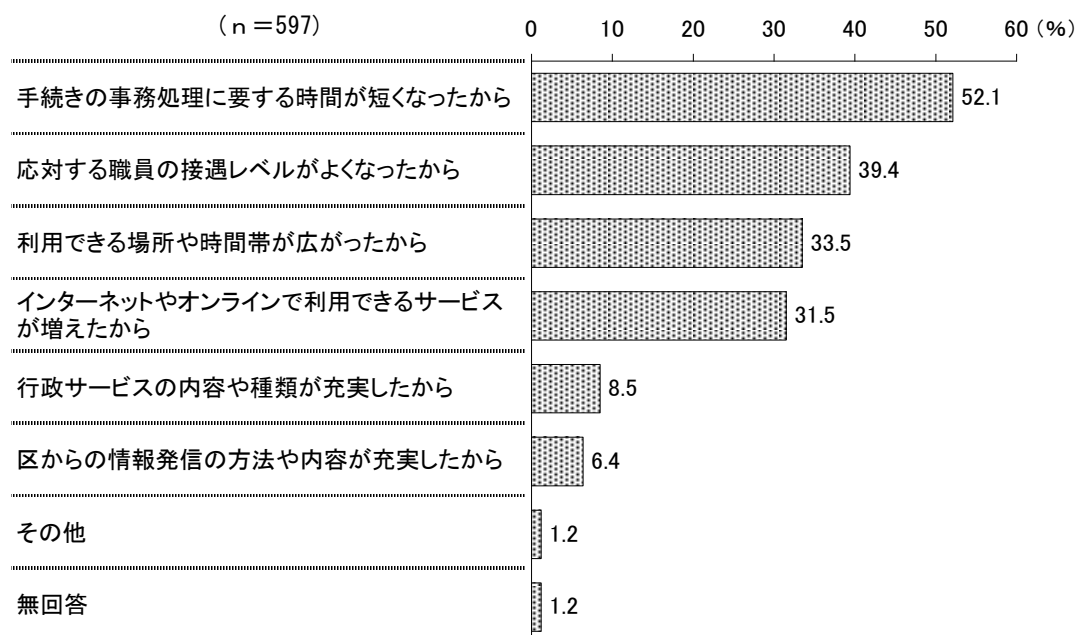
(6) 区の行政サービスや窓口が使いやすくなった、便利になったと思う理由

◇「手続きの事務処理に要する時間が短くなったから」が5割を超える

(問29で、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した方に)

問29-1 そのように思った理由は何ですか。(〇はいくつでも)

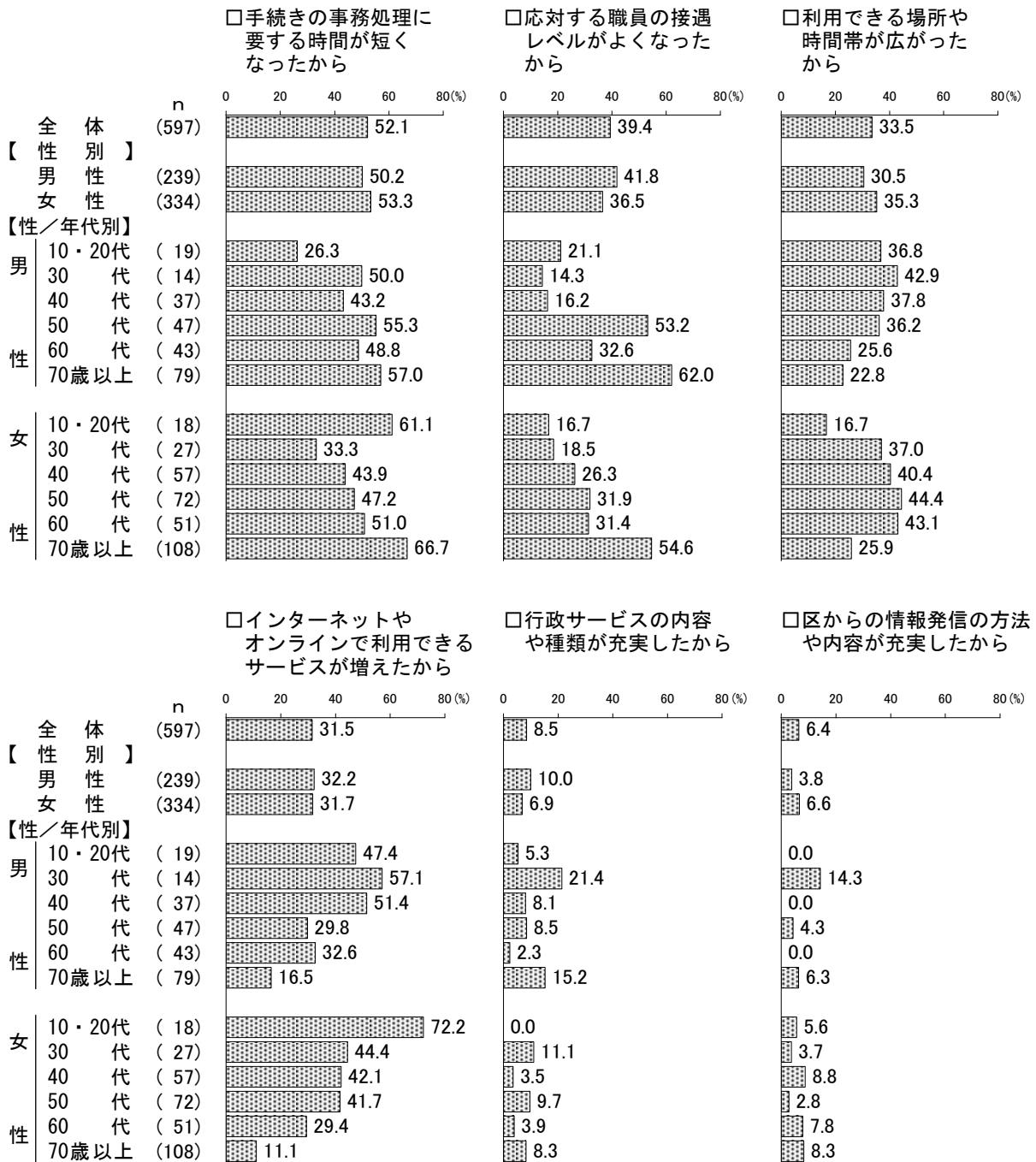
図13-6-1



区の行政サービスや窓口が使いやすくなった、便利になったと思うと答えた人(597人)に、その理由を聞いたところ、「手続きの事務処理に要する時間が短くなったから」(52.1%)が5割を超えて最も高く、次いで「応対する職員の接客レベルがよくなったから」(39.4%)、「利用できる場所や時間帯が広がったから」(33.5%)、「インターネットやオンラインで利用できるサービスが増えたから」(31.5%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「コンビニで書類が取得できるから」、「職員が親切」などがあげられている。(図13-6-1)

図13-6-2 区の行政サービスや窓口が使いやすくなった、便利になったと思う理由—性／年代別



性別で見ると、「対応する職員の接遇レベルがよくなったから」は男性（41.8%）が女性（36.5%）より5.3ポイント高くなっている。一方、「利用できる場所や時間帯が広がったから」は女性（35.3%）が男性（30.5%）より4.8ポイント高くなっている。

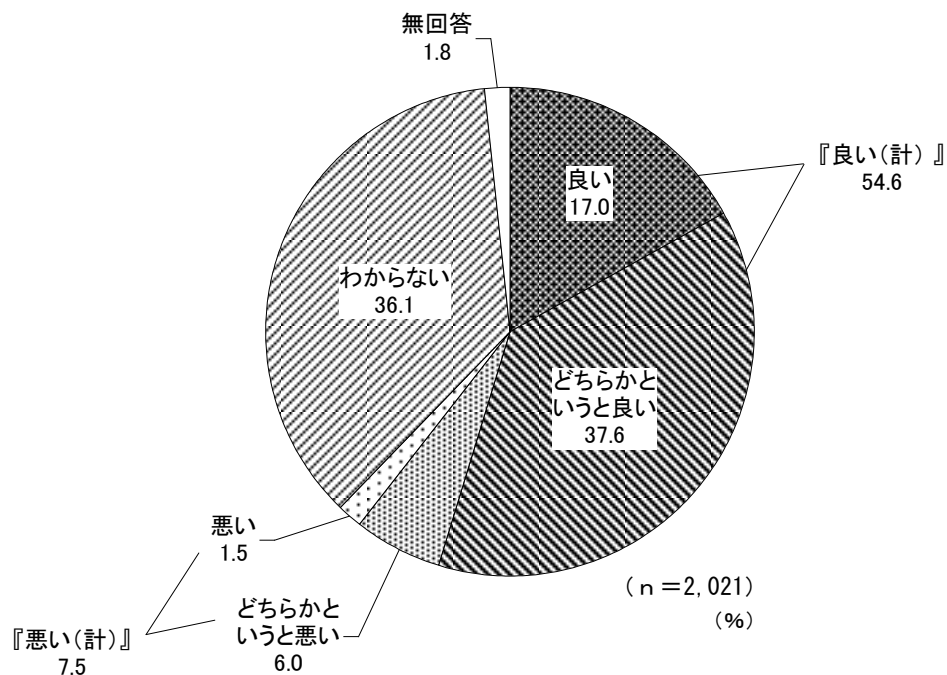
性／年代別で見ると、「手続きの事務処理に要する時間が短くなったから」は女性70歳以上（66.7%）で7割近くと高くなっている。「対応する職員の接遇レベルがよくなったから」は男性70歳以上（62.0%）で6割を超えて高くなっている。（図13-6-2）

## (7) 区の職員の窓口や電話対応への印象

◇「良い」と「どちらかというが良い」を合わせた『良い(計)』は5割半ば

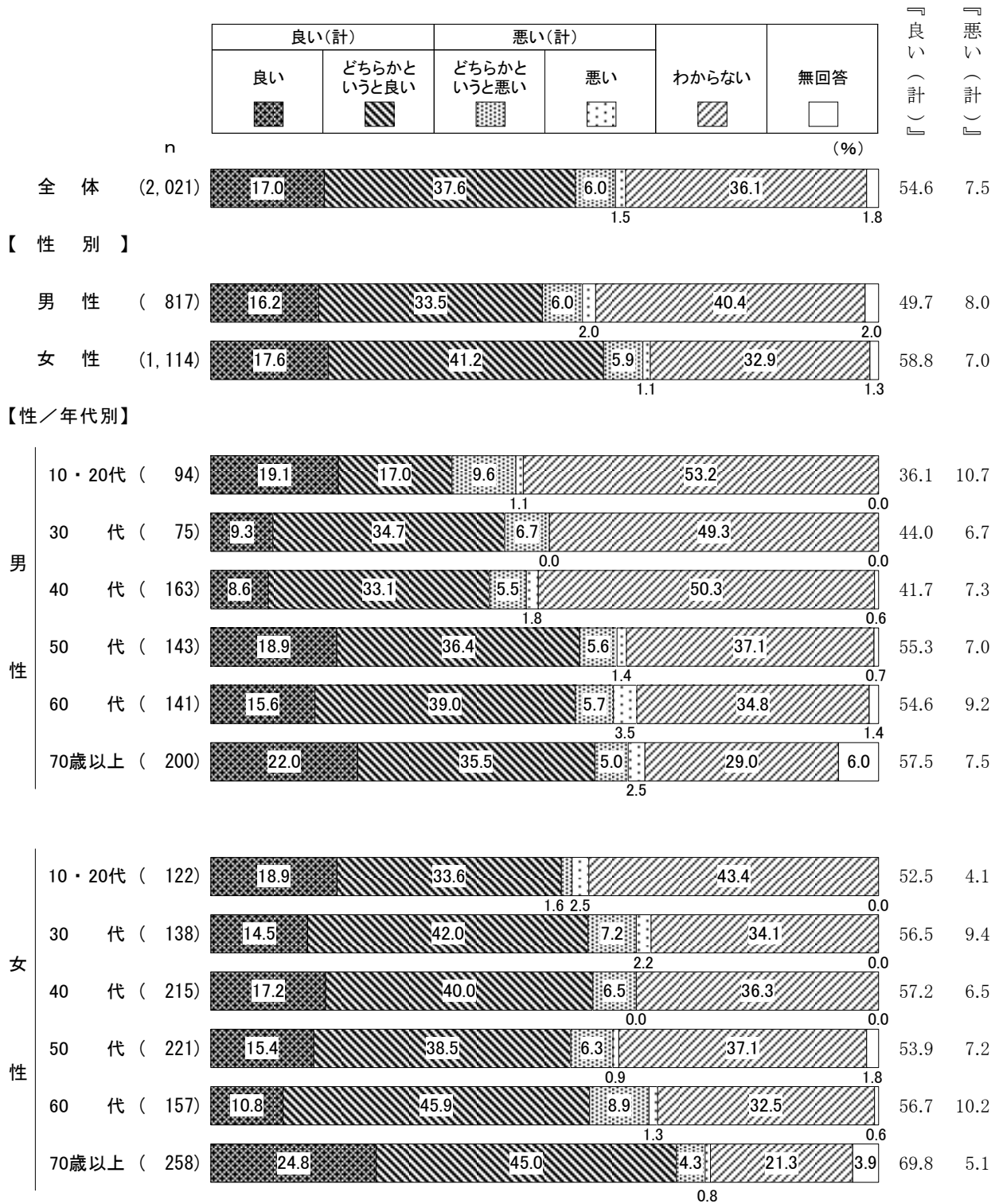
問30 あなたは、大田区の職員の窓口や電話での対応についてどのように感じていますか。  
(○は1つだけ)

図13-7-1



区の職員の窓口や電話での対応について聞いたところ、「どちらかというが良い」(37.6%)が4割近くで最も高く、これに「良い」(17.0%)を合わせた『良い(計)』(54.6%)は5割半ばとなっている。一方、「どちらかというが悪い」(6.0%)と「悪い」(1.5%)を合わせた『悪い(計)』(7.5%)は1割未満となっている。(図13-7-1)

図13-7-2 区の職員の窓口や電話対応への印象—性／年代別



性別で見ると、『良い(計)』は女性(58.8%)が男性(49.7%)より9.1ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『良い(計)』は女性70歳以上(69.8%)で7割と高くなっている。

(図13-7-2)

## (8) 区政への参加意向

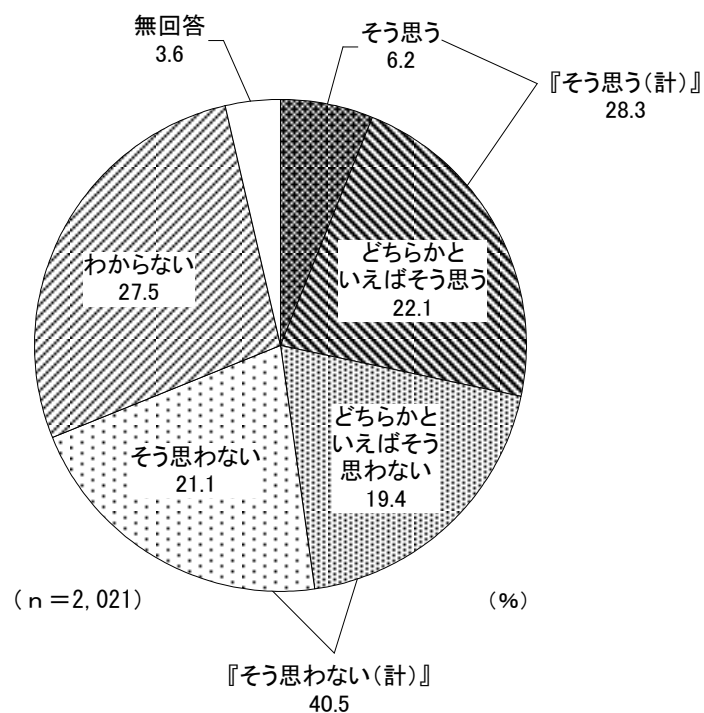
◇「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』は3割近く

問31 あなたは、何らかの機会や手段を通じて大田区政に参加したいと思いますか。

(○は1つだけ)

※ここでいう「区政への参加」とは、大田区が実施する区民向けのワークショップや委員会、審議会などの公募委員、区民意見公募手続き（パブリックコメント）への参加のほか、窓口・電話・メールなどを通じた区への意見・要望、住民説明会・意見交換会・シンポジウム・フォーラムへの参加、アンケートへの回答など、区が関係する幅広い機会・手段を指すものとします。

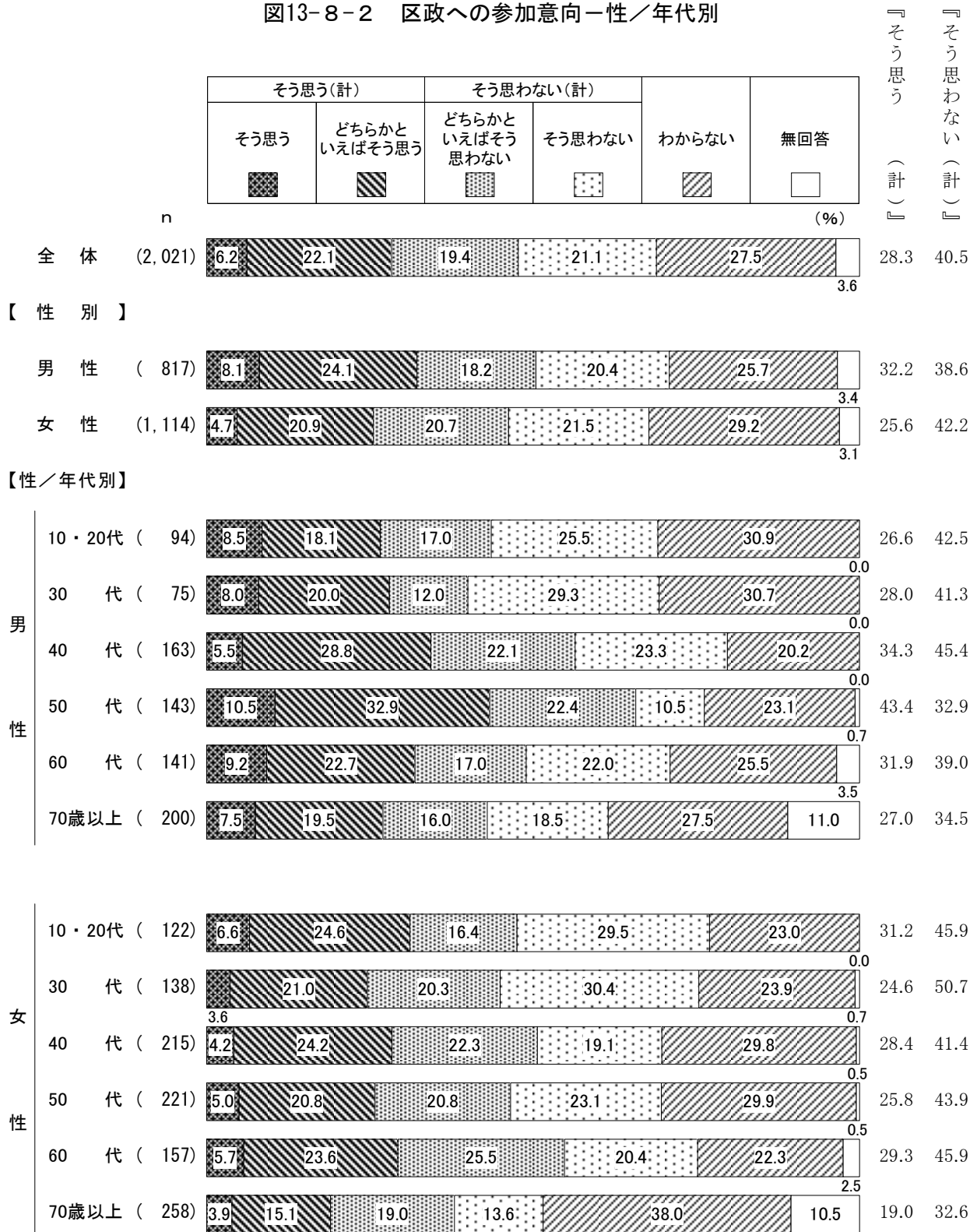
図13-8-1



何らかの機会や手段を通じて大田区政に参加したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(6.2%)と「どちらかといえばそう思う」(22.1%)を合わせた『そう思う(計)』(28.3%)は3割近くとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」(19.4%)と「そう思わない」(21.1%)を合わせた『そう思わない(計)』(40.5%)は約4割となっている。(図13-8-1)



図13-8-2 区政への参加意向一性／年代別



性別でみると、『そう思う(計)』は男性(32.2%)が女性(25.6%)より6.6ポイント高くなっている。

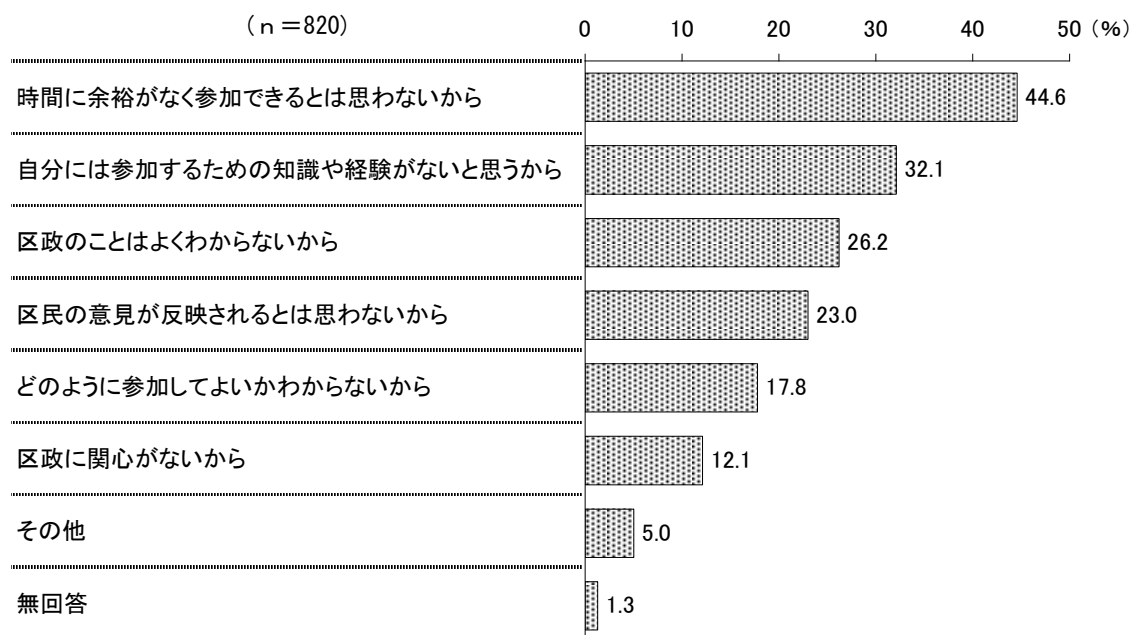
性／年代別でみると、『そう思う(計)』は男性50代(43.4%)で4割を超えて高くなっている。一方、『そう思わない(計)』は女性30代(50.7%)で約5割と高くなっている。(図13-8-2)

## (9) 区政に参加したいと思わない理由

◇「時間に余裕がなく参加できると思わないから」が4割半ば

(問31で、「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」と回答した方に)  
問31-1 そのように思った理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図13-9-1

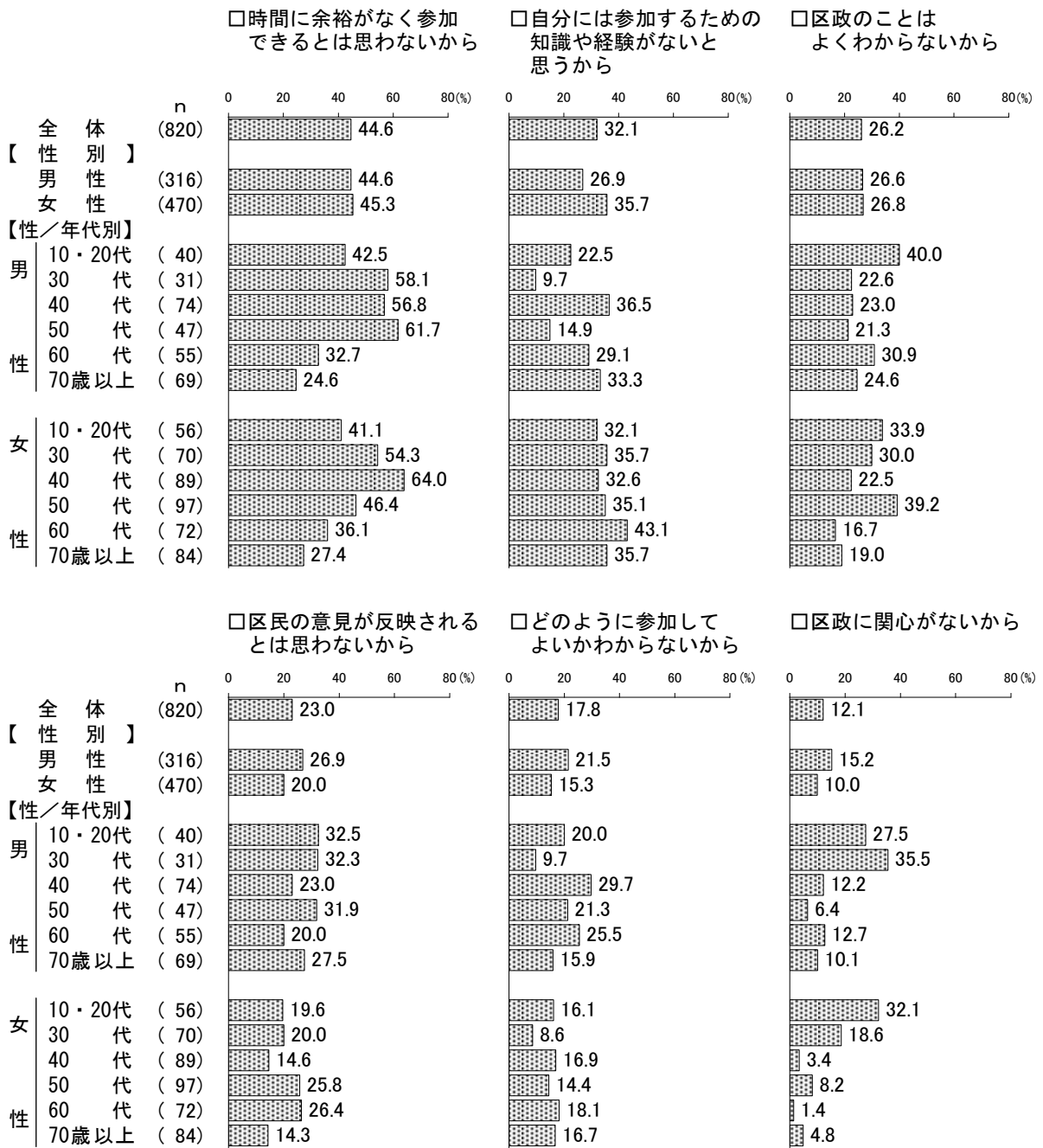


区政に参加したいと思わないと答えた人(820人)に、その理由を聞いたところ、「時間に余裕がなく参加できると思わないから」(44.6%)が4割半ばで最も高く、次いで「自分には参加するための知識や経験がないと思うから」(32.1%)、「区政のことはよくわからないから」(26.2%)、「区民の意見が反映されるとは思わないから」(23.0%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「高齢のため」、「健康上の問題」などがあげられている。

(図13-9-1)

図13-9-2 区政に参加したいと思わない理由－性／年代別



性別でみると、「自分には参加するための知識や経験がないと思うから」は女性（35.7%）が男性（26.9%）より8.8ポイント高くなっている。一方、「区民の意見が反映されるとは思わないから」は男性（26.9%）が女性（20.0%）より6.9ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「時間に余裕がなく参加できるとは思わないから」は女性40代（64.0%）で6割半ばと高くなっている。「自分には参加するための知識や経験がないと思うから」は女性60代（43.1%）で4割を超えて高くなっている。「区政のことはよくわからないから」は男性10・20代（40.0%）と女性50代（39.2%）で約4割と高くなっている。（図13-9-2）